

佐井より箱館、航路を開き、天保六年沖之口越法改革の事あり。同八年箱館回船入港千八十七艘出港千二百十五艘に達す。同年には箱館沖之口收納七千四百二十三兩餘、町役所收納七百二十兩餘に及び、嘉永五年輸出入物品口錢を増して三分とす。安政六年貿易の爲め箱館開港に決し、明治二年函館外三港海關所規則發布され、七年東京函館間定期航海を開始し、十一年より清國貿易は過半本邦商人の直輸出となり、二十四年横濱函館間定期航路を小樽に延長し、二十六年函館青森間定期航海を室蘭に延長す等の事あり。此間無論幾多の小變遷ありたるも窮極するに函館が其生命とする所の港灣の大利を確實に收めんが爲めの人爲的努力の發展に外ならざるべきを信す。故に曰く函館の海利を此上にも多く收めんと欲せば港灣の改修は勿論、海の幸を自然に享くべき迄の程度に歩を進むるを要す。尙換言すれば函館は天與の地勢が然らしむる自然の結果として、あらゆる海の利及び之に伴生する陸上の利をも自ら收むるの施設經營を完からしむるは是れ一に函館の富を形成する所以の道たる也。然して之が現實を期するは一に函館に於ける實業家（廣汎なる意義の上

●開業四十五年の老舗か如何に信用の下に
本業に熟達せるかを御試を請ふ

毛皮各種 毎年店員を派して露頭より仕入るゝ多數の毛皮數は非常の優良品にして價格又頗る低廉也

毛皮製革 熟練なる職工、加工の丁寧、親切、期日正確、送附の迅速

鞆類各種 各國流行新形の粹を集め体裁優美にして價格低廉尙各種の製作御注文に應ず

洋馬具及農馬具 形状流行新形品質の佳良、熟達の職工御注文品は迅速丁寧

●此外一切の品々勉強を旨として誠實に御便宜取計可仕候に付伺卒倍舊の御引立懇願奉候

函館區末廣町三十四番地(二十間坂角)

町小川長之助 電話(四七一番)

函館區高砂町十番地

町小川製革所 電話(二二九三番)

販賣品目

甘 果 野 乾 其
 薯 實 菜 物 他

商 號 **利**

函館區地藏町三十三番地

金井喜藏商店

電略(キ)又ハ(力子キ)
 電話四九九番

和洋雜貨各種帽子
 旅行鞆類其他

山 岡田小八郎

函館區末廣町廿八番地
 電話(九二二)

大 御 旅 館
 今村清三郎
函館區會所町十二番地

新式機械製造

豆腐

函館區惠比須町

菟 苜 豆腐製造工場

生麩

横山豊吉

其他細工豆腐精進料理一切

和洋菓子問屋

小西重太郎

食石川商店

こんにやく製造卸小賣

米雜穀石油白絞油

水苦汁豆腐製造品一式

水戸こんにやく粉

産地特約販賣

函館區通町五十一番地

より觀たる)の大責任たらざるを得ず。依て本書は特に此項を設けて如何に函館の富が分布せられ居るかを一般に知らさんが爲め左に事實を明記すべし。

▼函館商業會議所 當港商工業改進の機關として現存せる當所は明治二十二年平山文右衛門、小川幸兵衛等の主唱により區長より北海道廳長官に稟議し其同意を得て各商業組合、諸會社、銀行其他主なる商工業者に謀り一同協議の上六月町會所内に設立されたる函館商工會、之が前身にして此會は各商業組合の上に立ち商工業上の利害得失を研究し惡弊を矯め改良を圖り或は各官廳の諮問、各地商關係者の照會に答へ或は農商務省の囑托を受けて農商工事の通信を爲せる等其盡す所甚だ多かりしが二十三年商業會議所條例を公布せられ該條例第五條、第六條に商業會議所議員は所得税を納むる商人たるべき事を規定し又當時北海道は所得税を免除せられ居るを以て北海道に設立する商業會議所會員選舉權、被選舉權に關する財産上の資格は所得税に代ゆるに地方税を以てし其納額三圓以上と定むる旨達せられたれば同年九月之を創立し二十九年三月まで繼續したりし前

和洋菓菓子問屋

掛物和洋珍菓折詰
洋酒罐詰砂糖麥粉商

函館區地蔵町廿三番地

舎小西重太郎

電話(九十六番)

電略(コニシ又ハコ)

こんにやく製造卸小賣

米雜穀石油白絞油

水苦汁豆腐製造品一式

水戸こんにやく粉

産地特約販賣

函館區地蔵町五十一番地

倉石川商店

より觀たる)の大責任たらざるを得ず 依て本書は特に此項を設けて如何に函館の富が分
布せられ居るかを一般に知らさんが爲め左に事實を明記すべし

▼函館商業會議所 當港商工業改進の機關として現存せる當所は明治二十二年平山

文右衛門、小川幸兵衛等の主唱により區長より北海道廳長官に申請し其同意を得て各商

業組合、諸會社、銀行其他主要なる商工業者は謀り、同協議の上六月町會所内に設立され

たる函館商工會、之が前身にして此會は各商の組合の上に立ち商工業上の利害得失を

研究し悪弊を矯め改良を圖り或は各官廳の諮問、各地商の關係者の照會に答へ或は農商

務省の囑托を受けて農商工の通信を爲せる等其盡す所甚だ多かりしが二十三年商業會

議所條例を公布せられ該條例第五條、第六條に商業會議所議員は所得税を納むる商人たる

べき事を規定し又當時北海道は所得税を免除せられ居るを以て北海道に設立する商業會議

所會員選舉權、被選舉權に關する財産上の資格は所得税に代ゆるに地方税を以てし其納額

三圓以上と定むる旨達せられたれば同年九月之を創立し二十九年三月まで繼續したりし前

記商工會は函館商業會議所に一切引繼をなして解散せり。尙ほ三十五年三月商業會議所法の發布せらるゝや更に定款を議定し繼續の認可を経て今日に至れり。議員數は三十人にし

▼函館商工組合

明治十八年一月函館縣甲第一號を以て發布せられし商業組合例則は苟も人民生計營業上に大關係を有する商業は悉く組合を組織し舊來の弊習を洗濯し商業の面目を一新し着實の業務たらしめんことを企圖したるに由る。然るに同年八月農商務卿より同業組合は管下重要物産に限るべき旨令達ありて函館縣の商業組合例則と稍々其精神を異にする狀況を呈せしも俄に例則を改正するときは商業者の疑團を醸し不良の結果を生ずべきを恐れ姑く該例則の儘履行せしめたるが當道商業上の同業組合は前記創立以來漸次其數を増し從來區々の弊を改め益する所少なからざりしが動もすれば一致して物價を引上げるの弊を生じ而して此の弊は各府縣共にありしを以て農商務省は其弊に關し各地方廳に内訓する所あり北海道廳は之に基づきて同業組合には價格の一定を組合規約に定むること

を許されざるに至り各組合は稍々不振の狀況を呈せるも物産商組合、酒造組合、吳服太物商組合、米穀組合の如きは鞏固のものなりと稱せらる。現商工組合は右の外肥料間屋、酒問屋、和洋小間物商、倉庫業、米穀委託商、海産商、貿易商、金物商、醬油醸造、繩蕤商、雜穀商、魚商、空物商、薪炭商、質屋、木材商、藥業、染業、菓子商、旅人宿、漁網商、紙商、運送解業、肉商、麵類商、船主同盟會、凍氷採收營業、鍛冶業、料理店、海陸物産仲立業、洋服業、函館驛運送業、造船業、大鋸職、沖商、西洋洗濯業、刻昆布同業、通船の四十三組合加盟の函館商工組合聯合會は四十四年四月區内商工業者雇人獎勵の目的を以て創立したるものにして本年(大正元年)八月二十八日公會堂に於て同會主催の實業家雇人選獎式を擧ぐ。尙ほ當區各種組合にして前に記載漏れとなりたる組合は水産、時計商、左官職、千代盛、直輸入品取引同盟、馬車製造、鯧改良水産、石工、石油、函館産牛馬、鐵業細工業、海陸物産間屋、古物、人力車營業、下宿屋、木賃宿、函館區外四郡聯合牛馬賣營業、郵船會社構内請負人、露領沿海州漁業、水産、擇捉漁業、浴場同

業、料理職、樺太建網漁業水産等にして組合總數六十二、五千百四十三人の組合全員を有せり。又此等各種組合に於ける一ケ年の經費は實に四千百七十八萬圓余(最近の調査に係)に達す。

田中正右衛門氏

今函館の富を公に代表すべき人を求めんか其人、實に稀なりされど氏の如きは恐らく其の一人たり。氏は天保十一年十二月越前國坂井郡新保浦に生る。幼名を喜三郎と稱す。永谷勘三郎氏の次男なり。家、世々質商を營み二十歳にして所有の商船四艘を以て主に大阪北海道各港との通商に従事す。明治八年偶々函館廻船問屋田中家を相続することとなり専ら養家の業を繼承し傍ら漁業を経営せり。十年函館に創めて銀行業を開設するに該り杉浦嘉七、村田駒吉、泉藤兵衛の諸氏と謀り之れが設立委員となり翌年一月第百十三國立銀行を開業し選ばれて取締役兼支配人となり又從來の間屋業及漁業は十九年家政整理に際し爛眼なる氏は早くも時代の推移を看取して廢業せり。氏は更に二十六年第百十三銀行頭取に推

され爾來今日に至る。

略歴は左の如し

- 函館私立商船學校設立世話係囑托(明治十年)
- 函館支廳より相場會所委員申付らる(同年十一月)
- 函館區總代人に當撰(十三年九月)
- 區會の創設に際し函館區會議員に當撰(十四年一月)
- 北海道共同商會創設に際し頭取に就任(十七年一月)
- 函館漁船會社社長に推さる(二十一年三月)
- 北海道廳より函館商業學校商議委員囑托(二十三年三月)
- 函館港築堤委員囑托(二十七年)
- 平安遷都千百年記念祭協賛



田中正右衛門氏全家園圖

會委員囑托（同年五月）函館商業會議所議員に當撰（同年十二月）株式會社函館貯蓄銀行を創設し株主より撰ばれて取締役取に就任（二十九年五月）函館商業會議所理財部々長に當撰（同上）函館區史編纂委員囑托（四十四年）

尙ほ明治九年より同四十三年に至る迄の間、官廳、公共團體、組台等より受領したる褒狀賞與は銀盃三個、木杯卅六個、賞狀十八、謝狀四十八に及ぶ。又、明治十四年 先帝（明治天皇）函館御巡幸の際、北白川宮能久親王殿下御旅館仰付られ御滞在三泊、御手當として百疋並に羽二重一疋、宮内省より下賜さる。能久殿下よりは特に御揮毫の大幅地を賜はりたるは至上の榮譽といふべし。而して氏が是れ迄、公共事業に寄與せられたる金物は其數、擧げて算ふべからず。氏は現に函館區天神町七十五番地に華美、宏壯なる邸宅及庭園を構へ函館に於ける過去の名譽を身に収むると共に今は後進者に事を托し唯自ら好める丹青其他に想ひを致し俣山の號あり以て所謂悠悠々自適の生活を續くるの地位に在り。函館の長者たる氏の生涯は之を「榮達」の二字を以て優に説明し得るものと信す。

相馬 哲平 氏

函館に於ける富の總本家、否北海道屈指の實業家を以て目せらるゝ氏は函館區大町に現住し天保四年五月一日新潟縣北蒲原郡乙村字荒井濱に生まる。氏の渡道を見たりしは文久元年即ち二十六歳の折にして明治十七年迄は當區に於て最初より營める米せざるに依りて心事を誤解するの基ともなり又其眞意を肯定するの因となるべきを疑は



す。されど氏の如く公の經濟上にまで節儉なるは殆んど稀なり。是れ氏が今日の富を致せる唯一の要訣にして自ら手に汗して得るといふ努力主義は終生堅く貫かんとする氏の生命なりとして常に之れが現實を期するは勿論、所謂精力の權化として我財界に企業資金を多く融通せしむる本道の金主たり。氏は二十八年より第百十三銀行取締、四十一年より函館貯蓄銀行頭取に就任、外に日本赤十字社有効社員として推重せらる。氏が是れ迄公事業に寄與したるもの、内、三十六年區役所建築に際し敷地全部、四十二年公會堂建築費五萬圓を寄附したるは共に函館區の公事業を完成せしむる上に於て大なる義舉と認めらる。尙ほ其他に在りては三十七八年日露戰役に際し恤兵金として一萬五千圓、出征軍人後援會に千圓、函館慈惠院に一萬圓、濟生會に三萬圓、近く郷里新井濱小學校に教育基金として一萬圓の寄附金を私財の中より割くと共に前掲以外にも亦多くの寄附出金ありて今は單に一代の富豪たるに止まらず一方に於て函館の大なる慈善家と自然に謳はれつゝあり。されば氏は身一代にして巨萬の富を得たりし人傑なるに加へて好く散財の道を誤まらざるの

公共心に富めるを見る。氏は更に力行家として函館に高名を博し其の如何なる日と雖も自ら勤務を缺かすことなく數十年間、幾んど一日の如く精勵刻苦、業務を完たからしむるに致々たり。今、若し氏を評するに最も適當の語を求むるとせば「身は是れ汗の人」とも稱するを得べし。殊に本年、百萬圓の株式會社を一手に起して名づくるに相馬銀行を以てし現に政府より設立認可の指命を受けて近く營業を開始すべき準備中なるが早晚開業の曉には勿論、函館の財界に多大の貢獻あるべきを疑はず。氏は四十四年八月、皇太子殿下（今上陛下）函館區行啓に際し當時の御旅館たる公會堂は全部氏の寄附によりて建られし函館區の公有財産なるが斯る公共心に富める人物の函館に現住せるを御聽きあらせらるゝや畏くも特に御旅館内に御召出しに相成り、殿下の御手許より御下賜品を戴くの光榮に浴せしは北海道にて唯一人なりとす。以て氏の榮譽が如何に大なるかを明知し得るならむ。

小橋 榮 太郎 氏

函館區の出身者にして現時中央の政界に威名を博するは氏を以て随一とす。氏は慶應元年函館に生れ若冠にして地方の政事に奔走し明治二十七年一月七日曙町に本社を置き自ら「めざまし」なる新聞を創刊し二十八年中更に紙幅を擴張し三十年中本社を東濱町十九番地に移し三十一年七月



前代議員 小橋 榮 太郎 氏

設に盡力し遂に今日函館區民をして立憲制體の本義を解せしむるの素因をつくり三十七年中本社の一部を一時海岸町に移し四十年の大火後東濱町三十二番地に於て依然日刊新聞を

中再び紙面の改良を圖り題號を函館日日新聞と改め之れに社主たり。三十三年故平出喜三郎氏等と同く立憲政友會函館支部創

發兌す。氏は此の間に於て會て函館區會議員の職に在り。當時好く衆人に拔んで、讓謬の論を主張し又函館區より選ばれて北海道會議員となり道會副議長として論客の名を身まにしたるのみならず北海道の重要問題討議の場合には眞に牢乎として抜く可からざるの氣概と健實なる意志とを示せり。四十一年五月氏は本道百餘萬の衆民に推されて函館區より代議院に列せしむるの名譽を擔ひ常に衆議院に在て北海道經營案及諸問題の提案あるに際し自ら論戰中の人となり辯論駁說大に努むる所あり且つ函館區に現立せる渡島開發期成同盟會唯一の目的たる長萬部鐵道敷設速成建議案並に之が陳情請願等北海道地方有志の力に依りて致さるゝ際には政府當路者と各政黨政派有力者間に介在して宜く斡旋の勞を採りしものと認めらる。氏は四十四年九月自己經營の新開社を更に地藏町十一、二番地に移せしかと今は之が經營を他に収むると共に先年來、大成効を見たりし硫黃鑛山事業の發展を期するの傍ら多日大に社會の風潮に掉さして更に捲土重來の意氣を實現せしむべく抱負の高きを見る。

松 下 熊 槌 氏



松 下 熊 槌 氏

氏は安政四年十二月二十八日福岡縣豐前國門司市門司町千八十六番地に生まれ初め明治十三年三日開拓使御用係准判任官に身を起し十五年三月札幌縣九等屬に任せられ同年五月大日本水産會々頭二漁業調査上功勞不悞、賞として金八十圓を給與せられ二十九年八月支配人依願解職と共商業を營み専ら毛皮の海外輸出に従事し今猶繼續し三十五年十月函館商業會議所議員に

品嘉彰親王殿下より漁撈學藝委員委囑せらる。二十四年帝國水産株式會社函館出張所支配人となり二十七年十一月臘臘膺

同年十二月函館區會議員に何れも當選、累選現職に在り。又同年函館商業會議所議員及函館區學務委員に當選、爾後四十四年十二月迄累選在職し三十六年七月函館船渠株式會社監査役に當選、累選現職に在り。三十八年二月函館商業會議所副會頭に當選、同年六月函館稅務署管内所得調査委員に當選、累選在職し同年十一月札幌稅務監督局管内所得審査委員に當選現職に在り。四十年四月社團法人函館教育會理事(副會頭)に當選す。四十一年十月函館商業會議所議員再選、同年十一月其副會頭に推され四十二年九月函館區選出北海道會議員に當選今尙在職。四十三年七月函館稅務署管内函館區部宅地借賃價格調査委員選舉人、同年八月函館稅務署管内函館區部宅地借賃價格調査委員、四十四年十二月函館區常設委員に各當選現に同職に在り。氏は函館の公人として心事高潔、又實業家として眞に出色の人物たり。現住所は函館區階町。

岡 本 忠 藏 氏

氏は安政四年五月六日千葉縣銚子に生る。明治十七年七月千葉縣水産集談會員に擧げられ

同年十一月同縣銚子水産商組合を組織し水産物肥料の改良を企て推されて其頭取となる。十八年一月千葉縣知事船越衛より勸業諮問員を囑托せられ其年大日本水産會總裁宮殿下より地方通信員及び地方世話係を委囑せらる。二十

一年三月宮城縣主催一府九縣水産共進會審査委員に擧げられ二



岡本忠藏氏

し港網の製造を奨励して之を北海道に販賣の途を開けり。二十四年七月函館區未廣町二番地(現住所)に商店を設け肥料海産物雜穀及漁網業を營む。三十一年函館肥料問屋組合を組織し肥料の改良發展を圖り其組長に擧げられ三十三年函館物産商組合副取締に當選し

十一年五月船越千葉縣知事と縣下打續く不漁に漁民の糊口に窮する者尠なからざるを以て之れが救済の爲め北海道漁場を視察

三十五年十月函館商業會議所議員となり其會頭に推される。三十六年五月函館商業會議所の決議に依り露滿韓貿易視察の爲め上海より楊子江一帶及北清滿洲より露領に入り韓國を視察して同年八月二十四日歸朝、其年農商務大臣より大連に於て本邦人の豆粒製造に關し其利益調査方を囑托せらる。同年北海道廳長官より支那貿易調査を囑托せられ三十六年七月函館船渠株式會社取締役に當選し累選現職に在り。同年大藏省より札幌稅務監督局營業稅審査委員に任命さる。三十七年日露戰役軍人家族保護會委員に擧げられ同年十月函館商業會議所議員に當選し以て會頭に累選す。其年函館慈善醫院監事に擧げられ卅八年函館地方裁判所管内破産管財人を命ぜらる。同年十一月函館區會議員選舉立會人に選任。同時に函館區地價修正調查會設立に際し副委員長に當選、三十九年八月全國商會會議所聯合會々長に推され三十七年より函館水電株式會社創立を主催し調査實測經營の上三十九年十一月會社成立し選ばれて取締役となり累選現職に在り。同年函館區海陸連絡設備調查委員に當選在職、四十年一月函館商業會議所特別議員に官選せらる。四十一年十一月函館商業會議

所議員に當選し次て會頭に當選現職に在り。四十二年二月大藏省より札幌稅務監督局營業
 稅審查委員に任命さる。其年四月函館教育會監事となり同年五月北海道女子教育獎勵會
 名譽會員に推され四十二年八月九日内閣より日本大博覽會評議員仰付らる。全年八月二十
 八日同仁會北海道支部函館委員部長に囑托せられ同年十二月渡島開發即成同盟會設立
 に際し副委員長に擧げらる。四十三年二月九日日本體育會北海道支會函館支部評議員に囑
 托せられ同年七月函館區宅地賃賃價格調査委員選舉人に當選し其年八月同調査委員となり
 同年十一月函館商業會議所會頭に當選す。四十四年三月大藏省より滿三ヶ年間札幌稅務
 監督局管内函館稅務署管内營業稅審查委員を被命、同年五月 東宮殿下行啓記念として第
 二回函館外五郡馬匹共進會及畜産共進會開催に付該會長河毛三郎より該會評議員を
 囑托せらる。同六月函館區役所より 皇太子殿下奉迎送準備委員を囑托せられ八月二日北
 海道廳長官石原健三より東宮太夫波多野敬直の命を傳へ同二十一日午後六時 東宮御旅
 館（公會堂）に出頭の命に依り同日時參上、波多野東宮太夫より多年商工業に盡力の段

皇太子殿下御満足に思召され尙滋盡力せらるべき令旨を拜し茶菓の恩賜を 恭ふす。
 四十五年三月函館商工聯合會名譽會員に推され同年四月函館區港灣調査委員に當選。同
 月國幣中社函館八幡宮造營會副會長に當選。大正元年十月十五日函館商業會議所議員
 に再選。氏は函館實業家中、眞に異彩を放てる人物たり。

有江金太郎氏

函館唯一の鑄物工場を有し常に貧窮民の施主として衆人に渴仰せらるゝ氏は安政五年三月
 二十日加賀國金澤川上新町三丁目に生る。初め製鐵事業に従ひ明治十八年一月本業開始の
 目的を以て函館に來り現に東川町に硫黃製煉釜鑄造事業の一大工場を開設し盛んに斯業の
 開業に努むるの傍ら函館區の公務に參與し各方面に推重せらる。氏は三十七年十月十五日
 函館商業會議所議員に三十八年十二月一日函館區會議員二級に何れも當選、三十九年十月
 九日函館商業會議所議員選舉委員を北海道廳より任命せられ其年十一月二十四日函館商業
 會業所常議員に當選、四十一年六月九日全國商業會議所聯合會へ函館商業會議所代表委員

として出席し同年八月十六日札幌函三會議所協議會に同じく代表委員として出席す。四月
 一年十月十五日函館商業會議所議員に再選同年十一月十六日同常議員に當選し其年十二月
 九日函館區海陸
 聯絡調査委員に
 就職、四十三年
 四月二日函館區
 常設委員補缺選
 舉に當選、同月
 九日函館區宅地
 並常設委員たり。
 尙ほ氏は函館知名の工業家として實業界に貢献しつゝある實證は別記
 に在り。



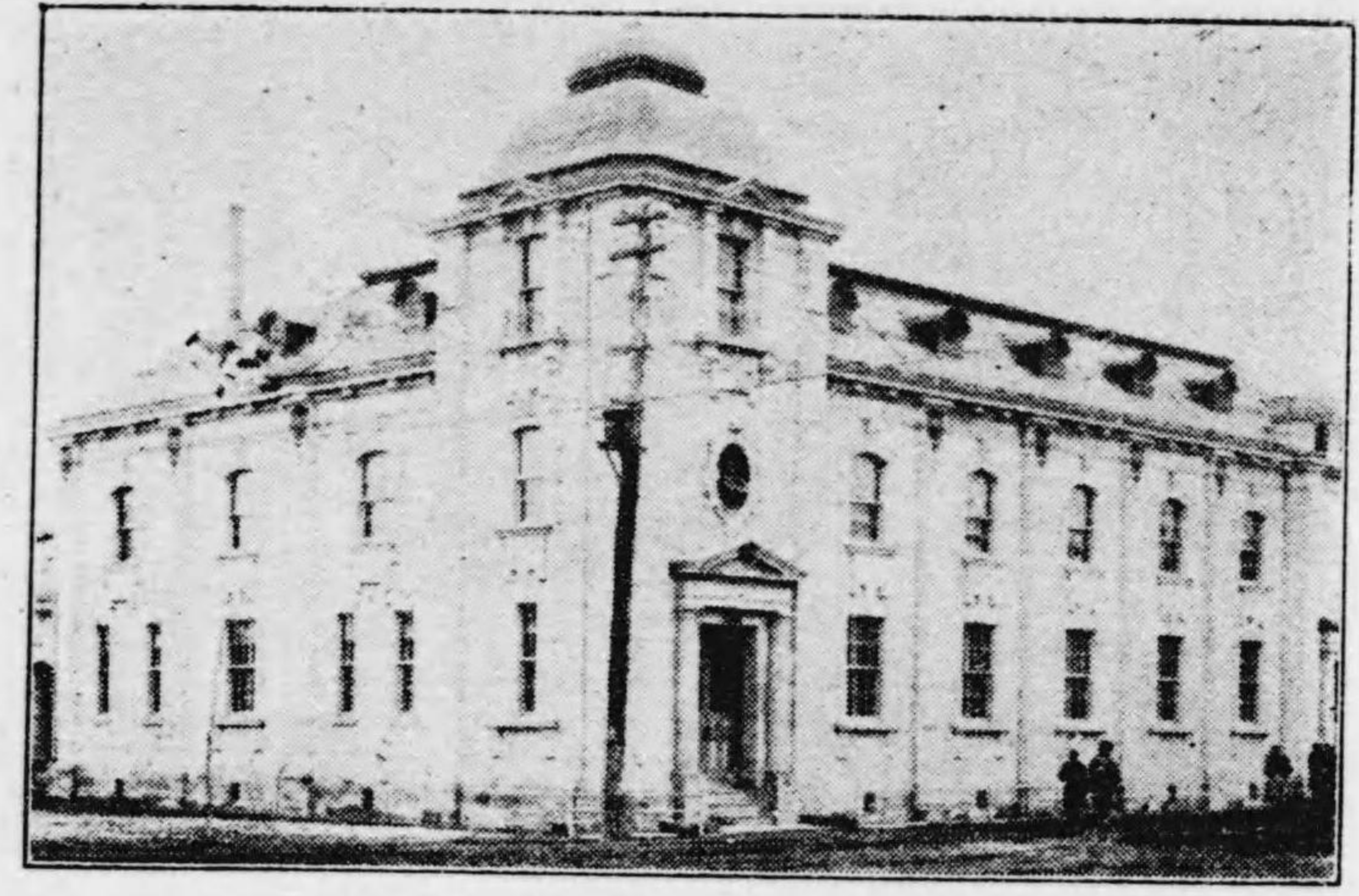
有江金太郎氏

に就任、同年十月
 十五日執行せる函
 館商業會議所議員
 選舉委員を北海道
 廳より任命せられ
 現に函館區會議員

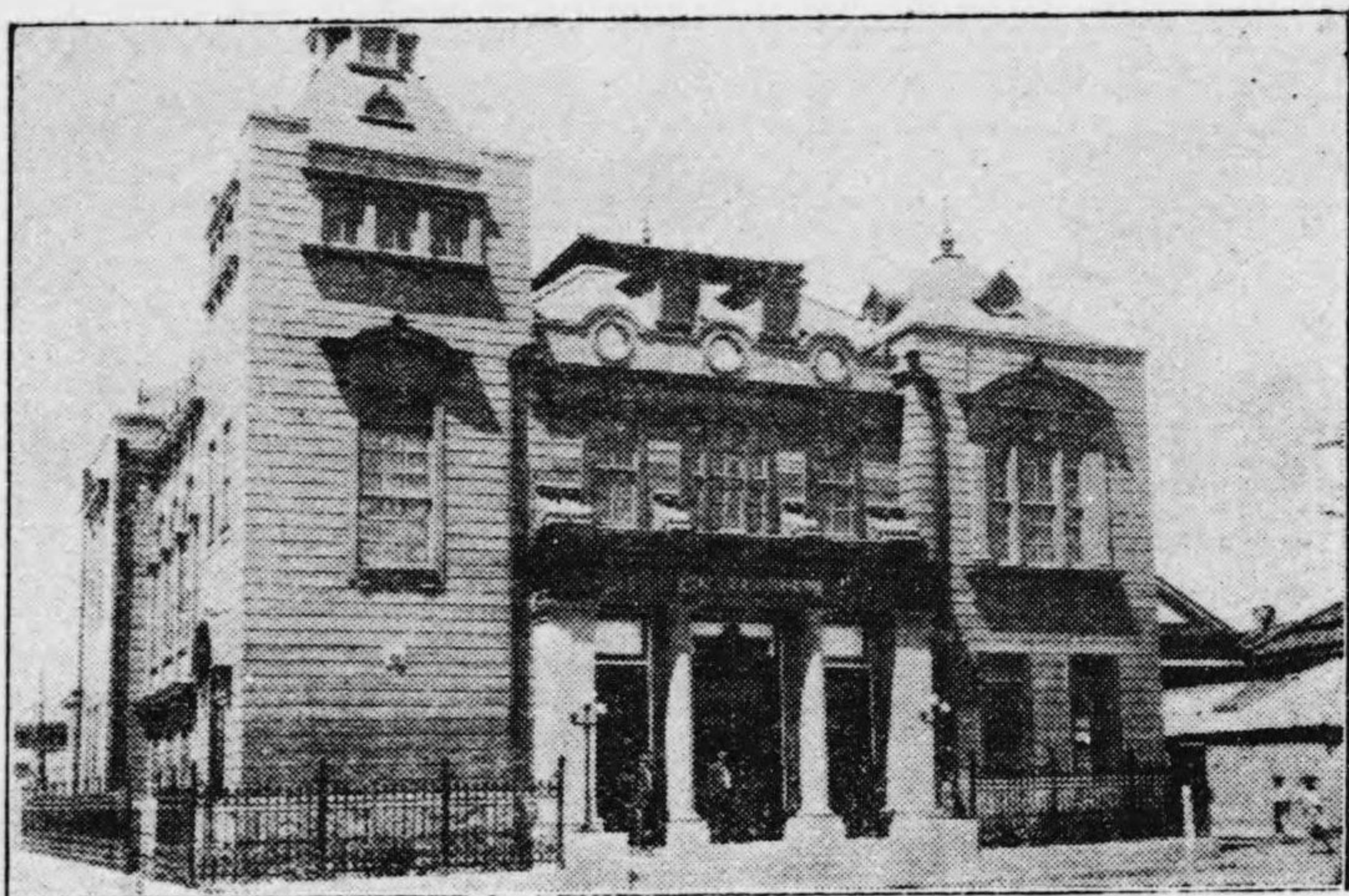
銀行

日本銀行函館支店

開業は明治二十六年四月一日にして當時末廣町一番地に在り。呼ぶに函館出張所を以てし二十八年七月十日之を改めて北海道支店と稱す。三十九年八月二十日復た函館出張所となり四十年の大火に類焼したりしかば同年十一月四日豊川町五十九番地に移轉し四十四年六月一日更に函館支店と改稱せり。現今にては舊の末廣町一番地に巍然として高く聳ゆる大建物を見る。是れ名稱を支店と改めし年の十月八日移轉せるものにて現支店長川瀬競氏。



日本銀行函館支店



拓殖銀行函館支店

一三三
 ▼拓殖銀行函館支店 北海道に於ける斯界の重鎮たる株式会社北海道拓殖銀行は明治三十三年四月の創立に係り設立の目的は専ら本道拓殖事業の發展に資するに在り。初め資本金參百萬圓（内政府持株壹百萬圓）を以て札幌に本店を置き開業したりしが本道拓殖事業の進歩と營業範圍の擴張とは勢ひ増資の必要を促し同三十九年十月資本金を五百萬圓に増加したり又一面業務の伸暢するに従ひ支店を小樽、東京、函館、旭川及樺太等に設置し以て當初の主旨に副はんことを務め目下積立金は壹百參萬圓余に達し基礎彌々堅さを致せり且其堅實なる營業

振は益々信用をして高からしむ。現今の重役は左の如し。

頭取 美濃部俊吉
 同 馬嶋 渡
 同 關 宗 喜
 監査役 大倉喜八郎
 同 松本恒之助
 （壹名缺員）

副頭取 永濱盛三 取締役 赤羽雄一

函館支店は明治三十八年四月一日の開業に係り四十年の大いに際し舊店舗烏有に歸したれば更に地を函館區船場町十二番地に卜し二階家百貳拾六坪六合七勺の營業場を新築し四十二年五月工事の落成を告ぐ。現在の建物は是なり電話六三、六四番現支店長高村幸藏氏。



函館銀行

樽目四斗九升詰



北海道代理店

灘西ノ宮 日本攝酒株式會社
 函館區西濱町 新 興 三 郎
 電話四百二十五番
 函館區西濱町 濱 崎 治 助
 電話二百三十四番
 函館區西濱町 久 保 支 店
 電話三十六番
 函館區辨天町 橋 谷 己 之 吉
 電話二百十四番

釀造元



函館銀行

明治二十九年七月、末廣町二番地に創て開業したりし本行は四十年迄、五十萬圓の株式にて營業を持續し來れるを今は資本金を百萬圓に更正すると共に四十年大火後、同所九十七番地に建物を新築して之に移り現に函館の金融界に重要を擔へり。電話四十三番、現頭取廣谷源治氏其他取締役外四名、監査役三名を有し營業堅實なり。其他明治十二年一月創立資金五十萬圓の株式會社百十三銀行（末廣町）二十九年創立資金七萬圓の同上函館貯蓄銀行（同町）卅年創立資金二百萬圓の同上第一銀行支店（船場町）二十年創立資翌五百萬圓の同上第三銀行支店（東濱町）三十九年創立資金二十七萬圓の上北海道拓殖貯金銀行支店（船場町）等あり。



西洋家具室内
 裝飾品和式一切
 製造販賣
 官衙諸會社御用

長

函館區末廣町永國橋角
 神亦永商店
 電話一〇二四番

問屋 乾物
 山形屋
 飯田商店
 電話三六三六番

乾物類一切
 乾海苔
 鯉節
 雜穀
 罐詰油
 醬油類
 和洋酒類
 其他諸雜貨

▲飯田商店(商號山形屋)
 末廣町八十二番地にあり。明治卅九年の開店にして販賣品は鯉節、乾海苔、罐詰類、醬油、雜穀、其他乾物類一切、醬油(ひげ田)醸造元下總國銚子港田中玄蕃氏の醬油一手販賣及び東京九重商會製造のチャリベースサイダーの特約販賣店にして販路は本道及樺太に到る
 電話百三十六番店主は飯田八三

北海道名産

製造品目

昆布菓子 細工昆布
 昆布羊羔天 昆布茶
 鮭筋子 粕漬 いか塩から
 其他 昆布製品 各種
 北海道名産切賜全道一手製造 發賣元

御函館土産名問屋通
 藤井 商店
 電話 一八一七 番

菓子舖御用

菓製菓器具流行附屬品卸
 諸原料藥品香料繪具商
 東京前田屋製菓特約販賣
 鶴亀焼器具一手販賣

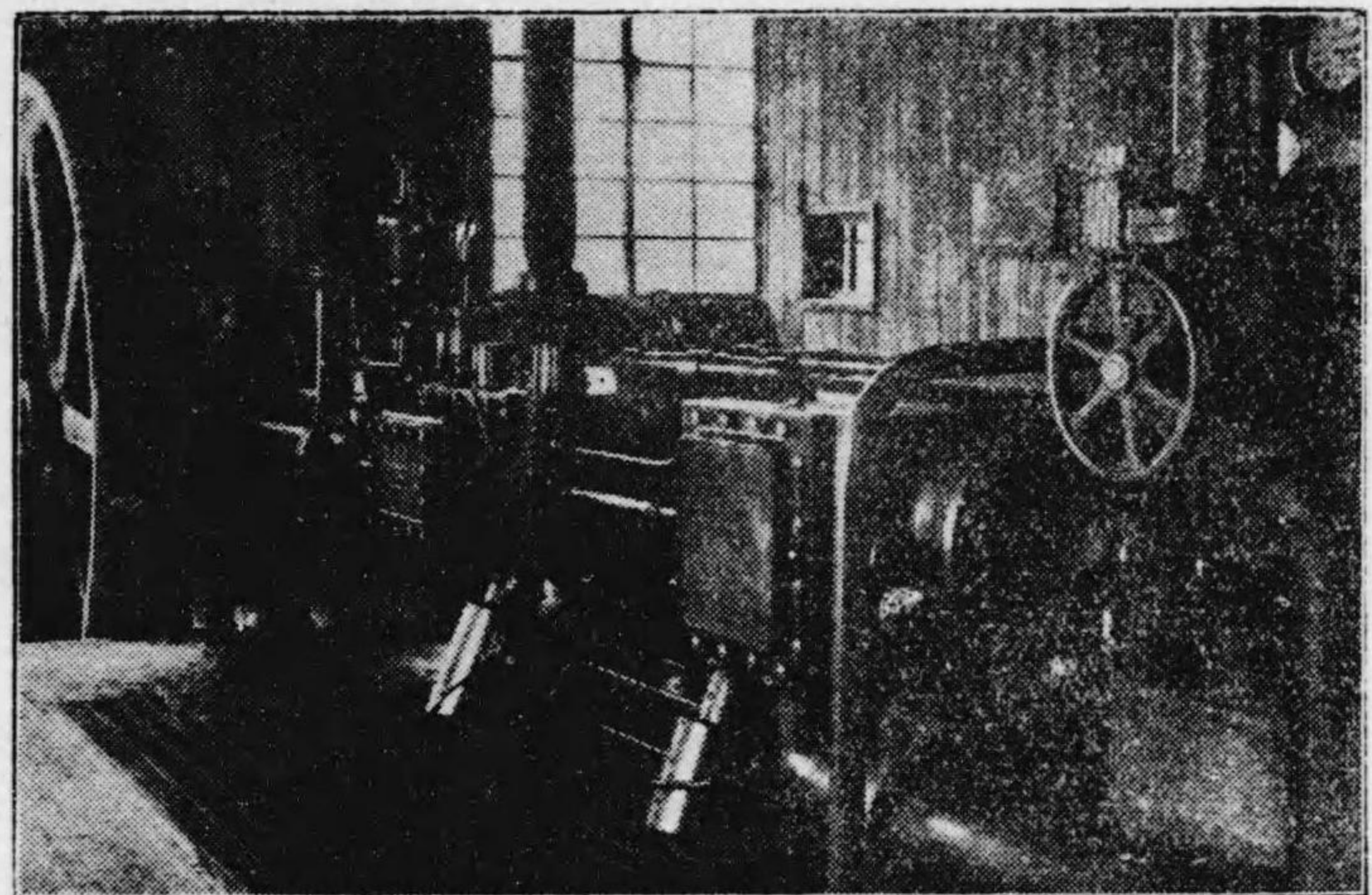
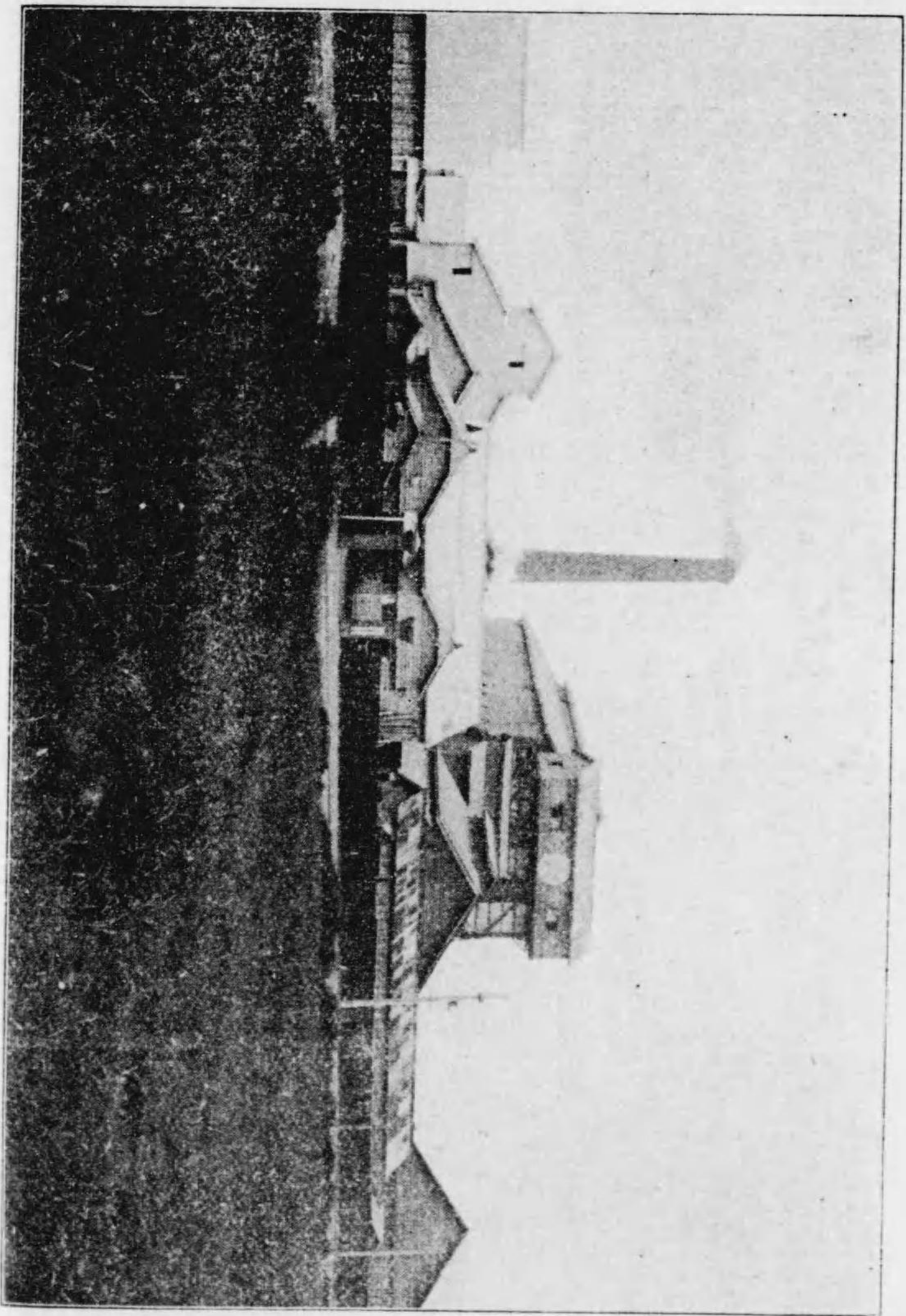
京屋大西商店

函館區惠比須町
 電話 〇三二八 (キ)
 電話 (架設) 中

會社

人造肥料會社函館工場

大日本人造肥料株式會社は東京人造肥料株式會社の後身にして現今の名稱を呼ぶに至りたるは明治四十三年以後とす。東京人造肥料株式會社は明治二十年四月男爵澁澤榮一、澁澤喜作、侯爵蜂須賀、高峰博士の諸氏時勢に鑑み磷酸肥料として最も有効なる過磷酸石灰の製造を目的とし資本金貳拾五万圓を以て設立せられ澁澤男爵社長に高峰博士技師長の任に當れり。然れども當時一般農家は過磷酸石灰に關する知識甚だ薄く其經營頗る困難にして初年の販賣高の如き僅に五万圓に過ぎざりき然りと雖も農業經營に過磷酸石灰の缺く可からざるは少しく農事の智識經驗を有する者の等しく認むる所にして當社製品は逐年其の需要を増加し従て事業擴張の必要に迫られ逐次資本金を増加し現時は六百貳拾五萬圓に達し工場は東京釜屋堀、小松川の二工場大阪西、北及大和の三工場、下關工場、横濱工場並に函館工場の八工場を有し現社長は鶴原定吉常務取締役は平田初熊、阿部市三郎技術部長は工學博士西川虎之助の諸氏なり。



大日本人造肥料會社函館工場機關部

函館工場は元々北海道人造肥料株式會社と稱せられしも明治四十一年六月當社と合併し函館工場なる名稱の下に製造並に斯業を營むに到り、當工場は函館區龜田村に位置し前面は海岸にして専用棧橋を架設し後面は五稜廓停車場の支線を以て接続し海陸共に運輸の便至大なり、工場一ヶ年製造高は略ぼ五百萬貫にして本道内に於て需用せらるゝ過磷酸肥料略八割を供給す。原料は南洋、大平洋島及北米「フロリダ」産磷鑛石年略壹万噸並に硫酸原料として奥尻鳴産硫黄年略五千噸を使用し、主なる設備は硫酸工場に焚礦爐二基及直徑三十四尺高三十二尺の鉛

室六組あり。五十度硫酸一日略七千貫を製造し肥料工場には原料粉砕用ケントミル、ロー
 テートリーフアインクラツシアー及コースクラツシヤー各一臺、配合用ミキサー、切斷機
 並にエレベーター、コンベヤー等を有し。之れに依り一日壹萬八千貫を製造す。使用職工
 及人夫は一日平均百五十人内外にして、工場長農學士吉田守一氏は明治四十年札幌農學校
 卒業後東京釜屋堀工場に入り翌年當工場に赴任し爾來熱心肥料の製造に従事し着々製品の
 改善を圖りつゝあり。當工場製品は一般農家より價格低廉品質良好効果多大なりとの好評
 を受けつゝあり。蓋し我國に於ける最大工場にして幾多の設備、他工場に冠絶す。

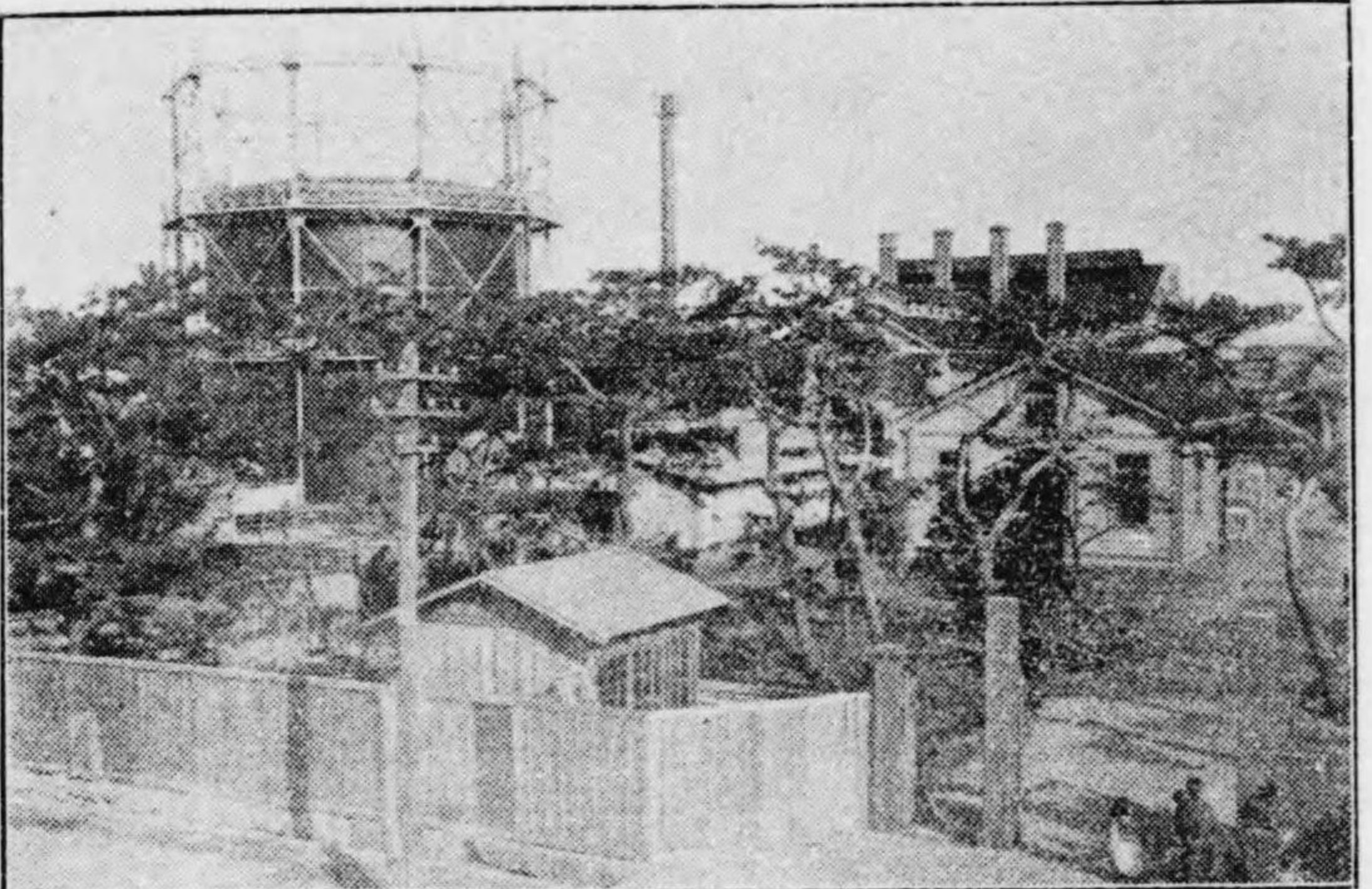
一四〇



★北海道瓦斯株式會社

函館營業所

本社創立 明治四十四年六月
 營業所 函館區龜田村字村内七十二番地
 陳列所 函館區末廣町八十八番地
 點火開始 大正元年十月七日
 引用申込戸數 四千四百戸 (大正元年十月末日現在)
 燈熱申込口數 壹萬八千六百口 (全 上)
 尙當區ニ於ケル瓦斯ノ需用ハ日ヲ逐フテ増加
 シ來レル有様ナルヨリ會社ハ豫定工事ノ竣工
 ニ先立チ已ニ擴張ノ必要ヲ認メ現ニ之カ計劃
 中ニアリト



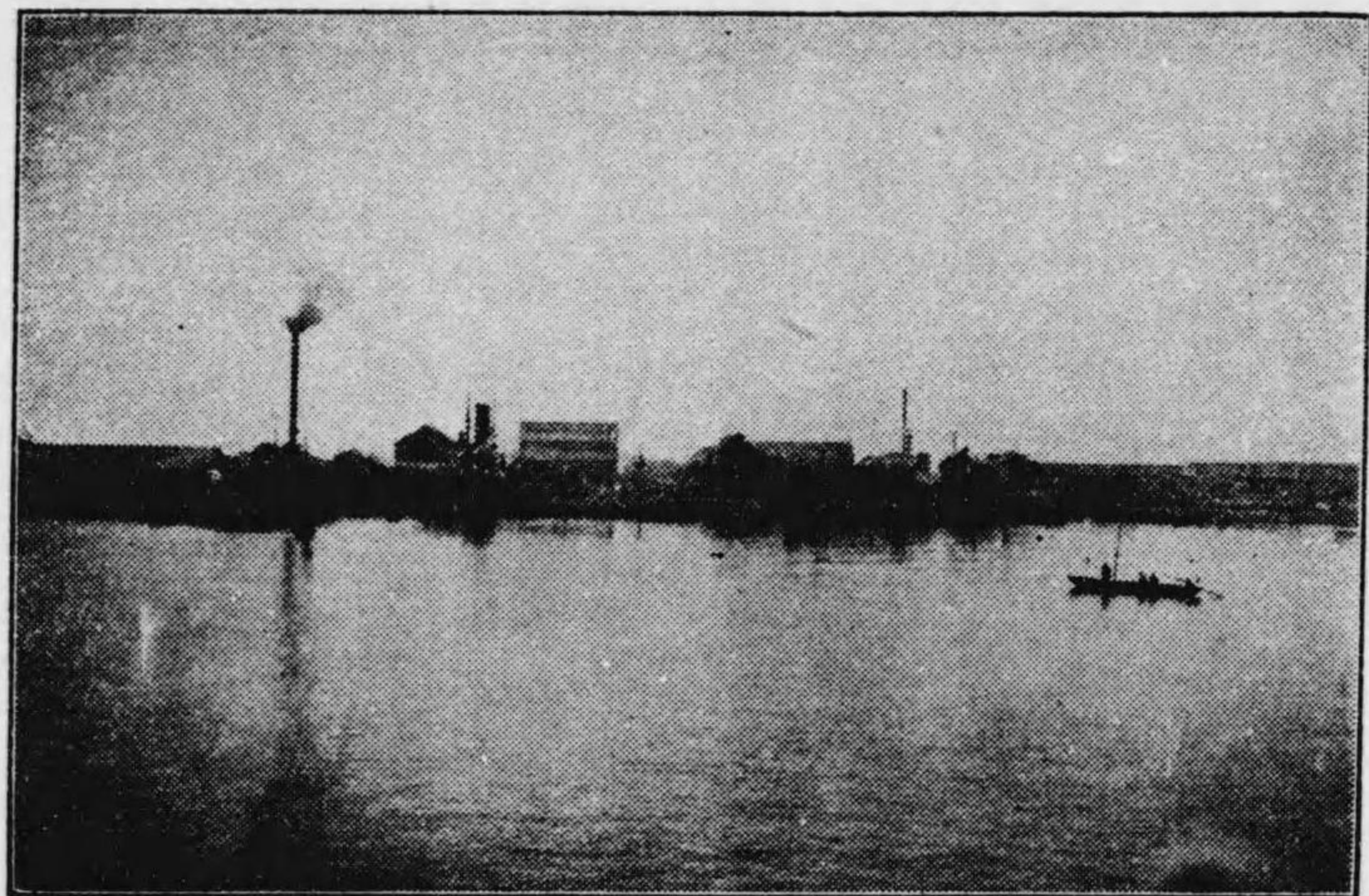
(所業營館函社會斯瓦)

▼函館水電會社

本社は明治三十九年資本金百萬圓の株式會社として大沼の水利用し電燈電力業を營むの目的を以て創立したるが翌四十年函館電燈所を買收の上、火力による送電を開始し一方水電工事を進め四十一年之が竣功を告げしかば水力による送電を開始せり。爾後社業の發展に伴ひ電力増設の要を感じ四十三年百萬圓の増資を行ひ七百馬力増設工事に着手し四十四年二月竣功と共に送電を開始す。同年八月函館馬車鐵道株式會社との間に合併成立を告げ七萬五千圓の増資を行ひ以て動力變史の議を決し其筋の認可を得たれば明大正貳年初夏の頃には一部運轉の運びに至るべし。尙ほ是に伴ふ電力増設工事を現發電所の下流に起し千二百馬力の電力を得る設計の上を目下工事中に在り。本社營業狀況は本年上半期末、取付燈數二萬五千七百三燈、電力千四百三十一馬力、軌道延長十哩強にして拂込資本に對し一割の株主配當を行ひ二萬二千九百余圓を後期に繰越の盛況に在り。電話百三番現社長園田實徳氏、事務取締役平野萬四郎氏。

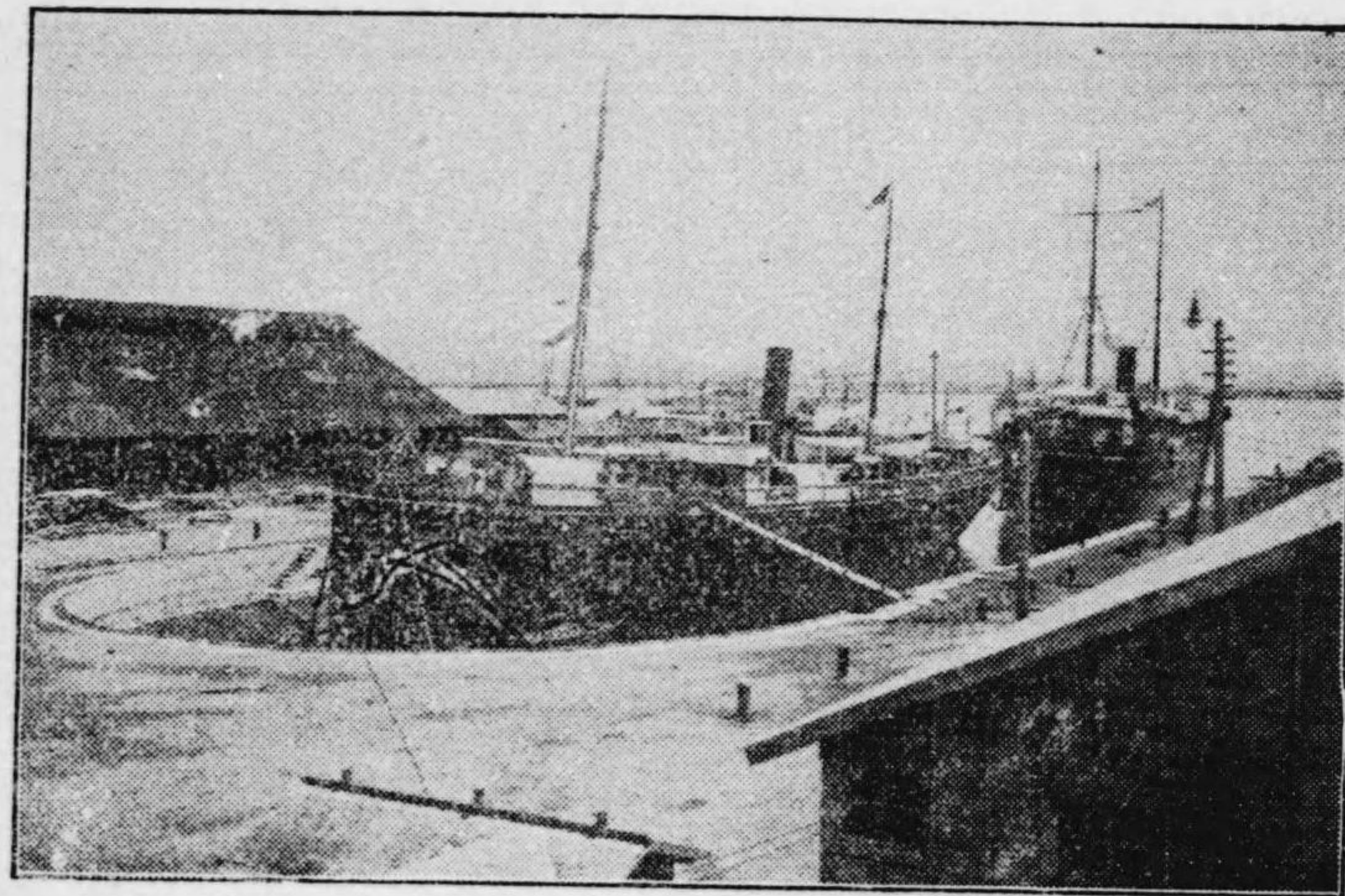
▼函館船渠會社

函館に海の富を吸収すべき船渠築設の業を計畫せしは明治八年に



函館船渠會社全景

して函館船渠は其後十三年故渡邊熊四郎等に依りて經營されたる幸町簡易船渠築設の變形とも曰ふべき眞砂町函館器械製造所に其源を起し十九年以來桐野海軍少技監、英人メーシ及び廣井技師等調査の上船渠敷地の豫定を爲し二十九年十一月百廿萬圓の巨資を投じ株式會社設立。當時の専務取締役は故平田文右衛門にて三十年六月函館造船所を買收して分工場となし一部營業を開始し、二十四年四月千四百噸以下の船舶を修理すべき曳揚修船臺及三十六年優に一萬噸迄の艦船を容るゝに足るべき一大船渠の築設工事完成して共に營業を開始せり。卅九年改革を



渠船水社會渠船

行ひ郵船株式六十萬圓を募りて増資百八十萬圓
 とす。時の専務取締役は男爵川田龍吉たり。
 四十四年七月同社は資本を更に百八萬圓の減資
 を行ひ現時の七十二萬圓となしたるは函館港に
 於て艦船を保護し運輸の便益を得せしむるに必
 用急需欠くべからざる船渠本來の性質は他の營
 利事業と異なり會社の營業には相違なきも大局
 の上より觀たる該事業は全く國益擁護の任に當
 りつゝも一面に於て事實上の營利會社なるを以
 て諸種の原因一時多少事業の發展を沮まれしや
 の觀ありたるに由る。されど現今にては如上の
 外千二百噸迄の船舶をも自由に容れらるべき架

目 商 業 録

本國機械工芸、メカニクス、ホーン商會支店管理
 米國フエート、イリガン會社製材機械及工場用第一式
 米國「フリス」會社製諸機械及材料一式
 各種用動力機、揚揚機、輕便軌條
 各種製鐵機及鑄山用諸機械類
 各種燃料、重油、スイル油、機械用礦油
 マニフロールド、ワイヤロープ、鐵索、鋼、帆布類
 其他汽船、帆船用品一式

店 商 令 爪 樋

地番二、一十三町濱東區館函

番六三三一話電

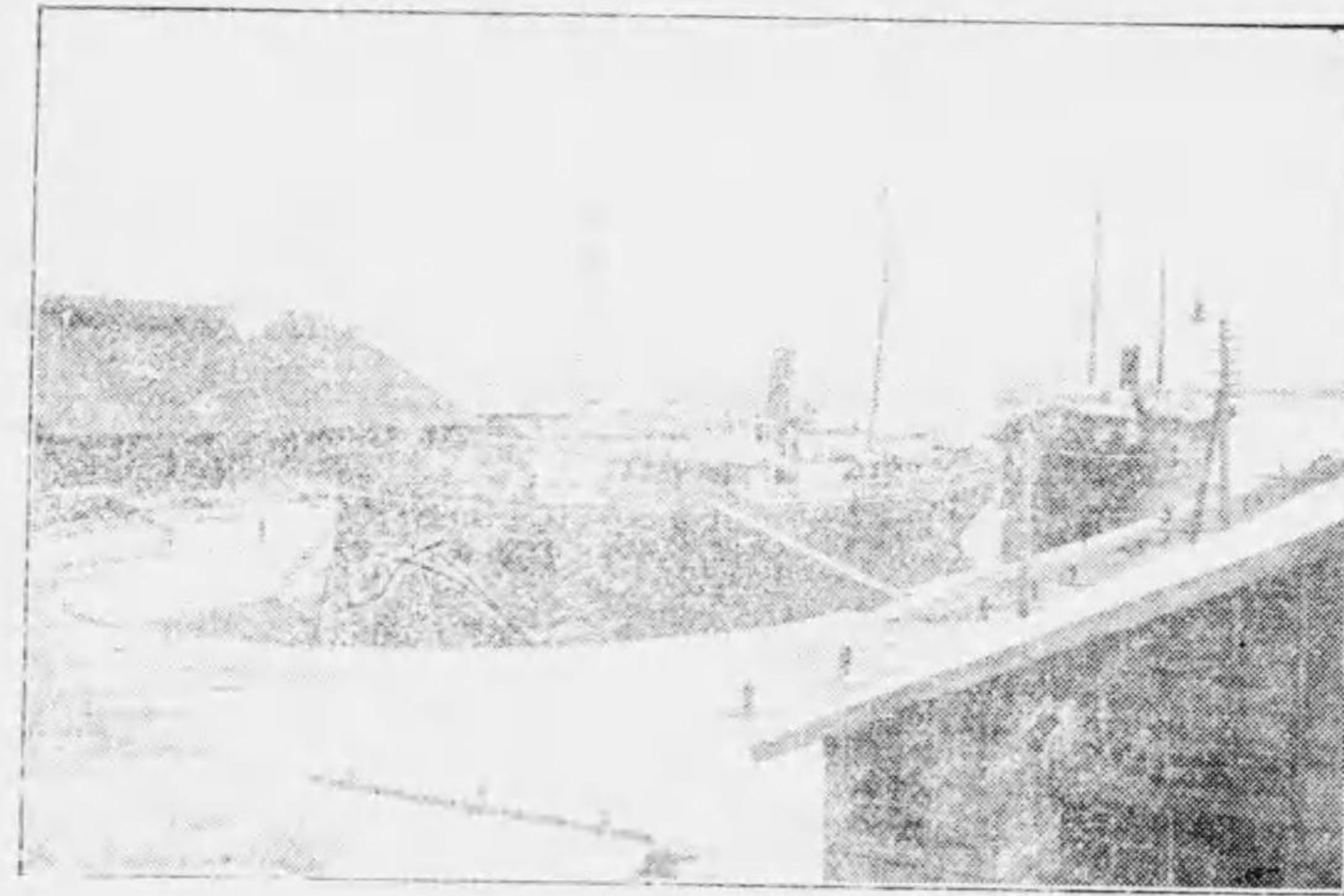
目 概 業 營

米國機械商エフ、ダブリュー、ホーン商會支店管理
 米國フエー、イーガン會社製材機械及工場用品一式
 米國「ブリス」會社罐詰機械及材料一式
 漁業用凧力捲揚機、輕便軌條
 發動機船及鑛山用諸機械類
 船底塗料、ペンキ、ボイル油、機械用礦油
 マニラロープ、ワイヤロープ、鐵鎖、錨、帆布類
 其他凧船、帆船用品一式

店 商 棧 爪 樋

地番二、一十三町濱東區館函

番六三三一話電



船 隻 港 口 概 況

一四四

行ひ郵船株式六十萬圓を募りて増資百八十萬圓
 とす。時の専務取締役は男河川田龍吉たり
 四十四年七月同社は資本を更に百八萬圓の減資
 を行ひ現時の七十二萬圓となしたるは函館港に
 於て船舶を保護し運輸の便益を爲せしむるに必
 用急務たることを船主本來の性質は他の營
 利事業と異なり會社營業に就相。大層
 の上より觀たると事業は全。國益。任に當
 り。一。面に於て事實上の利益會社。を以
 て諸種の原因一時多少事業の發展を阻むる事
 の觀ありたるに由る。されど現今にては如上の
 外千二百噸迄の船舶を自由に航行せしむるべき

營業課目

一般船舶

新造修繕

其他漁船

一切御注

文ニ應ズ

株式會社



函館區西濱町一番地

函館造船所

電略(リセン)又ハ(リ)
電話九九七番

販賣品目

米雜穀 味噌 醬油 石鹽 味噌

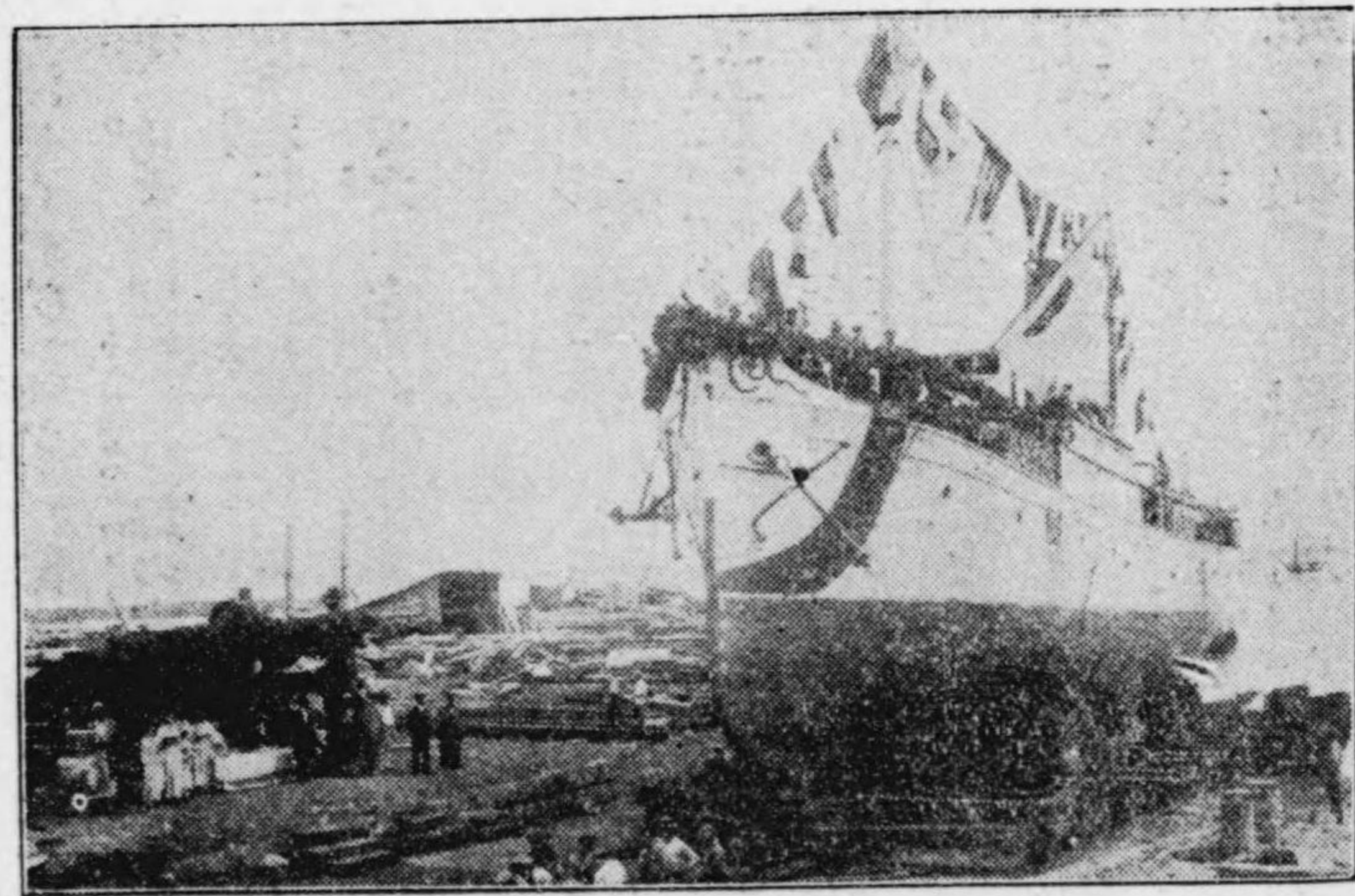
函館地藏町三十番地

仙工藤英吉商店

電略(クト)又ハ(ク)
電話(三三番)

露光量違いの為重複撮影

船渠を始め三十九年十二月創立を見たる船舶及
 機械修繕工場（辨天町）には二百七十馬力の電
 氣と百五十馬力の蒸氣とに因る動力を用ひて多
 數船舶の修繕或は新造船に至るまで船渠として
 の設備完全を極め其他に至りては鑄物、模型、
 機械、土工、鍛冶、製鉄、木工、電氣、仕上の
 丸工場を有す、構内には常に蒸氣力を以て唧筒
 を使用し船渠の排水を容易ならしむるの装置を
 爲し又蒸氣力に由る水壓並に發電の装置ありて
 諸機械を運轉し且つ壓搾空氣共に大なる動力を
 使用せり。されば本邦に於ける造船業中多數の
 會社として今や其名を知らるゝの地位に在るの



渠船揚引社會渠船

運 一 般
 業務 辨
 運 誠 實
 取 扱 申 候



佐々木回漕店

函館區仲濱町十番地

電話サキ(又ハ)サ
 電話(二百三十八番)

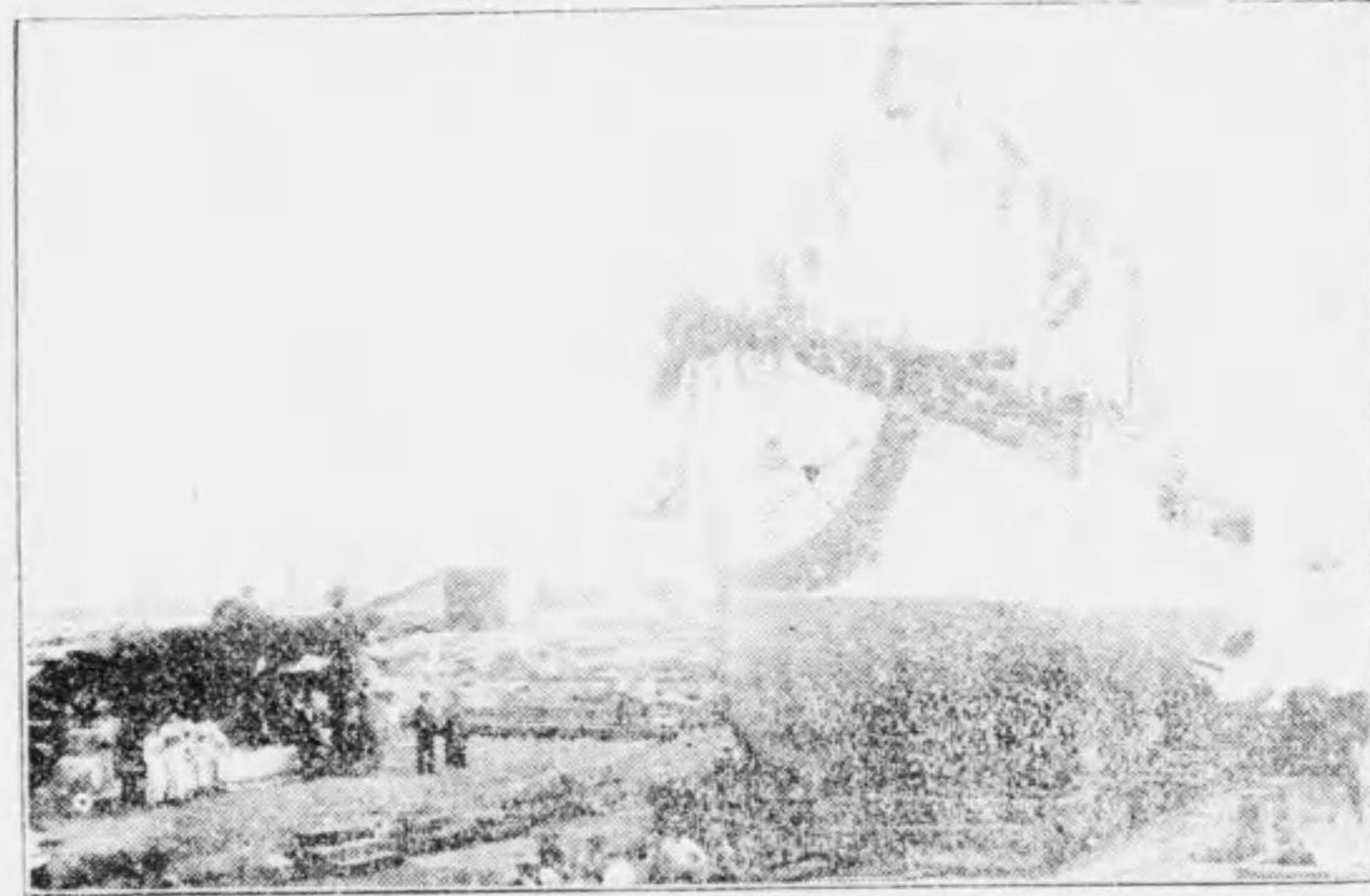
海運一般ノ
業務ヲ辨シ
迅速誠實ニ
御取扱申候

函館區仲濱町十番地

久一 佐々木回漕店

電略ササキ(又ハ)サ
電話(二百三十八番)

船渠を始め三十九年十二月創立を見たる船渠及
機械修繕工場(辨天町)には二百七十馬力の電
氣と百五十馬力の蒸汽とに因る動力を用ひて多
數船渠の修繕或は新造船に至るまで船渠として
の設備完全を極め其他に至りては鋳物、模型、
機械、土工、鍛冶、製鉄、木工、電気、仕上の
九工場を有す、構内には常に蒸氣力を以て唧筒
を使用し船渠の排水を容易ならしむるの装置を
爲し又蒸氣力に由る水壓並に發電の装置も亦て
諸機械を連轉し且つ壓搾空氣共に大なる動力を
使用せり。されば本邦に於ける造船業中多數の
會社として今や其名を知らるゝの地位に在るの



船渠揚引社會渠船

みならず最近の職工使用数の如きも三百七十七人と注せられ營業費用は同十六萬〇三百八十圓（函館商工統計參照）を算し營業の成績も舊來に比すれば逐年良好の實を現はすと共に本年上半期に於て五朱六厘の株主利益配當ありたる程にて同社の前途好望數年ならずして更に一般の事業擴張を見るべきは過去の實際に徴して之れを卜知し得るならむ。現事務取締川田豊吉氏支配人近藤勝之助氏。

◆北海道セメント會社 明治二十三年故吉川泰次郎、遠竹秀行、平田文右衛門及園

田實徳等の發起に依り資本金貳拾万圓を以て組織し工場を原料所在地に接し又海運に便宜の渡嶋國上磯郡上磯村に設置し本社は當初函館に設けしも後工場所在地に併置し社長阿部興人専ら經營の衝に當り中澤岩太、高山甚太郎の兩工學博士に技術設計を囑托し高山博士は獨逸に於て斯業の大家ミハエリス氏に諮り製造方式を乾式とし窯はホフマレ氏發明輪窯を採用することとせり蓋し乾式は從來本邦に用ひたる濕式に比するに製造費廉に輪窯は最も學理に適合し且つ燃料經濟を以て其當時歐洲に於て嶄新として専ら賞用せられたる所な

るを以てなり。二十五年工場竣成製造を開始するや輪窯は本邦に於ける最初の使用に屬し技術の經驗を有せず勉勵事に當るも曾て意の如き火度を得るに至らず困難を極め辛酸を嘗むること約三ヶ年此間事に當るもの日夜奮闘株主亦倦まず漸く二十七年末始めて豫期の成績を見るに至り前途の光明を認むるを得たり。依て第一回社債を募り營業損失の整理を圖り製品々質亦愈佳良漸次華客の信用を博するに至れり是に於て當初の製出豫定年額參万樽を四倍以上に増加せんとするの計畫を樹て資本金を増募參拾六萬圓となし輪窯の増築新機械の据付を行ひ卅年二月工事竣成豫定の計畫違算なく益々世の需用に應ずるを得たり。而して昨明治四十四年七月に於ける當社の現状は積立金拾五萬六千五百九十七圓余、工場敷地參萬六百二十一坪、同建物百三十八棟、一萬千八百四十坪余、同設備に要する原動力は電力九百五十二馬力、瀛力七十馬力等を有し製造方式は悉く乾式に依る。又當社製品の重なる需用先は鐵道院、北海道廳、樺太廳、第七、八師團、横須賀鎮守府、大湊要港部、大藏、文部省臨時建築部、司法省、内務省新潟土木出張所、北海道各築港、青森、岩手、

宮城、秋田、山形、福島、栃木、山梨、新潟諸縣、東京、新潟、仙臺、秋田、山形、盛岡、青森、弘前各市、東京府、臺灣及小澤尾古澤橋釜石加納足尾諸鑛山其他主要各地諸會社、工場等にして函館區鶴岡町二十三番地、小樽區色内町四十四番地東京市京橋區南新堀二丁目五番地に各出張所を置き廣く各地方に特約販賣店を設く。尙ほ現在當社に於て採用せる社員の外に使役人員約六百名に及ぶ。現社長阿部眞人氏。

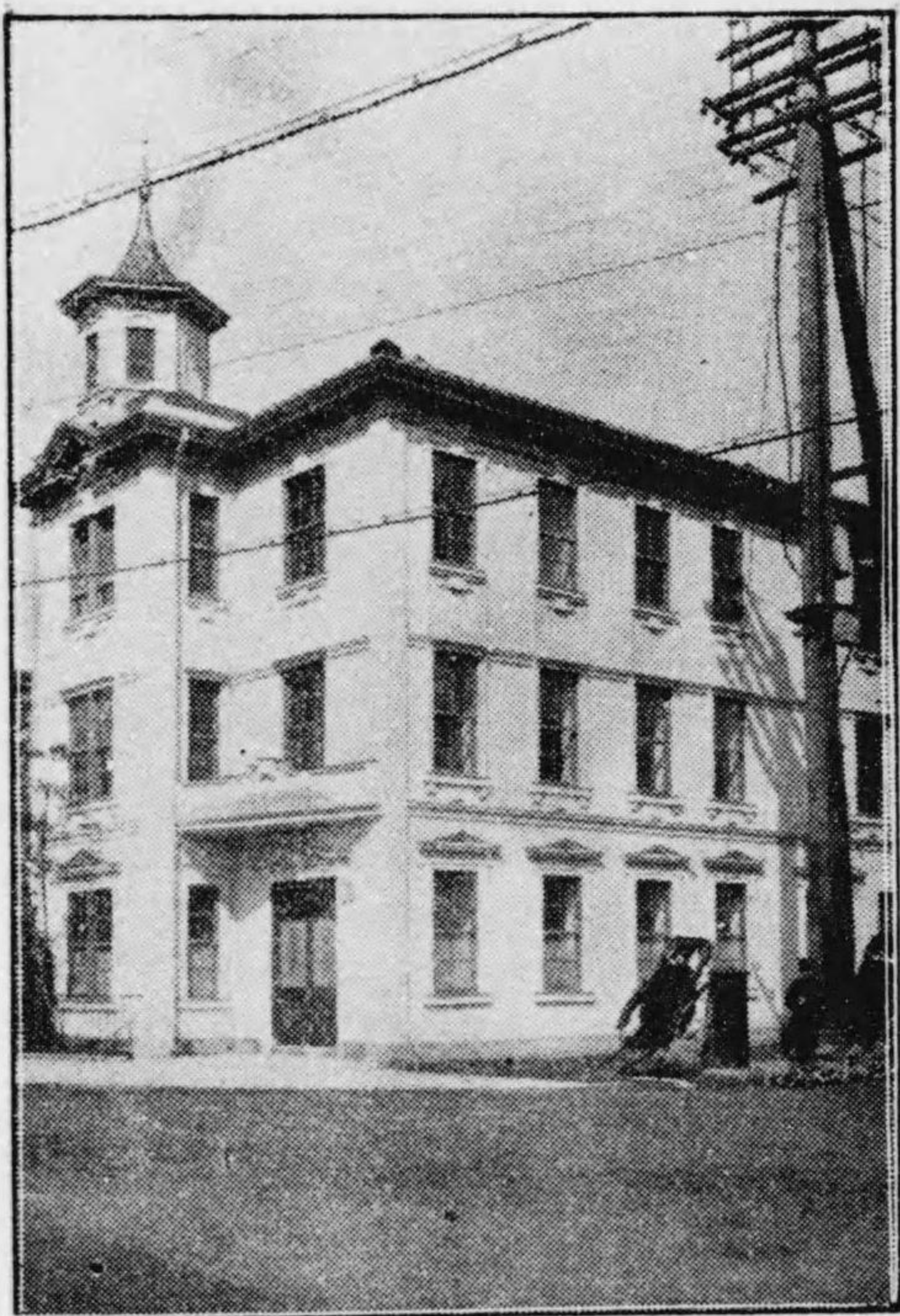
▼信託會社北海道支部

蓬萊町百二十七番地にあり明治四十五年四月の開店に係る、帝國公債信託株式會社は東京市京橋區日吉町拾壹番地にありて明治四十三年の創立にして出張所及代理店を札幌、旭川、小樽、壽都、朝鮮、臺灣、大政、神戸、四日市、岡山、福島、宇都宮、能代、平其他全國に三百余箇所を有し營業課目は帝國四分利公債の販賣を始め市町村債及諸種の貸付其他にして本社の主眼とする所は帝國四分利公債購買の便利を計り容易に之を取付せしむるの方法を設け一面正貨の海外流出を防遏し及び一般金融の便を圖るにありて、信用最も堅く事業倍々盛大を致せり、當支部は開設日尙ほ淺きも

業務日に盛況に向ひつゝありと云ふ、電話百四十一番現支部長鈴木勘策氏。

▼共榮貯金會社氣館支店

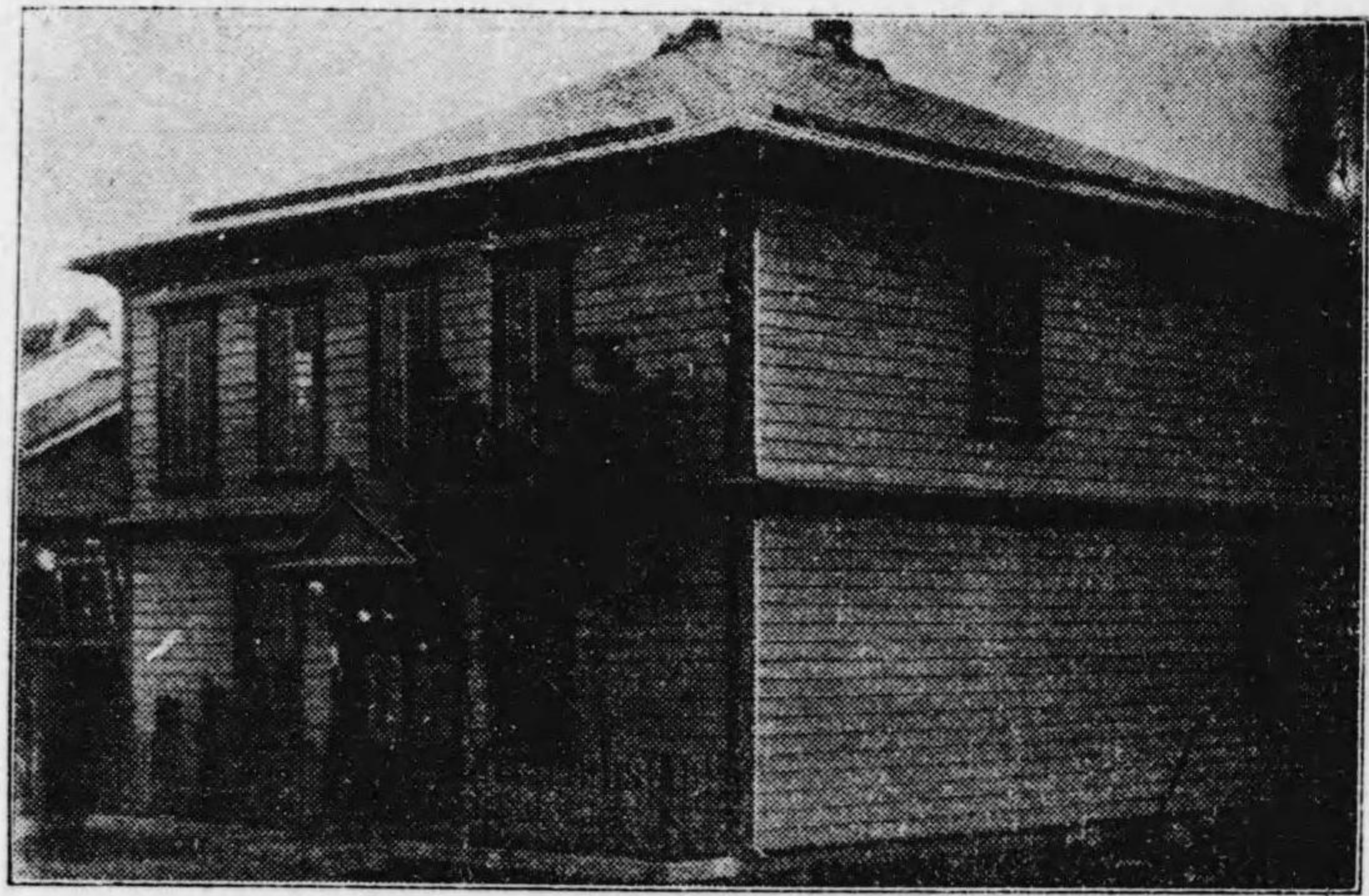
本社は東京市神田區千代田町貳拾九番地にあり下谷、



信託會社北海道支部

芝、靜岡、長崎、敦賀、福井、門司、小倉、福岡、京都、大阪、神戸、岡山、仙臺、札幌、旭川、小樽、青森、大津、函館の貳拾箇所に支店を置き以て營業せり、本社は明治三十四年七月共榮社と稱し合資組織を以て創立し同三十九年十

一月資本金百萬圓の株式會社に變更す、本社の目的は専ら社會の金融機關及貯金獎勵を以て設立せられ實に斯業界の鼻祖と云ふべく創業以來十數年を経過し年々を逐ふて盛連に趣



店支館函社會金貯榮共

一五〇

者他に多く其類を見ず。函館支店は蓬萊町三番地にあり明治四十四年十二月の開業にして未だ一年を経過せざるも非常の盛況を致し他支店に多く見ざる好成绩なりと云ふ又札幌、旭川、小樽の各支店も中々盛んにして現今は全道に於ける缺くべからざる金融機關たり、電話六百八十二番現支店長中山増二郎氏。

▼蓄音器商會 在東京、株式會社日本蓄音器商會出張所にして明治四十四年十二月末廣町十九番地に開設を見たりし以後は帝都に於て常に新らしき需用者に望外の好評を博せるニツポノラ音譜入戸棚を更に製産力を増加し何時に

ても注文に應じ得らるゝ迄に藏置す。最初此戸棚はニツポノラとのみ組合せの目的にて製造したるも音譜の藏置に便なる爲め多くの人々は普通の喇叭附器械と組合せ使用するに至れり。該戸棚は十分に乾燥せるオーク材を用ひ美麗に仕上げし蓄音器音譜入にして當社は其外、音譜入物の大注文に應じ現今にては需用頓に増加を來たし我國蓄音器界の廓新を以て商會の生命とす。電話一・二・四番所長大森義民氏。

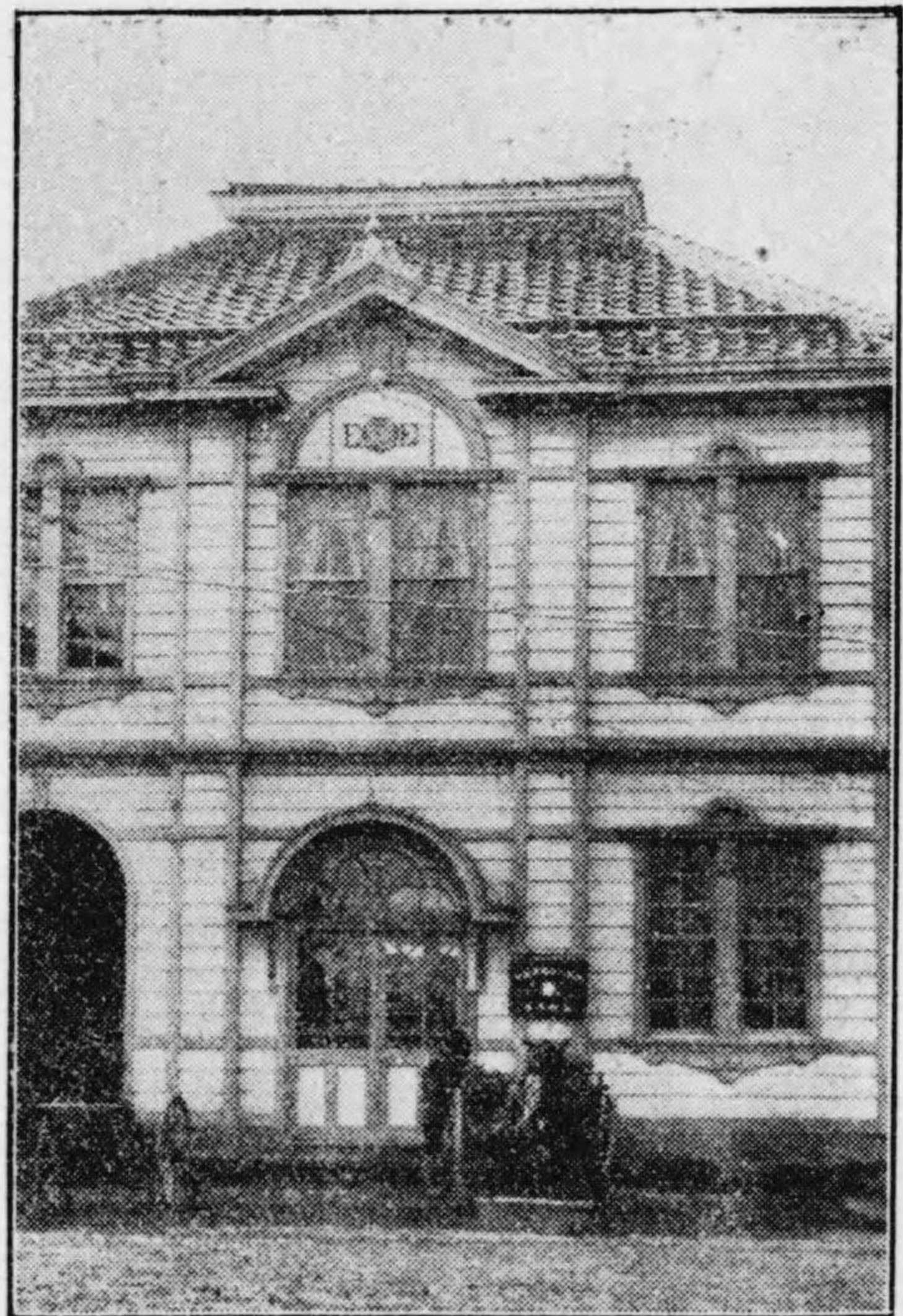
▼内國通運會社 始め内國通運會社と稱し明治五年の創業なり。本社は東京にして十一年大町二十四番地に函館支店を置き海陸通運業を



會支館函會商器音蓄

一五二

營みしが後年に至りて内國通運株式會社と稱を改め四十年大火に類焼したるを以て四十一年十一月更に東濱町二十二番地に新築移轉し現今に及ぶ。當社は曾て第五回内國勸業博覽會に於て銀牌を受領し我國通運界の重鎮を以つて目せらる。電話二〇番一三二二番現



國內通運會社函館支店

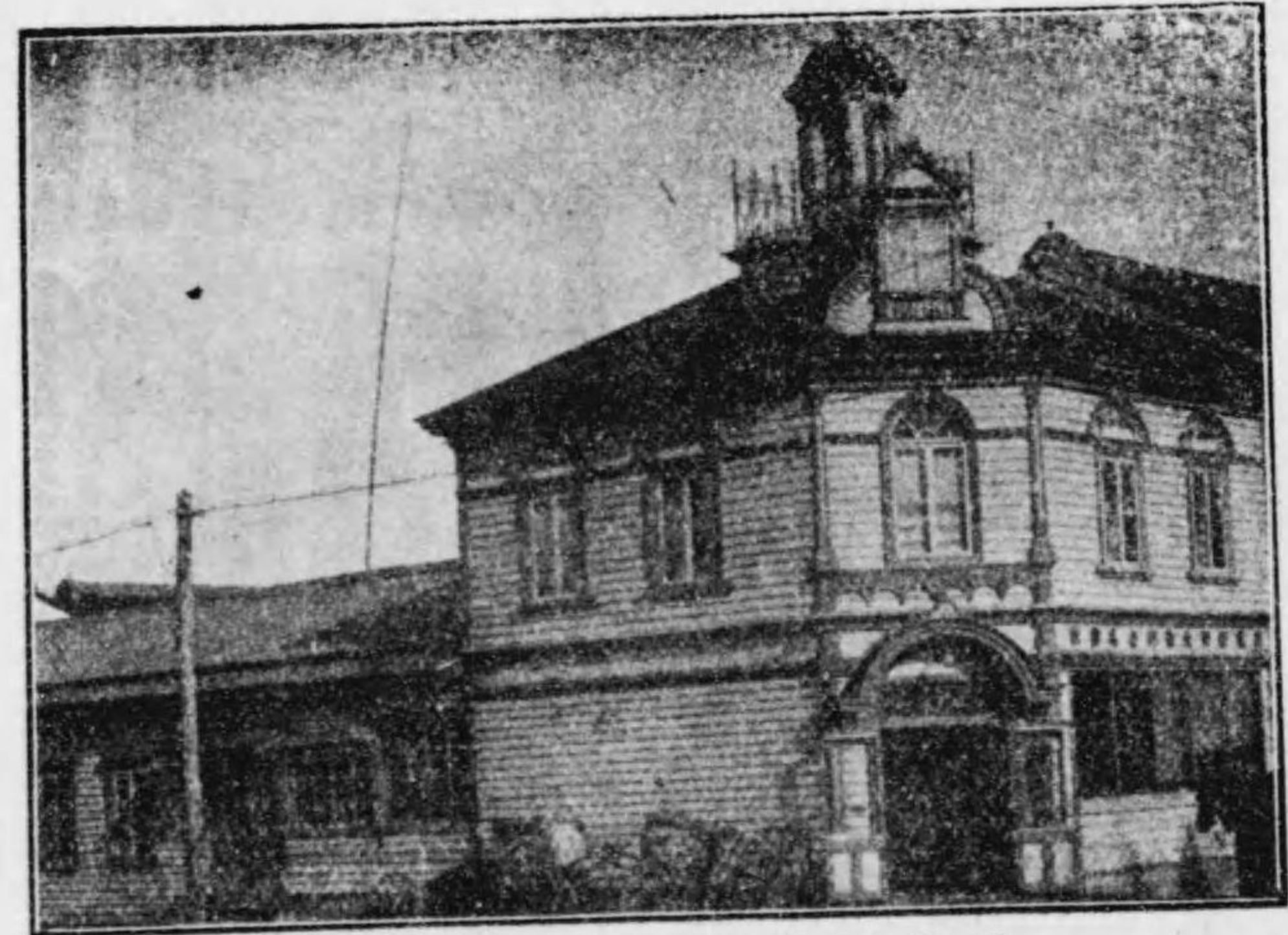
函館支店長杉村龜氏。

三郎、酒谷小三郎、奥寺仁三郎、三輪竹次郎、今井良七、宗友茂平、壺谷甚右衛門等社員と爲り壹万三千圓を醗金し合資會社を組織したりしが四十二年七月一日より今の名組織

▼煙草元賣捌所 函館煙草元賣捌合名會社と稱す。明治四十年五月三十日當區の紳商久保彦助、濱崎治助、新與

に改むと同時に資本金は六萬三千圓に増加し前記創業社員中今井良七、宗友茂兵衛の二氏退社し現今に及ぶ。而て室蘭、西紋監、浦川の三ヶ所に支店を置き函館區内及近郡に廣く販賣しつゝある同社一箇年の販賣高は七拾萬圓に上る。同社代表社員は壺谷甚右衛門氏。

▼函館製瓦合資會社 西川町一番地にあり。明治三十九年九月の創立にして資本金拾萬圓煉瓦石、土管、屋根瓦、下須藝、耐火煉瓦、石灰、貝灰、軟石、セメント等の製造販賣を業とす、龜田郡龜田村字大川通に煉瓦工場を同郡湯川村大字下湯村字瀧ノ澤に石灰、貝灰、軟石



函館煙草元賣捌合名會社

工場を設け製品精良、販路最も廣く營業常に繁忙を極む、電話本店三百二十一番龜田工場
三十二番瀧ノ澤工場七百二十七番代表社員石館友作氏。

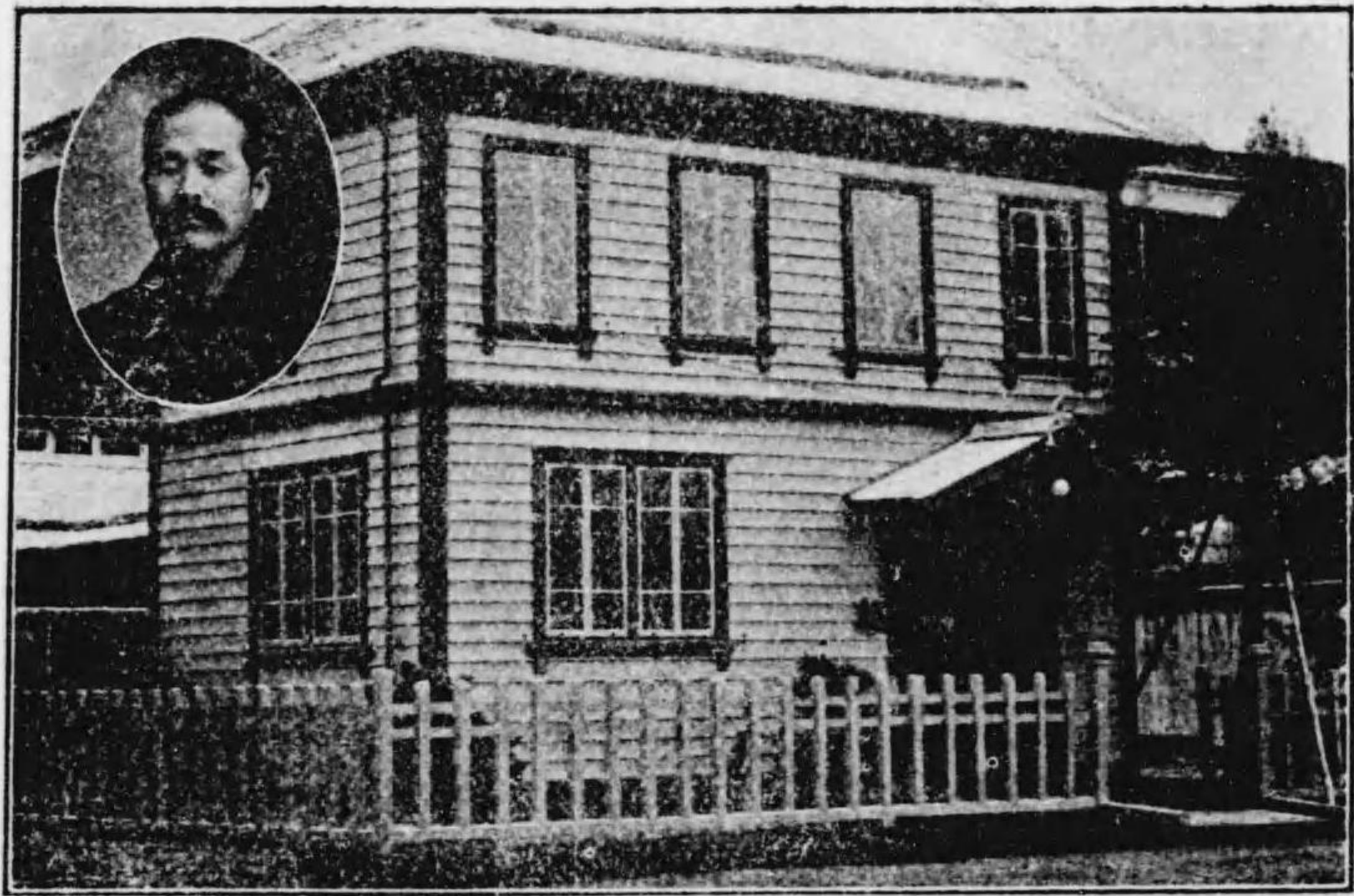
▼信善屋株式會社 相生町壹、貳番地にありて帝國公債株式現物賣買を營業とす。

保險會社

當港に於ける保險業の開始己に早し。明治五年開拓使の時、官補助を與へ保險任社をして
海運貨物の保險を受負はしむ。然るに又在留外商ホータ氏英國海上保險會社の代理者を
營み依頼者の需めに應せり。十四年六月外人ブラキストン氏土藏のみに限り初めて火災保
險の業を開く。其後十八年二月舊函館新聞社（今の函館毎日新聞）社主伊藏鑄之助氏初め
て明治生命保險會社の代理店を營み事務を北濱社々内に執る。之より各種保險業の代理店
出張所等續出せり。

▼仁壽生命代理店 東京に本社を有する仁壽生命保險會社は明治二十七年の創
立にして當店は二十八年五月の創開に係り北海道最初の代理店たり。本社は創業以來、營

業の決算を了ること第十八回に達し四十四年中に於ける會社事業成績は純増加高五千二百
二十二人にて四百二十一萬八千四十七圓中數契約高七萬五千七百四十五人にて三千九十四
萬三千八百四十四圓、新契約高一萬四千六百六十八人にて八百五十三萬五千五百圓なるが本
道の保險募集區域は之を五區に分ち小樽に出張所を設け盛んに被保險人を募り居るを以て
平年約三方圓以上の新契約を増加するの有様にて殊に四十三年九月新たに本社の營業方針
を一變したる以後に於て益々新契約高の激増を來し函館代理店の如きは本年九月迄に於け
る新契約増加額は實に五十二萬圓以上に上り尙ほ依然として其増額を示しつゝある營業の
成績は優に東京、大阪を凌駕し今後引續き營業の發展を期するは勿論、當店主は二十九年
十月創業を見たりし日本教育生命保險株式會社の函館代理店をも兼營し卅七年より之れが
被保險人を募集し來りたるが其保險の性質は主として兒童教育の獎勵貯金に在りて保險契
約の種類を何れも百圓、二百圓、三百圓、五百圓、千圓、二千圓、五千圓、以下と定め年
金保險は教育資、生存保險は結婚資、集成資に當てしむるの目的なるが本社創業以來、今



店理代館函社會險保命生本日

日迄に於ける年金生存保険は四十四年末現在契約高一萬七千七百九十五件にて四百萬六千八百五十圓に達し期年ならずして我國保險界最良の地位を占むべく素質を有するものと認めらる。而して現店主は函館區内に於ける實業界の聲望家にして現に區會議員、商業會議所議員並に各銀行諸會社の役員を兼ねるのみならず多年養ひ來りし本道實業界の信用と及び之に伴ふ堅實なる營業の主義とは互に相待ちて終に今日の富を致せり電話五十二番金澤彦作氏。

▼日本生命代理店 明治二十九年百十三銀行内に創めて日本生命保險株式會社函館出

張所を設けたりしが三十七年九月、稱を代理店と改め四十三年十二月今の蓬萊町十七番地に建物を新築し之に移り現今にては本道渡島國全部、膽振の一部を當店保險募集の區域と定め大に營業の開展を圖り以て今に至る電話千八十六番。現店主只木小五郎氏。

▼回漕保險代理店 明治三十年五月創業、船場町廿一番地に扱所を置き店主酒井義夫氏。

右の外、各生命、火災、海上其他保險會社支店及代理店出張所等區内に數多あり。

船 具 店

▼金森船具店 明治九年の創業にして東濱町十一番地に店舗を有し金森合名會社支店たり。又仲濱町四番地に船具出張店を置き一般船具類、機械及建築材料、漁業等を販賣し外に各種ペンキ類及重要船具等は英國直輸入にして郵船歐洲航路開始以來、函館揚げとして直輸入をなしたるに年々營業の發達を遂ぐるに至れり。本社にては四十五年二月更に礦油部を獨立せしめ北海全道の各工場及奥州方面の礦山製材所等に供給し連年需用の多き



森船具店

を見る。本社の資本金は五十三萬圓にして船具店の外に倉庫業、海運業、造林等を經營し地方に於ける信用確實なる合名會社としては資金の多額なること其類に乏しきのみならず函館に於ては最古の商歴を有し且つ諸營業の隆盛なると商業の堅實とは常に内外人の齊しく心服する所にして當店の如きも亦函館一の船具店たり。支店は電話百四十六番、出張店は三十九番、主任社員渡邊楷助氏。

▼函館船具合資會社

印を山と稱し東濱町八番地に在り。明治十四年の創業にして汽船、帆船用具は之れを悉く迅速に調進するは勿論、船具一切の供給は他所よりの分は



函館船具合資會社

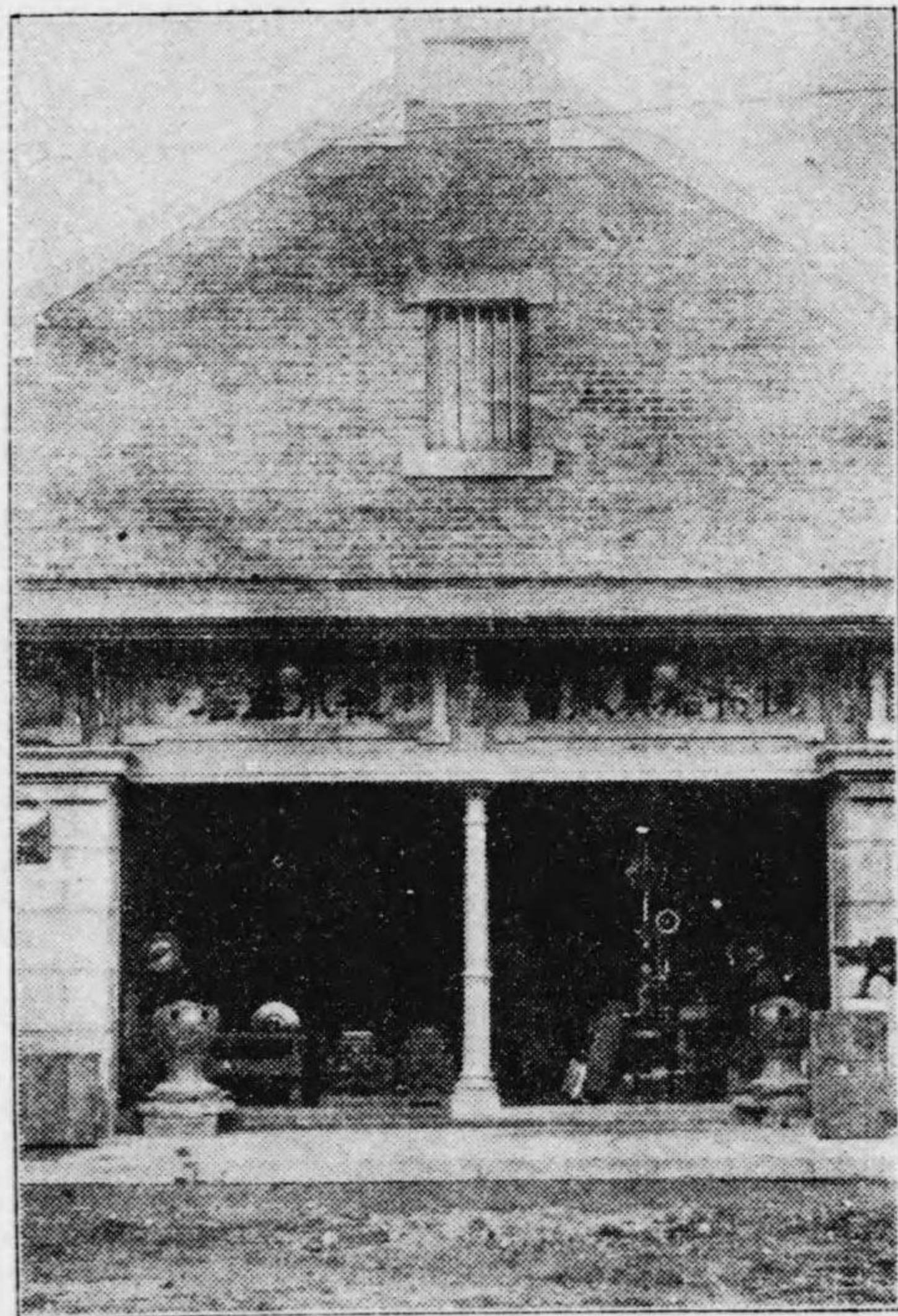
時々、電報にて注文に應じ専ら需用先に確實なる信用を得るに努め居るを以て現に營業の旺んを來たし殊に當店は船具店として最も好地位と認めらるゝ舊棧橋前に大なる店舗を有し加ふるに現營業主任北川龜八氏は商機を見るに敏なると常に如何なる供給をも缺かすことなく北海道は更なり樺太、内地に迄販路を擴め以て船具豊富の實を現はすと共に益々營業の發展を圖り年を待たずして近來發達の足度を早めつゝある一般機械力使用の範圍を從來の如く單に本道内地のみに止まらしめず露領漁業にまで應用せらるゝ際には今に倍する

の盛況を見るならむ。電話二百六十四番社長加藤藤吉氏。

▼樋爪商店

東濱町三十一、三十二番地に在り。

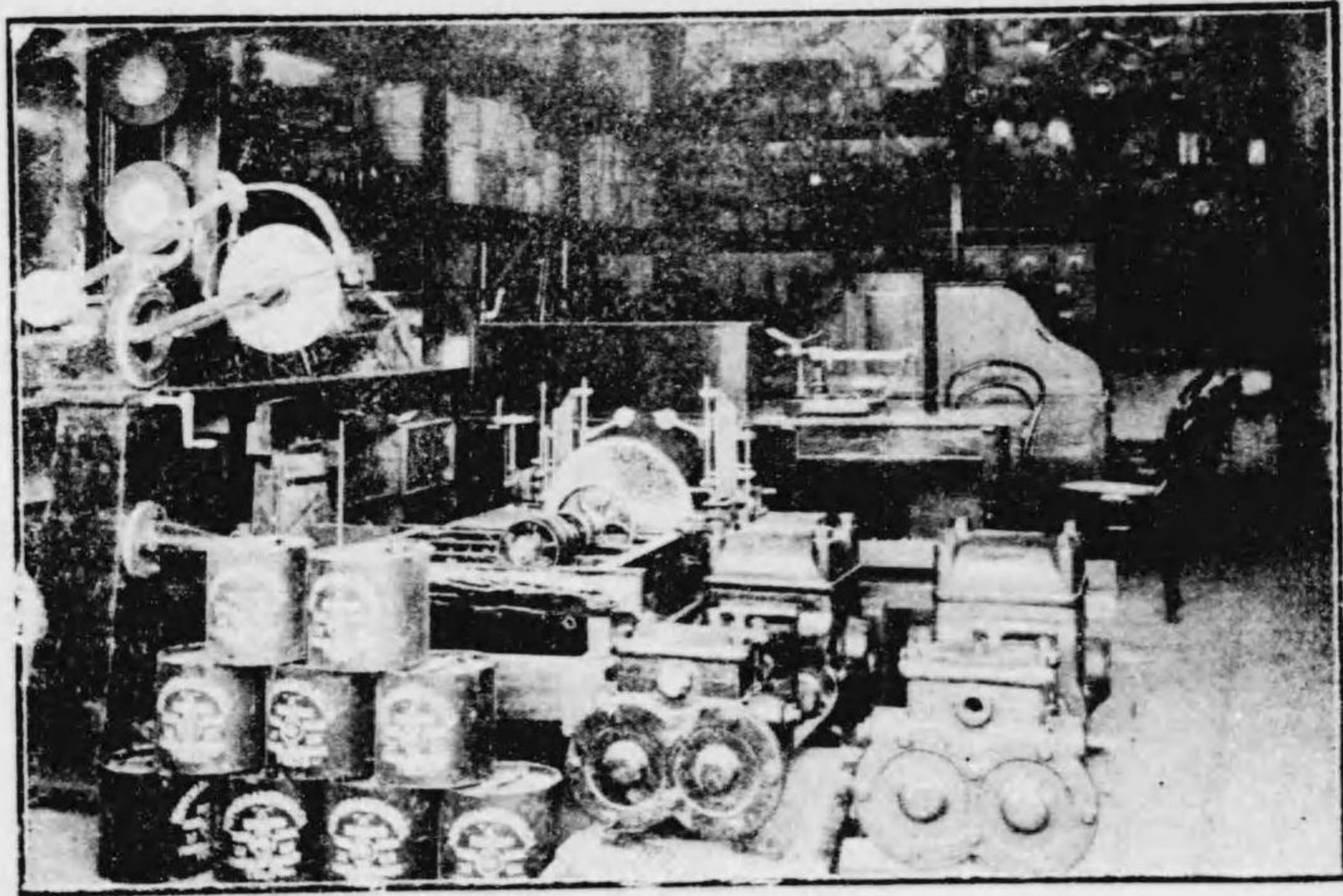
同店は店主及其近親の經營に係り店



(一) ノ 店 商 爪 樋

地に於て諸種の製造工場建設に參與したる等の經歷を有す、今回大に見る處あり當地に於て店舗を新築しホーン商會代理店を兼ね同商會管理米國フエー、イーガン會社製材機

主は當區天神町樋爪與兵衛氏の長子にして多年三井の經營せる名古屋市豊田式織機株式會社支配人、米國機械商エフダブリユー、ホーン商會大坂支店長として勤務せられ機械製作工場の管理及機械輸出入業に經驗を有し殊は南清各



(二) ノ 店 商 爪 樋

械及工場用品一式、米國ブリツス會社鋸詰機械及材料一式、漁業用瀛力捲揚機、輕便軌條發動機船及鑛山用諸機械類、船底塗料、ペンキ、ボイル油、機械用礦油、マニラロープ、ワイヤロープ、鐵鎖、錨、帆布類、其他、漁船、帆船用品の一式の販賣を營業とす。北海道に於ける豐饒なる富源の開發は近年益々旺盛となり且つ近來一般機械力使用の發達は露領漁業にまで應用せらるゝに至りたる時運に達せるを以て此際當店の開業は時機に適したるものにて一般の歡迎する處たり、電話千三百三十六番店主樋爪禎太郎氏。

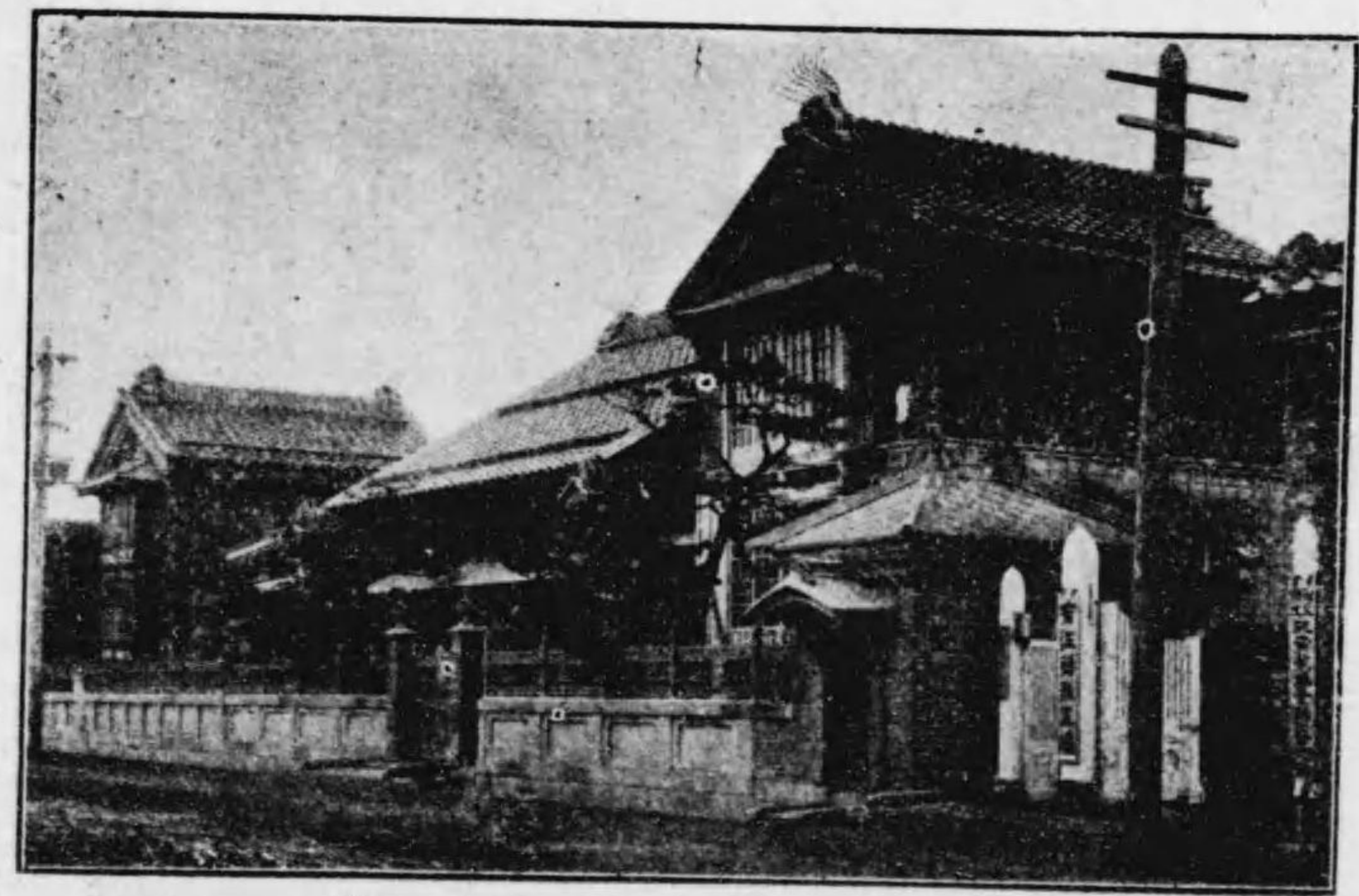
◆金山船具店 明治三十二年鮭澗町に創業、

漁具、船具製造、木材、板類販賣す。仕入先は函館小樽間鐵道沿線各地、販路は本道各漁場及び勘察加、新潟方面に及び商號金山を以て知らる。電話十四番店主山本今吉氏。

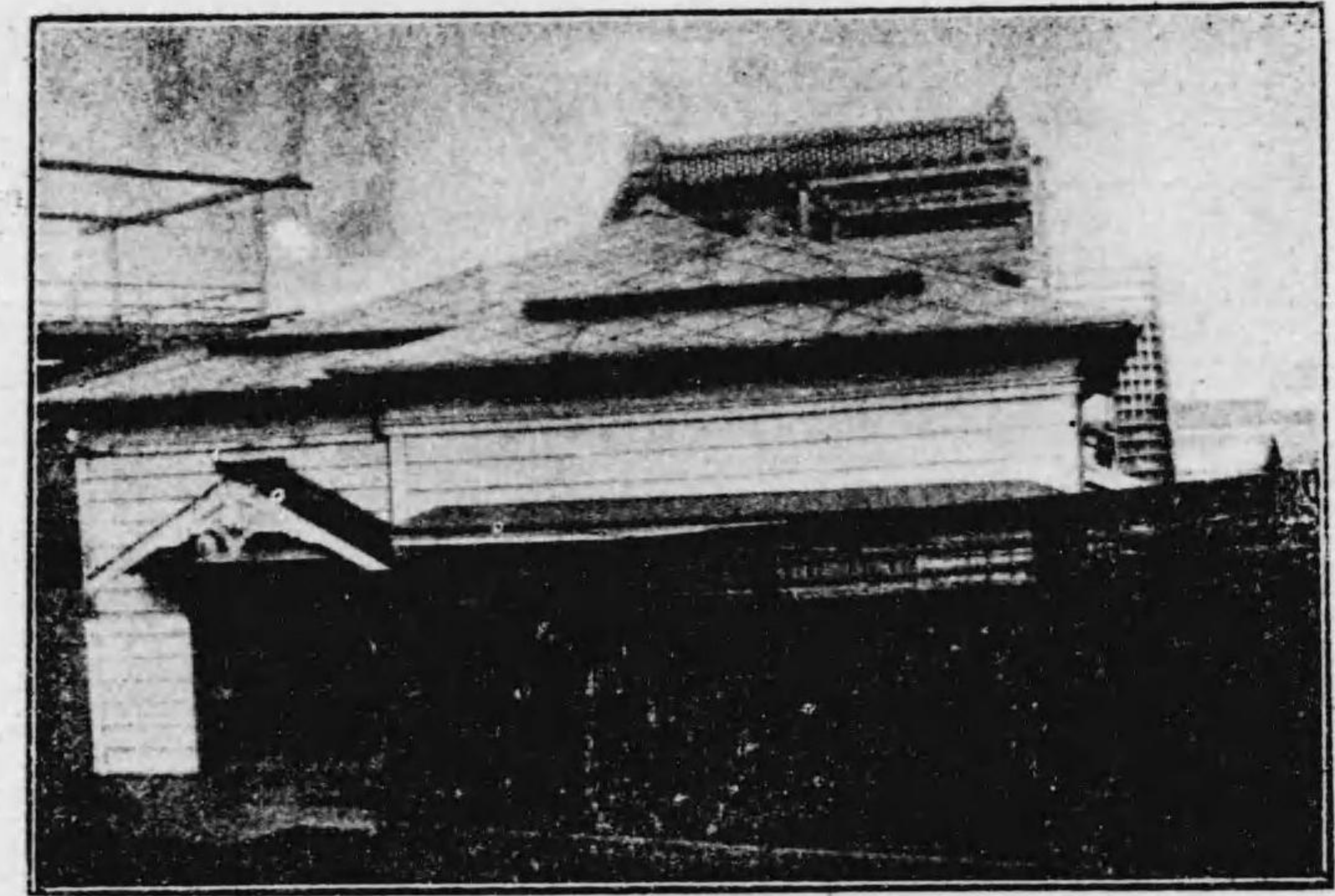
工場

▼有江鑄鐵工場 經營者有江氏は曾て攝津國

兵庫港に建設の製鐵所及其名稱改正後の工務省工作分局製圖科並に神戸鐵道局、同地小野濱英人キールベ一氏所有の鐵工所等にて製鐵、鑄物業を研究し明治十四年の頃大阪北安治川にて鑄物工場を開設す。又長崎造船所、横須賀海軍造船所、横濱



有江鑄鐵工場



竹内新太郎

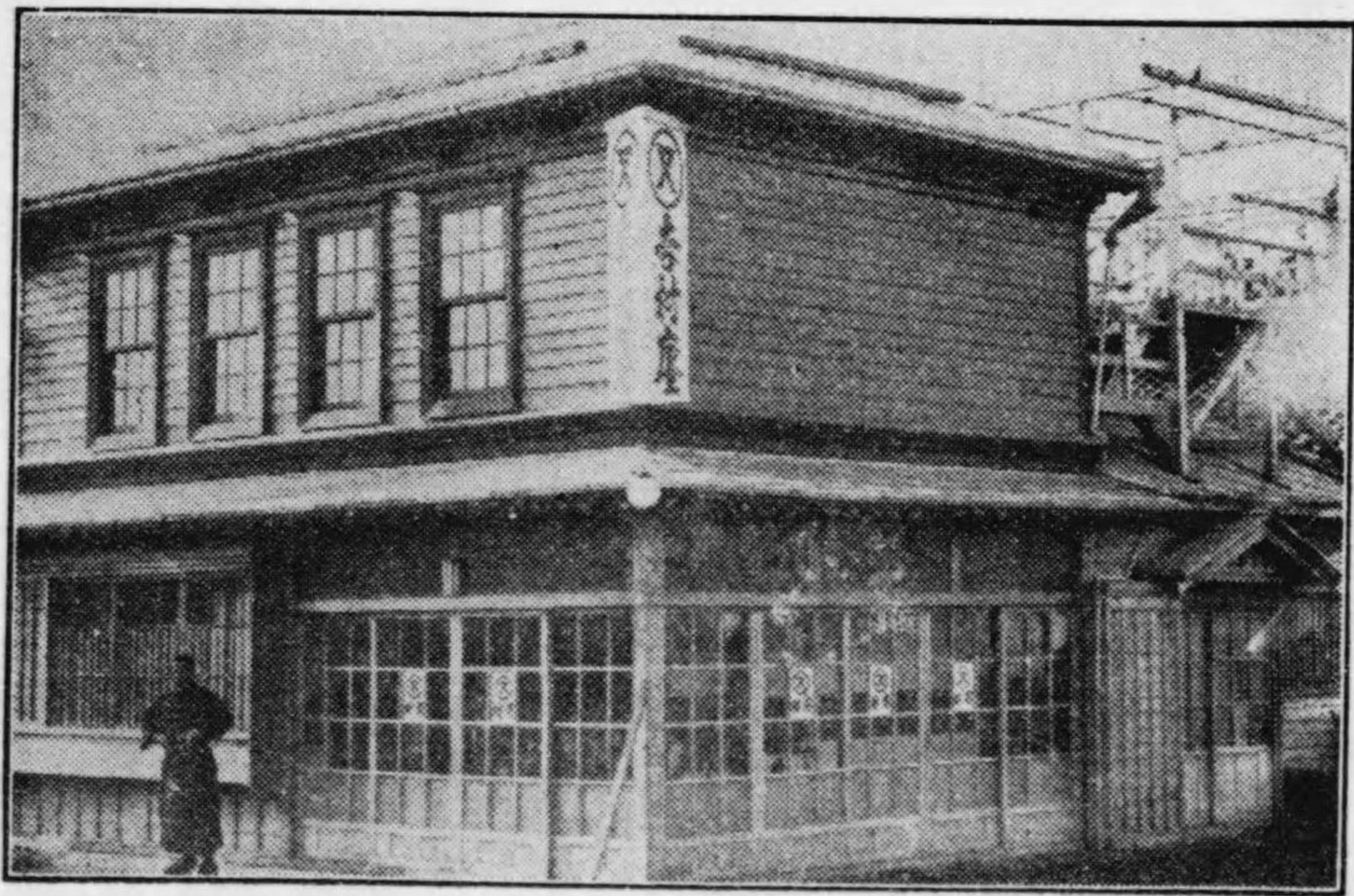
土木建築請負業

▼竹内新太郎氏は播摩國神崎郡川邊村内

屋形の産にして本道有数の土木請負業者たり。青年の頃より大阪土木株式會社の傭人と爲り舞

田中機械工場、越後長岡星野和式鑄物工場にて暫らく技術教師たり。十八年三月函館に來り青柳町十五番地にて和洋鑄物及諸機械製造業を營み二十年地蔵町四十九番地に移轉し本業の外、諸金物販賣を兼ね二十五年東川町二百十九番地へ新工場を開設、三十五年現住所へ工場及居室を新築移轉す。當今は硫黃製煉釜鑄造専門業として巴港隨一たり。電話九百五十一番、持主有江金太郎氏。

鶴に出張社務に従事、明治卅六年同會社解散となりしが以前同會社に於て知りたる村山章氏東京に於て村山組と稱する土木請負業を開始したるを聞き之に依りて店員(村山組の股肱)と爲り同年五月函樽鐵道の起工と同時に函館に出張せしめられ該工事の七分通竹内氏監督の下に竣工を告げたり。四十年一月請ふて村山組より分離獨立し現今に至れり。獨立當時は壽町卅四番地に住宅を構ひ同年の大火に類焼し現住地青柳町三番地に新築轉宅せり。又獨立後年々業務を擴張し明治四十三年度は約八万圓、同四十四年度は約拾參万圓にして本年度の豫算は卅萬圓内外の請負額に上り現今工事着手中のものは瓦



吉村清次郎

斯會社の瓦斯管埋設工事、水電會社の電車線(湯の川線)建設工事等主なるものとし日々使役する所の土工人夫千五百人を下らず電話千二百八番

建設工事等主なるものとし日々



魁文社

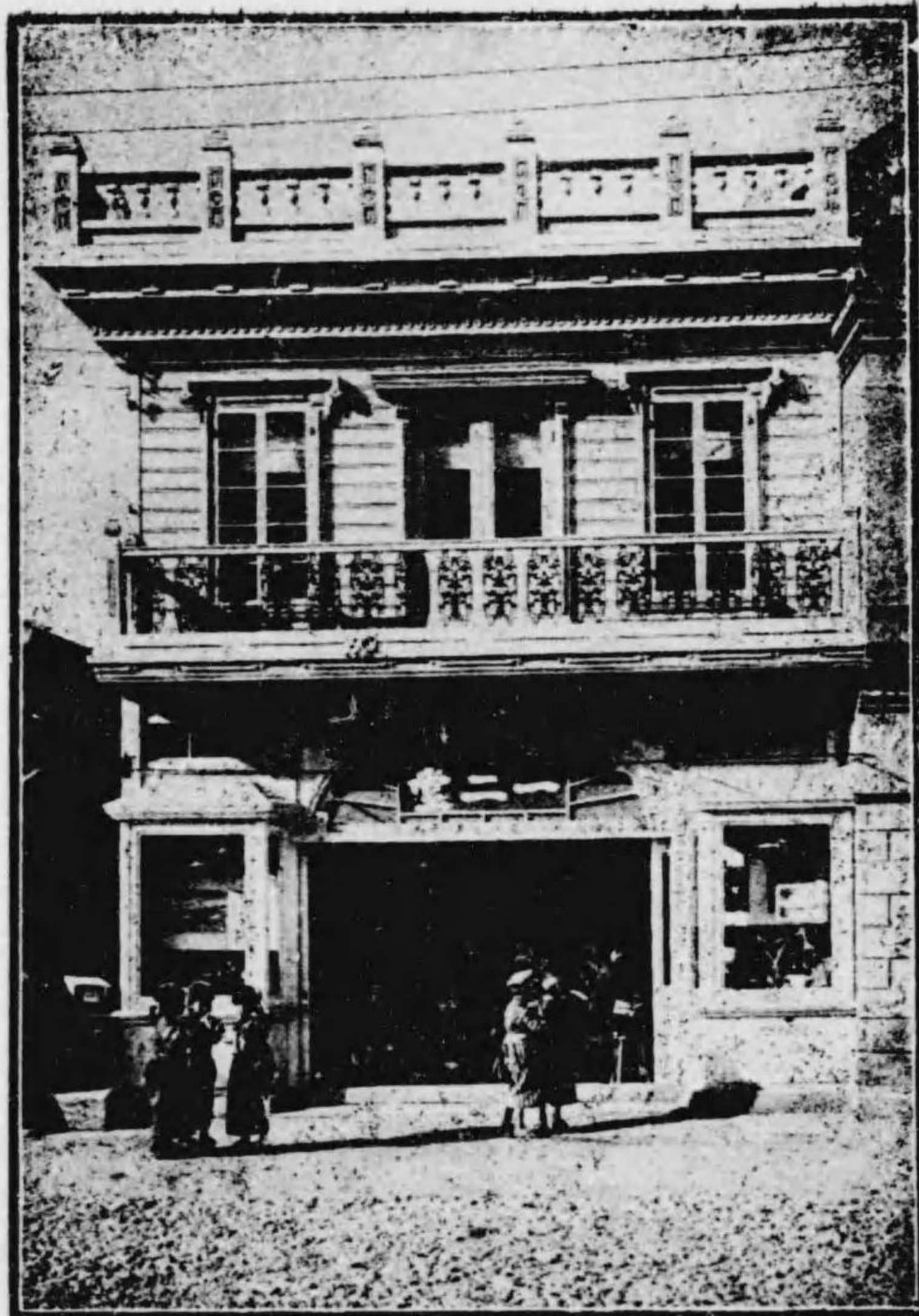
▲吉村黨 同黨創業は明治三十年三月にして今は東濱町五十六番地に於て専ら各地漁場、鑛山行労働人夫の募集請負を以て遠近の需めに應じ親切着實の業務振りを世に知らる。電話千三十九番、店主吉村清次郎氏。

書店

魁文社

末廣町七番地にあり明治八年の創業にして金森合名會社支店たり。營業種目

は書籍、文具類及學校用諸器具の販賣を主とし就中國定教科書は函館、檜山、室蘭、浦河、釧路、根室の六支廳管内の販賣區域を有し又特約販賣品としては堀井騰寫版及東洋樂器會社製樂器等あり店頭常に顧客雜沓を極め斯種店舗中區内第一の老舗たり。電話三百四十五番主任八木勘五郎氏。



堂 二 一 森 金

社製樂器等あり店頭常に顧客雜沓を極め斯種店舗中區内第一の老舗たり。電話三百四十五番主任八木勘五郎氏。

▼金森一二堂 函館の商界に信用最も厚き金森合名會社支店にして書籍店と

しては魁文舎に告ぐ老店たり。殊に函館の書房中、諸學生等の呼び聲、最も高く爲めに斯種の書籍は何時も賣行好く且つ樂器、雜誌、文房具、運動具、額面、繪はがき等の販賣品

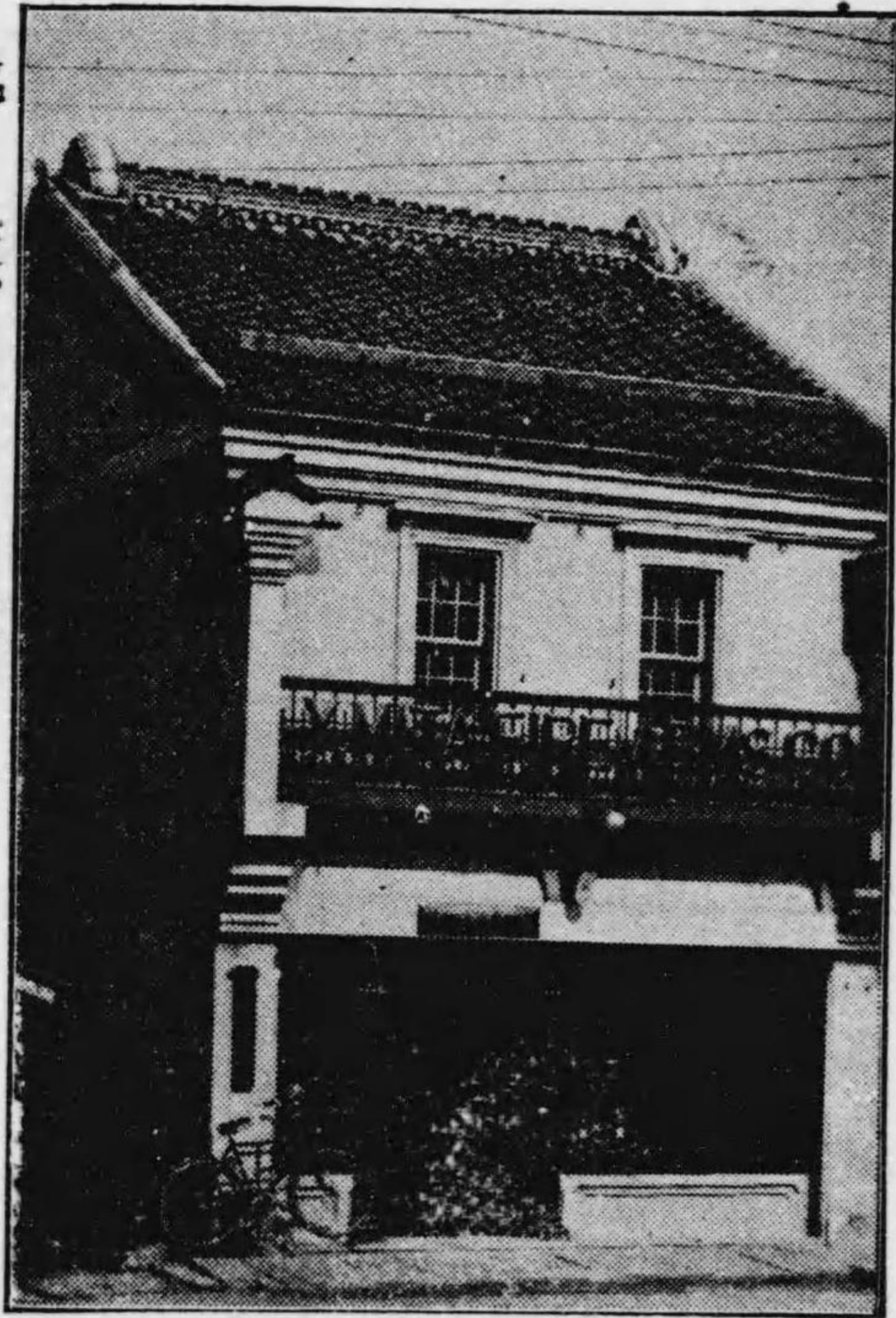


店 書 堀 西

は何れも多くの買客を有し店内常に人足絶へざるの景況に在り。又當店は諸雜誌類は勿論、其他の新刊物等は速に得意先の注文に應ずるの特色あり電話七百六十番、營業主任伊藤房吉氏。

▼西堀書店 末廣町十四番地にあり本店は初め久隣迄江堂及久星弘文社の兩店合同して大正元年九月新たに合名會社組織となし、久隣西堀書店と稱せり販賣種目は新刊書籍雜誌、各種學校教科書、筆墨紙文房具類、測量製圖機械製圖用具及紙類、樂器及運動具類、歐米流行雜貨、度量衡器、擊劍及柔術道具、室内裝飾具、小間物玩具類、和洋諸帳簿類、等にして外に石

版、活版、銅版印刷並に製本を兼ねたり。印刷製圖機械發賣元、巴印複寫紙及複寫籍發賣元、函館大沼風景繪葉書發行所、北海道圖書發行發賣元たり。書籍の仕入先は博文館、同



三田火藥銃砲店

文館、三省堂、實業之日本社等を始め其他の出版元、文具は丸善、博文館文具部、堀井隆寫堂、文運堂其他各製造元等にして販路は常区内は勿論全道各官公所、學校を始め本道各地及内地東北地方に及ぶ店頭常に顧客蟻集し頗る盛況

を極む。電話五百四十六番。

▼三田火藥銃砲店 十數年前會所町に開始し明治四十年大火罹災後今の末廣町四十

八番地に新築四十二年之れに移り營業を繼續す、同店は盛岡市丸に本店を有し東京、札幌、函館及室蘭に支店を置き火藥並銃砲類の輸出入商を營業とし現に陸軍省製造の火藥類の外英國ノーベル爆發物會社と特約し同社製品等の日本北半部、關東、東北、北海道、樺太)の大販賣店にして北海道灰礮船船株式會社を初め本道諸鑛山及小坂、不老倉、釜石等有名なる計鑛山外に北陸地方鑛道敷設工事に使用する爆發藥に至るまで總て三田火藥銃砲店の供給する所に係り銃砲類は内外國最新式の物を仕入れ常に店頭に充せり、電話五百五十九番本店主は三田義正氏。

毛皮店

▼小川毛皮店 安政五年先代袋物商を今の所(末廣町)に開業し明治七年に至り創めて毛皮店を開き三十三年先代死亡後當代營業を繼續し現今に及ぶ。當店の販路は生皮は海外に輸出し殊に英國倫敦に於いて好評を博し毛皮賣先は北海道各地、東京、大阪地方なり。又製革場を高札町十番地に有し同所は元と開拓使の所有經營に係りしを明治十四年之



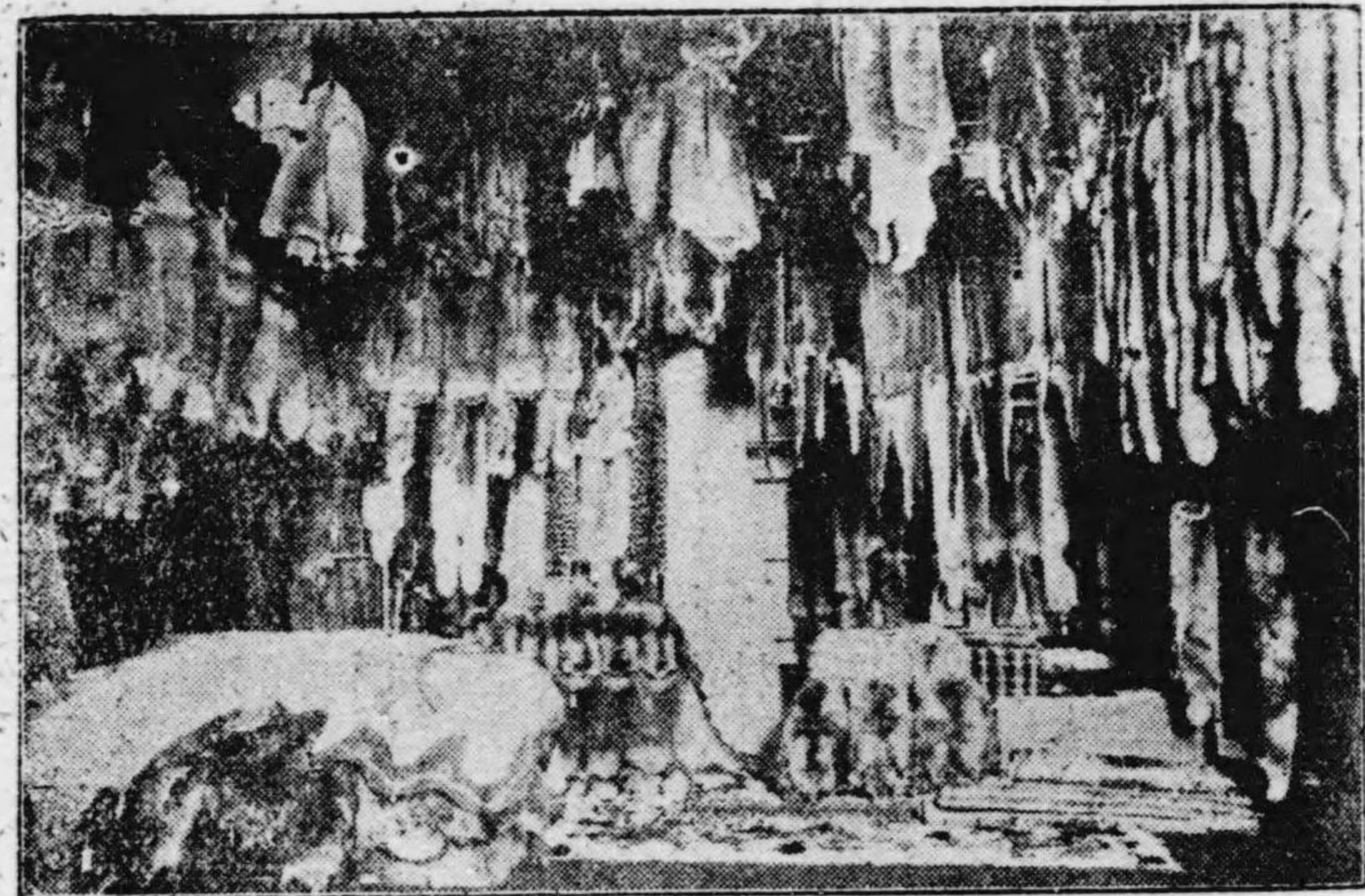
松 下 毛 皮 店

一七〇

を拂下げ以來當店の所有に歸せり。同店は北海道毛皮商の老舗にして毎年露領勘察加方面に店員を出張せしめ毛皮の買入を爲し其他の仕入先は本道及樺太地方にして製革場には常に拾數名の職工を役し盛況を極む、店舗の電話は四百七十一番、工場用電話は千二百九十三番、店主小川長之助氏。

▼松下商店

末廣町六十三番地にあり毛皮類の海外輸出及卸小賣商を業とす、當店の創業は明治卅一年にして其年十一月近火頓焼に罹りたるを以て東濱町より末廣町に移り四十年の大いに再び延焼、同年二月現今の地に新築開店



中 村 新 八 氏 (店 舗)

するに至る。同店主が創業以來の著しき功績を擧げんに第一毛皮の海外直輸出開始、毛皮製革法の改良、毛皮裁縫職工を清國より卒先雇入、臘臍臍皮の荒毛採取法の發明、毛皮の染色開始等にして明治卅六年第五回内國勸業博覽會、卅七年米國華路易萬國博覽會、卅九年五二共進會同年北海道物産共進會、四十一年小樽水産共進會、四十四年日英博覽會等に出品し毎時金銀賞牌及賞状等を受け、殊に昨年八月 皇太子殿下(今上陛下)行啓の際製品御賞上の榮を賜ふ、電話六百三十三番店主松下熊樅氏。

▼中村毛皮店

末廣町八十二番地にあり。

一七一

海外行毛皮の多くは同商店の手を経て輸出さる。又同店は嘗て帝室より毛皮御買上の光榮を有し日英博覽會を初め各博覽會 共進會等に出品し毎に金銀賞牌を贈與され本道に於ける有名毛皮商店たり、同店は毛皮裁縫工として支那職工を雇役し如何なる裁縫も注文に應じつゝあり。店頭常に數萬圓の革皮を陳列し頗る盛大を極む。電話一〇二八番店主は中村新八氏。

▼松山馬具店 明治二十年開業、現に末廣町大通りに店舗を有し馬具の卸小賣商を營む。店主は舊函館鐵道馬車株式會社重役松山吉三郎氏の令息にして區内青年實業界に顔を知らる。電話五百五十六番店主松山義雄氏。

▼佐野硝子店 印を角大と稱し大町十三番地にあり。明治二十年先代の創業に係り四十二年先代寅之助氏死亡後當主に至り業務倍々盛大に赴き當業者中有數の店舗たり。帆影町に製造所を有し洋燈類、壘類、其他硝子器を製造し販賣主目は洋燈、硝子器は勿論電氣機具、瓦斯マントルホヤ等にして就中板硝子、鏡は舶外直輸入物にして販路は北海全道、



安 齋 硝 子 店

内地東北地方、樺太及遠く露領沿海州、カムザツカ地方に及ぶ。電話二九七番店主佐野鎮市氏

▼安齋硝子店 明治十一年中野某の創業に係る。二十八年當主先代之を引受け三十年今の店主繼續經營し大いに發展盛大を致す。營業品目は洋燈類、壘類、洋盞類、瓦斯マントルホヤ其他硝子器一切にして販路は本道北見、日高方面、東海岸一帯、俱知安(鐵道沿線まで)並に樺太に及ぶ又松風町二百五十五番地に製造場を設け諸種の硝子器を製作しつゝあり。當店は印を金羽と稱し函館の硝子店中有名の者なり。店舗は惠比須町五十七番地にあり。電話八六一番

店主安齋仁吉氏。

▼荒木海事扱所

明治四十一年二月より今の鍛冶町三十一番地に於て開業したるに爾來、海員の智識の進歩と共に此等の時代要求は何時しか受験者の數を殖し殊に事務の取扱には勵めて信切を旨とせる所主の好意は現今の繁榮を促がしたる唯一の原因たり。所主荒木留吉氏。

▼海事代願事務所

富岡町十番地に在り。船舶と船員に關する事は細大共、誠實親切に取扱ひ居るを以て依頼者踰る多し。所主は札幌遞信管信局許可の海事代願人にして事務所創開以來官邊の信用も厚く從て營業の隆盛を見るに至れり。所主廣澤英藏氏。

▼日時船員媒介所

居を豊川町四十二番地に構へ函館に於ける海員寄宿所及下級海員養成所の鼻祖として知らる。創業は明治三十年にて一年中の船員媒介數五百人内外常に寄宿者十五人位。所主は三十六年五月日本海員掖濟會通常會員となり四年前組織されたる南部會員の發企者たり。又日本赤十字社よりも多大の勧誘したりし廉に依り先年感謝

狀を贈らる。當所は海員掖濟會函館支部と連絡を保ち郵船會社乗組員並に社外船乗組員の媒介に力を盡し現時の如く營業の隆盛を來たせり。所主は舊南部藩士にして日時長八氏

▼金子海員寄宿所

店主は始め海員として渡道し明治二十五年船場町に沖商を開業し四十年の大火に類焼し豊川町に移り海員寄宿所を開き四十三年亦近火の類焼に罹り同年今の末廣町九番地に轉じ各船船乗組員の媒介及休職海員の寄宿所を營業とす。同店一箇年媒介海員の數は千百余に上り常に廿五六名の寄宿人を收容せり。店主は金子芳太郎氏

▼船車連絡待合所

今より五十五年前、谷地頭に開業せし淺田屋（清次郎事）と云ば函館料理屋の古暖簾たることは萬客の共に認むる所なりしが明治卅六年廢業の上若松町に函館停車場の設けらるゝや待合所を開き一二三等乗客の船車各待合室及風呂場の設けあり。且旅客に供すべき辨當其他一切の停車場構内賣出し商人は勿論、船車發着の際旅客の便宜を取計ふ所の赤帽を數多雇入れ便利用途の衝に當り居を以て旅客の輕便實に大なり。所主は其以前淺田屋の女將として人、口に喰灸されたる淺田清子、電話八百四十四番。

芙蓉寫真館 明治末年(四十五年)三月蓬萊町に創業。當館は同年七月今の相生町

蛸ヶ(七十六番地) 舊梅本寫真館の跡に移り主として寫真各種攝影調製の傍らコロタイプ



芙蓉寫真館

各種印刷製本部を置き兩部共に各専門の技師を常聘し其任に當らしめ居るのみか攝影場の如きは努めて空氣の流通を圖り又器械器具は最新式を應用する等諸般の設備完備したる上にも晝間は勿論、夜間撮影も需めに應じて精巧の技術を奮ひ尙出張撮影の際は晝夜の別なく迅速に出張し總てに於て丁寧迅速を期し出來期日々正確、印畫の優美にして鮮明ならしむる上に専念注意到らざるなし。主任佐藤顯氏。

吉川石版所 明治卅一年三月沙留町小口

寅次郎氏の經營に係る。四十年大火後、今の恵比須町廿四番地に移り四十一年六月前所主死亡後、之を引継ぎ四十四年一月辻藤九郎氏新に同所を經營し以て今日に及ぶ。誂ひ先は市内は勿論、地方にては帶廣紋龜、樺太等にて印刷精巧との評あり。電話一四五九番所主辻藤九郎氏。

神永商店 印を負長と稱し初め末廣町七

十一番地にて開業以來、年を逐ふて營業の範圍を擴張すると共に汎く本道官公衙諸會社よりの貴需に應じ椅子、テーブル等の西洋家具及び窓掛、カーテン、敷物、テーブル掛等の室内装



神永商店

飾和式一切を迅速町噂且つ廉價に調進するのみならず前記の製材は主に本道産の色樹を用ふるが故に現今にては廣く各地よりの注文繕出するの有様にて其が爲め大に江湖の信用を博す。當店は創業滿八年の間、今日まで洋式と和式との室内裝飾上に多大の苦心を重ねたれば所謂和洋折衷の室内裝飾をも調和好く整へしむるを以て特に好評あり。殊に本年八月三十日同町四十九番地永國橋角に立派なる店舗を新築移轉後は従前に比し更に業務の發展を圖り工場には常に十五六人の職工を併用し總てに美術的製作を期しつゝあるの傍ら益々商工兼業の實を擧ぐるに努む。電話千〇二十四番、店主利永貞山氏。

▼中井紙箱製造所

美術紙箱製造並に菓子袋調製を専業とせる當店は印を丸福と稱し明治三十六年の創業たり。今は惠比須町三十三番地に於て營業を開始し製作の吟味は勿論、多年修得せる精巧の技術は世人の風に知る所にして製造品は室蘭、紋別、樺太地方へも多く販出を見る。所主中井啓次郎氏。

▼丸伍紙箱製造所

明治四十一年の創業に係り今は惠比須町五十六番地にありて蓋



博 善 社

し本道に於ける紙箱製造の鼻祖なるが故に各地方への誂へ多く爲めに同業間の好評を博す。所主中井豊作氏。

▼博善社

明治三十二年の創業にして最初葬儀台資會社と稱せり。後ち博愛株式會社と改め現今は社主當時の職工長として名を知られ四十年より獨立經營となりて今日の隆進を來たす。當社は葬具造化、生花、立花等何れも時間の正確を期し丁寧迅速に且つ廉價勉強を旨とし一切を調進するにあり。營業所は末廣町三十三番地即ち通稱二十間坂通りにて電設六百三十三番、社主が多年修鍊せる巧妙の技術と及び熟達せる幾

多の僱用職工とは兩者相待ちて日増に計文の數を加ふ。社主小泉春吉氏。

◆金澤履物店 明治二十六年創業。地蔵町十番地に在り。△印と稱し履物製造卸小賣商にして市内及び近村に販路を有す。當店の特色とする所は流行下駄の魁は勿論製造念入にあるを以て賈客の信用を得て賣行宜し。店主金澤豊三郎氏。

函館藥業組合

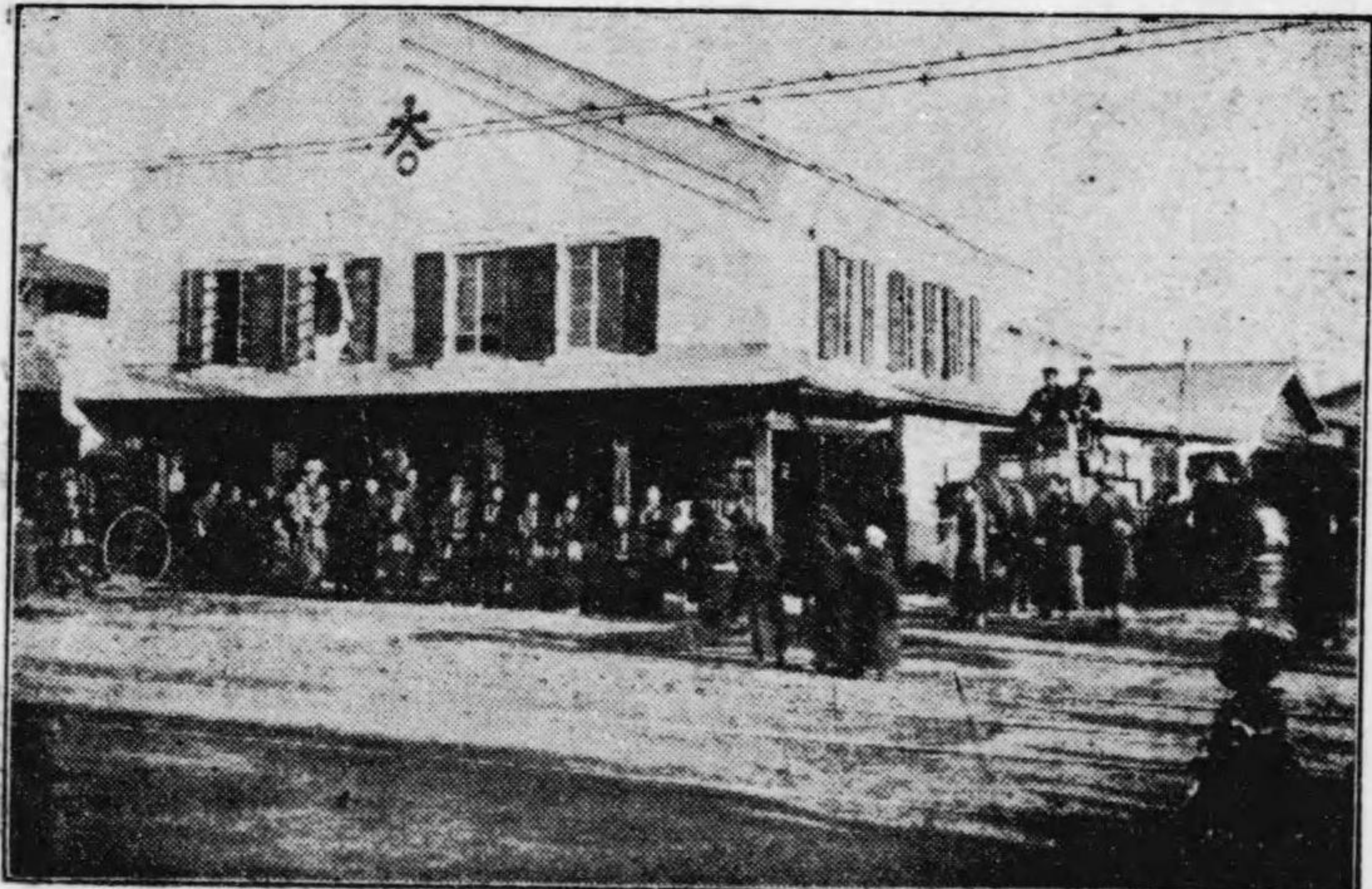
最近の如く未だ醫藥調劑の進歩を見ざりし以前即ち明治維新前迄は函館にては進化したる藥劑の發賣元なかりしは事實なれども現今地蔵町、往時は大町に在りし大○印佐藤藥舖の如きは今より五十年前已に函館の藥屋として買藥者の口に膾炙せられつゝあり。其後今の末廣町梅津商店附近に於て開業せる網塚藥店及び其他の藥種商續いて營業を開始するに至りて漸く其數を増し二十年創めて函館に藥業會なるものを設け僅かに同業者間の聯絡を保ちしかど其當時の藥種營業者は前記の老舖を初め高橋藤藏、濱野熊次郎、通稱金田一、千馬市五郎等を加へ十一名なりしも後年同業者の數を殖し四十三年十二月函館藥業組合の組

織を見たりし際には八十九名にて現在九十三名の多きを致せり。當組合にては組合員より毎月一等三十五錢、二等二十五錢、三等十五錢、四等十錢の四階級に分ち年六期に經費を取立する事に規定を設け以て組合の維持を鞏からしむ。又組合規約に基き各自戒め合ひて商行爲の弊害を矯正し尙賣藥の定價を乱すが如き營業上の不徳を行はしめざるやう常に濫賣防止の適法をも講じ居れり。尙組合規約に依り火災死去等の救恤及び藥業に關する一切の通信費は右の維持費の内より支出さる。又雇人獎勵法としては特に品行方正なる者に對し組合の決議を経て賞品及び賞状を贈與するの規定あり。現組長は函館最初の藥種尙たる佐藤宗助氏副組長草刈元次氏外役員十二名。

◆大○佐藤藥店 創業は今より五十年前即ち萬延年間にして實に函館藥種商開業の嚆矢たり。始め辨天に在りしも其後一時閉店の上五六年後今の町に再び營業を開始したるが當店は後ち地蔵町五十二番地(今の箇所)に居を轉じ同所に於て三十八年間函館最古の藥店として確實なる營業振りを見せ來りしも明治四十年の大火に類焼し後亦舊の地に牢

乎たる新舗を建築し遂に今日の盛んを來せり。
 店主は函館の業者中、最も誠實の聞えある實
 業家にして石蠟光明蠟痲病一寶丹製造の元祖
 なるのみならず重なる營業科目は醫用藥品、醫
 術器械、化粧品類、油類等にて其他の諸品は何
 れも聲價を博し居れり電話九百十番店主佐藤宗
 助氏。

▼草刈藥館 明年三十七年八月(戰時中)
 函館要塞病院の藥劑官として來函したるが三十
 八年十二月日露大戰終局を告ぐるや豫備役に編
 入せられし以後は網塚藥店に藥劑師として招聘
 する。四十三年三月三日其任を辭し今の鶴岡町



佐藤藥店

草 刈 藥 館

三十一番地に藥劑調劑分拆の傍ら藥品販賣をも業
 とし函館區内は勿論、東北に在りては宮城、秋田
 岩手の各縣及び美州並に本道樺太方面迄も販路を
 有す。當館に於て多年調劑に苦心せる耳鼻咽喉病
 特效藥は斯病に顯著なる効能あることは世風に定
 評わら。殊に館主は函館藥劑師會常務幹事、陸軍
 醫團函館研究會幹事、帝國軍人會函館支部及函
 館分會評議員、同第十四分團長等の榮職を擔ひ外
 に正八位勳六等の名譽ある紳士にして草刈元次氏
 電話八百九十四番。

▼鎌田藥店 末廣町八十一番地に在り明治三
 十六年十一月の創業にして四十年の大火に類焼同



年十二月再築落成、**本店**は薬品の製造販賣及賣薬を兼業とす。同店の製劑中最も著名なるものは沃陳丁幾（外用）、拔地里膏（一名吸出し）、化粧用「あれしらす」等にして区内は勿



店 薬 田 鎌

論本道全躰に販路を有せり。而して店主は明治三十九年前は先代正太郎氏の經營にして現店主鎌田莊八氏。

●**徳山薬店** 創業は明治四十四年九月にして今は會所町三十五番地に在り。印を一〇と稱し有名なる多くの薬品

及び化粧品けしやうひんの販賣はんばいを業とし坂の上にては唯一の薬舖やくぶたり。店主徳山二郎氏。

▼**大村薬店** 末廣町九十五番地に明治四十年二月の開業に係りヘルツ液發賣元にして

年十二月再築落成、當店は藥品の製造販賣及賣藥を兼業とす。同店の製劑中最も著名なるものは沃陳丁幾（外用）、拔地里膏（一名吸出し）、化研用「おれしらす」等にして区内は勿



店 藥 田 鎌

論本道全躰に販路を有せり。而して店主は明治三十九年前は先代正太郎氏の經營にして現店主鎌田莊八氏。

徳山薬店 創業は明治四十四年九月にして今は會所町三十五番地に在り。印を一〇と稱し有名なる多くの藥品

及び化粧品の新賣を業とし坂の上にては唯一の薬舖たり。店主徳山二郎氏。末廣町九十五番地に明治四十年二月の開業に係りヘルツ液發賣元にして

回 漕 業

各地行海陸接續貨物ノ取扱
船舶貨物積卸作業及税關手取取扱
右ノ内外貨物配達及運搬
日本郵船株式會社荷客取扱店
帝國海上運送火災保險株式會社代理店
橫濱火災海上運送信用保險株式會社代理店
英國サン火災保險株式會社代理店
瀨達火災保險株式會社代理店
萬歲生命保險株式會社代理店

各地行海陸接續貨物ノ取扱
連絡船輸送貨物ノ取扱
市ノ内外貨物配達及運搬

函館區東濱町二十一番地

和 丸 和 合 名 會 社

電話番號(三〇六番)(六一四番)
振替貯金口座(一三五六八番)
電信番號(〇〇)又(マ)
電信(丸善イロハ暗號)
暗號(日本電信暗號協會〇暗號)

全國各線鐵道貨物取扱

函館區若松町九番地(停車場前)

和 丸 和 合 會 社 鐵 道 部

電話番號(九二六番)(八八三番)
振替貯金口座(一六六七九番)
電信番號(テ〇〇)又(マ)
電信暗號(丸善イロハ暗號使用)

代表社員 森 田 昌 司

高等毛皮
直輸出入
賣買製革
裁縫染毛

函館區末廣町六十三番地

△ 松下熊槌商店

電話(六三三番)

小樽區色内町三十一番地

同 支 店

電話(五八八番)

美容ニ關スル一切ノ技術ハ弊店ノ特色

函館區大町基坂角

城 理 髮 館

城 豐 治

最新流行式尙ホ電氣「バイブリター」マシンサアジ機械
ノ設備アリ御望ミニ應ジ申候



網 塚 分 店

其他藥種、賣藥、造花材料の販賣店たり。電話
四百八十四番、店主大村新太郎氏。

▼網塚分店 函館に於ける藥種商の老舗網
塚の分店にして現に地藏町四十六番地に在り。
當店の販賣品目は醫療用藥品、理化學用品、諸
工業用品、最近新藥類、醫療用器械、理化學器
械、滋養強壯藥、諸高名賣藥、衛生消毒材料、
漆金銀箔粉類、繪具染料品、薰物と漢藥其他藥
業に屬するもの一式販賣にして近來一層營業を
擴張の品質善長を圖り價格低廉に且つ地方
の需用者に對しては廉價は勿論、荷造完全、出
荷敏速を旨とし努めて買客の便利を考へ商品の
取扱は最も丁寧を期するが故に營業盛んなり



分店

四百八十四番、店主大村新太郎氏
 ▼網塚分店 函館に於ける藥種商の老舗網
 塚の分店にして現に地蔵町四十六番地に在り
 當店の販賣品目は醫藥用品、理化學用品、諸
 工業用品、最近新業種、醫藥用器械、理化學器
 械、滋養強壯藥、諸高名賣藥、衛生消毒材料、
 漆金銀箔粉類、絨具染料品、産物和漢藥其他藥
 業に屬するもの一式販賣にして近來一層營業を
 擴張の上品質善良を圖り價格低廉に且つ地方
 の需用者に對しては廉價は勿論、荷造完全、出
 荷敏速を旨とし努めて貴客の便利を考へ商品の
 取扱は最も丁寧を期するが故に營業盛んなり

貯蓄的公債販賣

營業課目

諸公債 有債 證券ノ 賣買 一般 信託業 有價證 券擔保 低利ノ 貸出金

取締役社長 男爵園田安賢

專務取締役 辻川敏三

取締役 佐藤善吉

取締役 志水美英

監査役 佐々木文一

監査役 原田雄門

本社 東京市日本橋區本材河岸六九番地

東京國債株式會社

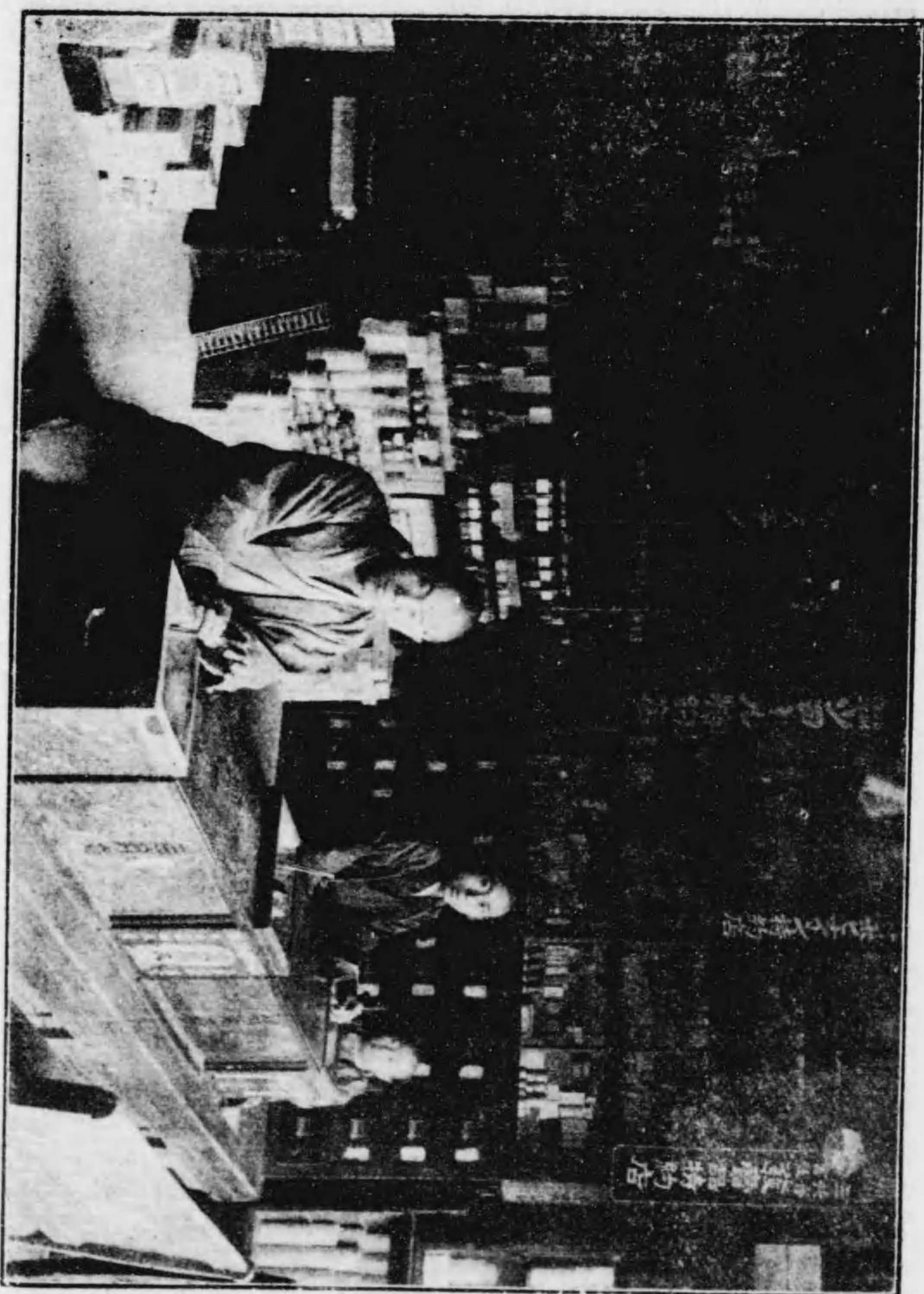
振替貯金口座東京二〇三二二三番

電信略號(トコ)信託部(トコシ)

函館區蓬萊町十三番地

函館支部

主任 園田半之助



◎生毛液「ピローゲン」

北海道總代理店

營業種目

- 醫工科藥品一般
- 衛生消毒材料
- 醫療理化學機械
- 内外有名賣藥
- 寫真用藥品
- 度量衡器
- 線香沈香薰物類
- 流行化粧品各種

渡邊合名會社支店

森回生堂藥舖

函館區末廣町九番地
電話(千〇八二番)

▼生盛藥館

鶴岡町二十番地にあり。東京々橋區月島に本店を有し明治三十二年本館

主丹澤善列(現今二代目) 同家傳來の徳本、長田兩大醫調副の寶玉丹、清邪丸等五種を始

めて發賣し世の高評を博し後之を十九方とし益々販路擴張を計り生盛藥館の命名と同時に

大に賣子を募り一種の制服制帽を製し軍隊的制度を採用し軍歌に倣ふて左の唱歌を唱ひつ

つ行商せしむ。

「勇めやいさめもろどもに國家の爲めに弘むべし、生盛藥館の製劑は、日本無比なる家傳にて、徳本大醫の遺方藥、其大効は著るし、用へて効能を知り給へ、オイチニ」

斯して藥名効能を吹聴し盛んに活動を開始して各地に支部を置き全國は勿論滿州、朝鮮にまで賣弘めつゝあり。函館支部は明治三十二年豊川町大火前鶴岡町に開設類焼後西川町に移り四十二年四月今の所に移轉す。同館は近々新藥十二方を製劑發賣する由、其外江戸洗ひ粉、江戸齒磨をも發賣しつゝあり。現支部長は田口梅次郎氏。



生盛藥館

函館物産商組合

正保年間以降（今より二百六十餘年前）は主に物貨交換の事は純然たる商賈の非らざりし函館も天和、安永より文化、文政以後に至りて漸く現今濱町附近商賈の如く各々米穀或は海産物を取扱ふ事となり後、安政年間一たび開港互市を許されし以來、北海道産物は何れも日本各地の會所を経て賣買せしめ尙開拓使の時に至り松前藩時代には常人に賣買を嚴禁せし煎海鼠、干鮑の類をも常人に賣買を許すの制を立て明治五年人民産物繁殖及び土地潤澤の爲め外國貿易を除くの外其年より三ヶ年間輸出入税を免除したる事あり。十六年清佛戦争の爲め函館海産物にも影響を及ぼし幾多海産物の暴落と共に物産商中損害を被るものありしも翌十七年夏頃より商勢の恢復を見る。然して當組合の創立は維新前後にして其以前には函館の物産商は各東西兩地に在りて營業を持続す。當時の同業者は百名内外に満たざりしものゝ如し。されば此等の營業者間には商業上の連絡を缺き地方物産賣買の折には間々商事の行き違ひを來せしかど斯かる場合には組合員相互の紛擾を醸さざるやう

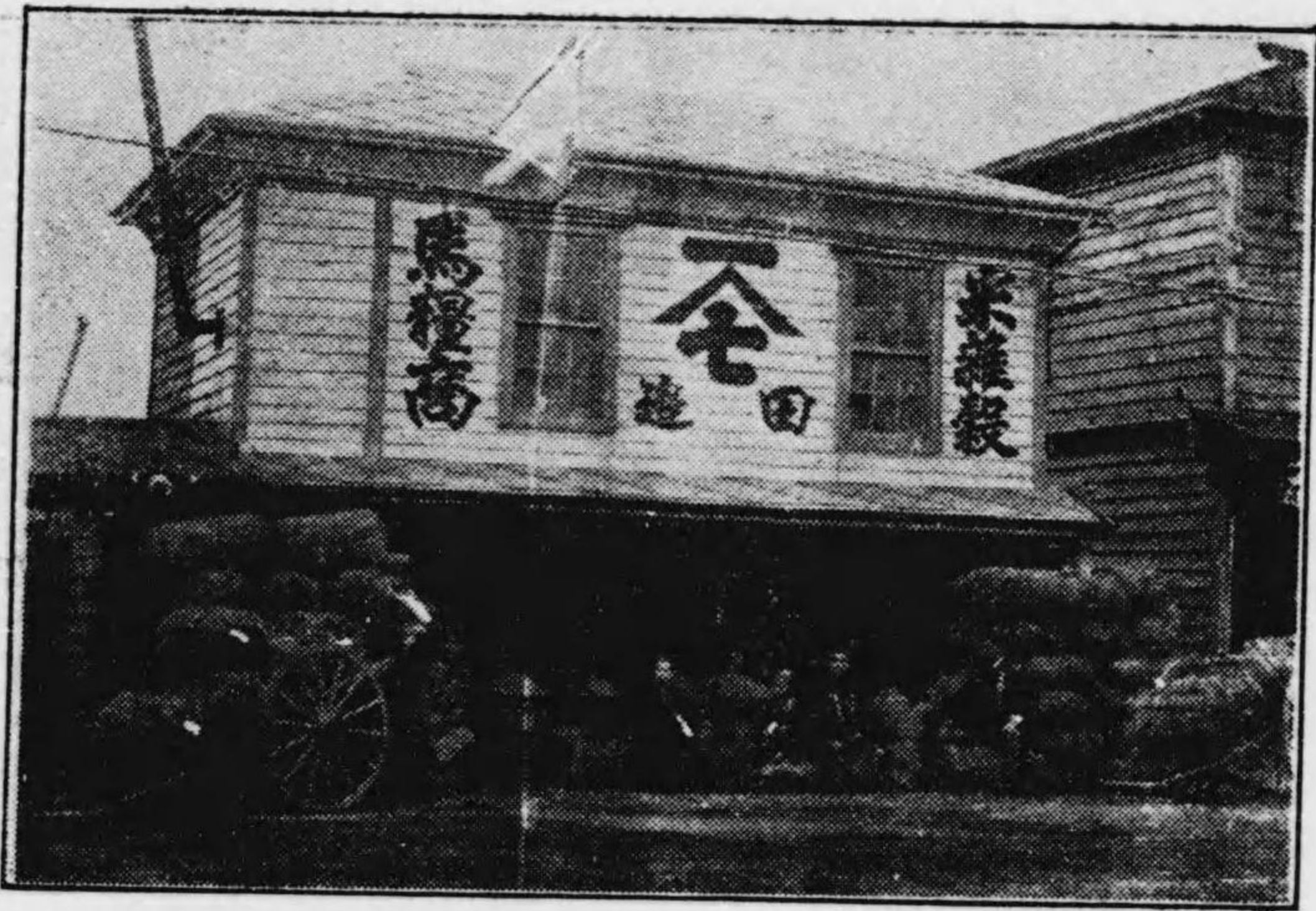
組合の調停を待つの内現ありしを以て大なる紛紜は未だ曾ておらざりし模様なり。二十七八年日清戦役中にも清佛戦争當時と同じ商況に陥りたり。舊時組合事務所内に函館の物貨買価格の標準を正すべき所謂「試し衡」なるものを常に備付け之れを以て若し衡に減りのありし場合の裁断に供したれば時に貫目の苦情起ると雖も右の「試し衡」に試し玉、試し繩、試し分銅を用ひ直に物貨減量の有無を裁断し得らるゝの便ありたるも四十年の大いに此の用具を焼き失ひしは惜むべし。這は從來貫々料と稱せしものは海陸物産買の時に至りて種々の弊害を見る風習ありたるより總て全廢の上、權衡は都て和貫及び和斤、目盛のものを用ふる事に規定を改め三十九年七月より之れを實行したるに由る。されば此事行はれて以來、亦た以前の如き物貨受渡の苦情起らず殊に組合として最も顯著なる商事成績は各産地の製品に對する不正行為の漸次廢滅されたるにあり。元來何れの製産地に於ても物産の製造に際し故意に粗製濫造を企つるもの或は之れを餘儀なくせらるゝもの（例へば製品販賣の不正競争）あるを免がれざる現時の商界の對持策として常に施しつゝある不



店 穀 米 藤 工

正産品搬出の防止に意を注ぎ用心以て事に當り居る有様なれば從て粗悪の製産物を賣買さすが如き事は至て稀なり。函館の物産商中、其最も早きを山本とす。現組合員は百七十名なるも營業者の最も多かりしは二百十余名にして是れ實に三十八年中の事に屬せり。組合經費は一人に付年七圓を徴收し維持を計る。現組長は本年五月當組合の功勞者として其徳を頌せられたる現職十九年間精勵勤績の山本已之助氏副組長石塚彌太郎氏外役員十三名。

▼工藤米穀店 印を山仙と稱し明治十六年四月の創業に係り當時は鶴岡町に店舗を有し其



田邊馬糧問屋

後今の地蔵町に移り米穀、醬油、味噌、石油、其他雜貨等を販賣せり。尙ほ音羽町に酒造場を有し清酒を醸造しつゝあり販路は函館並に近村一帯就中茅郡汐首方面に最も得意多しと云ふ電話三三番店主は工藤英吉氏。

▼村田米穀店 鮎洞町三十五、六番地にあり。明治二十五年五月の創業にして商品は米穀白麥、雜貨、及海産生乾魚の委託販賣を兼ね店舖は精米部、海産部、米穀販賣部と區劃を設け營業正實を旨とし當方面に名わり。電話九百四十八番店主村田直吉氏。

▼一山七馬糧問屋 明治二十七年先代の

創業に係り東雲町二百四十二番地に店舖を有する函館唯一の馬糧(各地牧場向き)問屋にして鳥の飼糧、米雜穀等を旭川、札幌其他より仕入れ青森、秋田、新潟、諸縣及本道へ販賣し好況を呈す。電話九百九十四番、店主田邊芳太郎氏。

函館時計商工業組合

明治三十年函館に時計工組合なるものを組織し約一年の後時計商と合併し今の組織に改め爾來七年余を経過せり。組合員は當初僅かに十三軒なりしが追々加盟者増殖し現今は二十六軒の多きに達す。當組合は特選組合にて四十三年一月規約の改正を爲し組合員の親睦を計るに重きを置き他組合に稀なる成績を挙げつゝあり。組合員中最も古きは金森時計店にして之に亞くは奥津時計店なり。組合員は毎月一名に付拾五錢從業者壹人に付五錢宛の贈金を各店主より徴集す。而して從業者は四十人を有し七年前より毎年組合員の運動會を催し又當組合の組織は全國斯業組合中早きを以て知らる。創立當時の組長は現今の取締奥津鶴吉氏副取締佐々木銀藏氏。



奥津時計店

▼奥津時計店 末廣町六十番地にあり。明治二十年の創業にして當時會所町田本寫眞館前に開店し後二年にして今の所に移り四十年の大火に逢ひ四十一年四月新築落成し現今に及ぶ。同店は時計販賣及修繕を業とし常に數名の職工を役し營業最も盛んなり。當店主は同業組合創立以來五ヶ年間其取締を勤續し現に就職中に信用最も高し。店主奥津鶴吉氏。



金森時計店

各種時計
 貴金屬製作品
 雙眼鏡
 寫眞器械
 氣象測候用
 諸器械

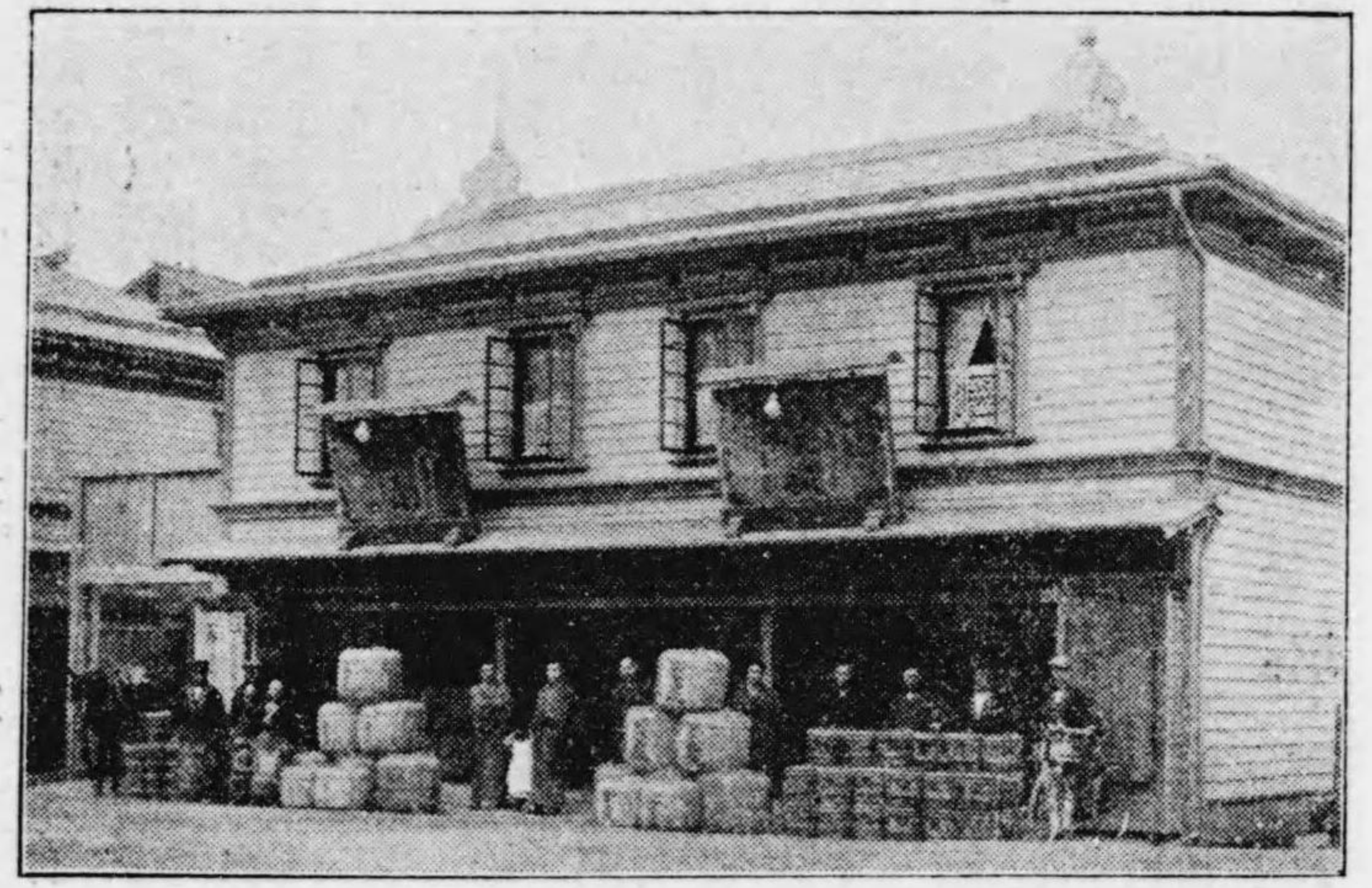
森時計店

主任 後藤幹作

函館末廣町七番地
 電話 一五二番

函館酒類問屋組合

往昔は總て何營業に拘らず同業者保護の適法を講せざりしかば從て今日の如く各營業者に對する道德制裁に力を盡す事なく一般商業界は爲めに殆んど商道閉塞の觀ありたるも明治に至りて社會は激烈なる變化を來たし現に函館酒類問屋の如きも曩の無節制に非らずして漸く舊態を革め以て秩序ある商事界とはなれり。酒屋の不統一も斯くして更新の期至る。本邦銘酒の一大産地たる攝州堺及び越後地方より多く輸入さるゝ日本酒の内衛生上有害と認むるに於ては内務省令に依り酒害豫防に努め且つ輸入酒の検査は勿論、分拆等に至る迄嚴重に行はんにハ勢ひ酒問屋の統合を圖りて其の實行を早やむるに如かずとなし茲に於て函館酒類問屋二十一軒一團となり明治三十七年九月創めて特盟組合を設けたりしが爾後精酒防廢劑混入取締並に各取引先よりの銘酒良店報告等を完全に所期するの傍ら年一回組合員全部休業の上加盟者は何れも自己の店員の勞を慰めんが爲め運動會を開き種々の娛樂を盡さしむるの舉あり。而して組合にては毎年一戸に付六圓の經費を徴收し總ての費用に當



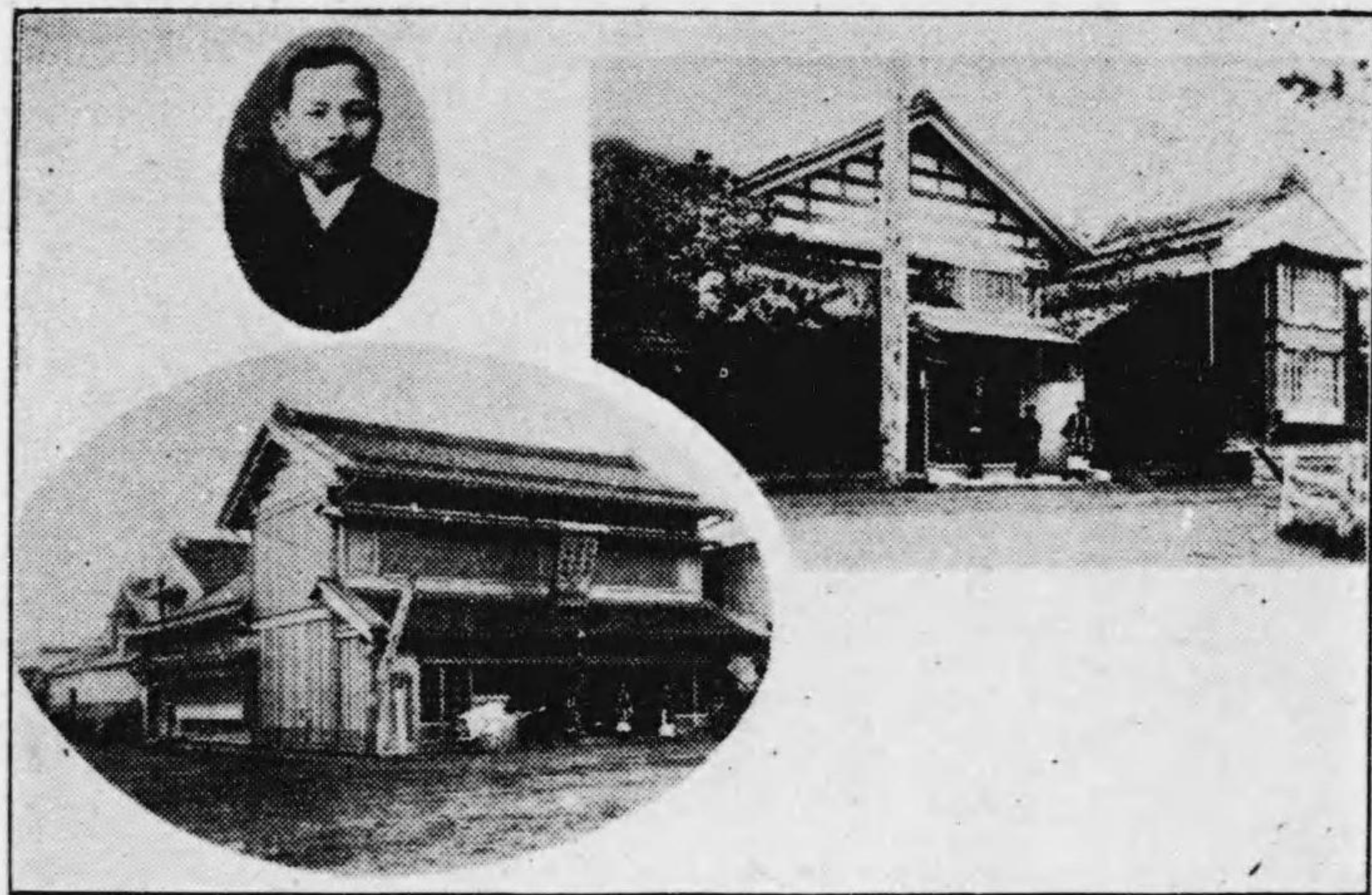
菊泉本店

て組合の維持を堅固ならしむるのみならず時々販路調査の事に従ふ。されば現今にては函館へ輸入すべき一ヶ年の酒類約五万樽の仕向先は北海道、樺太に及び逐年需求高の増加を見る。現時の組合員は三十一名にて現組合長は組合創設當時同職にありし林豊三郎氏、副組長梅津福次郎氏外役員五名。

▼菊泉本店 函館の「菊泉」と曰へば本道有数の酒問屋なる事は何人も知らぬものなき著名の事實なるが、明治二十九年十一月末廣町百〇四番地に創めて開業以來、店主の實業に對する手腕の凡ならさると商業道德の念、極めて強

き所の誠實とは互に相待ちて遂に今日の盛名を博せり。殊に四十年六月現今の處に開店の後も益々販路の擴張を來し今や北海道は勿論、遠く樺太にまで多くの輸出を見る。當店の特賣品は酒類にありては商號の菊泉を始め菊正宗、金露其他の銘酒外に醬油龜甲常盤、上山サ並に洋酒鐘詰、味噌等の一手販賣を開始し以て大いに商網を張るのみならず今は函館の商業界に覇權を握る其の一人として重視されるの地位に立つ。此れ即ち過去十七年間に於て培はれたる商業上の厚き信用と只管家名を重する温厚の風とが致せる店主の實業的努力に對する自然の報復とも曰ふべく當店の如きは實に實業家の儀表たるべき名實を併せ有するの觀あり。電話百〇六番店主は現函館區會議員其他の榮職に在る林豊三郎氏。

▼菊泉支店 本家の輿望を荷へる同店は現今大町二十九番地に在り明治十五年の創業なるも現店主に於て營業を引繼ぎしは三十年にして開業以來、店主の誠實と勤勉とは優に他店を壓するの觀あり。殊に同店が最も信用を博せる樺太地方の仕込品は精々特價に販賣するを以て北海道は勿論、遠く同方面に悉く販路を求め居る以外に同店は小賣專業を以て



梅津商店

其の名を商界に知らるゝのみならず販賣品たる和洋酒類、味噌、醬油、砂糖、石油等の日用品並に商號の菊泉、金露、壽等の特賣品を有し其最も多く輸出するゝ方面は浦河、幌泉等にて此等は殆んど同店獨り占めの觀を呈す。電話七五〇番現店主奥山音吉氏。

▼梅津商店 末廣町五十二番地に在り明治十二年の開業にして和洋酒、味噌醬油、鐘詰食料品及雜貨の卸小賣商を業とす。當店に於ける代理店特約品は銘酒月桂冠、東洋一、光園各種、峰印香竈葡萄酒、興舊ブランドー、虎ブランドー、金線、三矢、菊水、梅、櫻印サイ

ダー各種、焼酎、泡盛、丸安諸鐘詰鳥印蟹鮭
 鐘詰、龜甲萬、富士一山、龜甲丁、日本、丸本
 丸丁印各醬油、津輕三ツ輪、丸印各味噌其
 他和洋酒、食料品、紙蠟燭、錫印太陽印石
 油、白紋油、砂糖、雜貨類にして販路頗る廣く
 区内に於ける斯種商店の最も盛大なる老舗たり
 又店主は現に區會議員、商業會議所議員等の名
 譽職を兼ね且つ赤十字特別社員たり、電話は商
 店三百七十七番別宅二百十五番、店主は梅津福次
 郎氏。



佐々木商店

創業以來洋酒食料品諸鐘詰類並に洋噺器及雜貨卸小賣商として隆々たる營業の繁榮を見
 たるのみならず當店商品の販路は北海全道は勿論、其他の諸地方へも擴まり居るを以て今
 後益々商業の發展を期待す。店主は夙に商道に熱心なるのみか縦横に商略を用ひて多
 富を手中に收めんと圖る際の如きは眞に商才の現はるゝを見る。當店は四十年函館大火後
 今の地に新舗を建築し以て彌よ家運の大を致さんとす。電話廿二番、店主佐々木耕作氏。

▼丸玉酒店 寶町三十二番地に明治二十二年五月の開店にして酒類、煙草、味噌、醬
 油等の販賣店たり。電話六番、店主國松源右衛門氏。

▼丸松商店 汐止町二十一番地に酒類、雜貨、鐘詰、果實、問屋として傍ら小賣の販
 賣をなせり。電話千二百四十一番、店主前側末松氏。

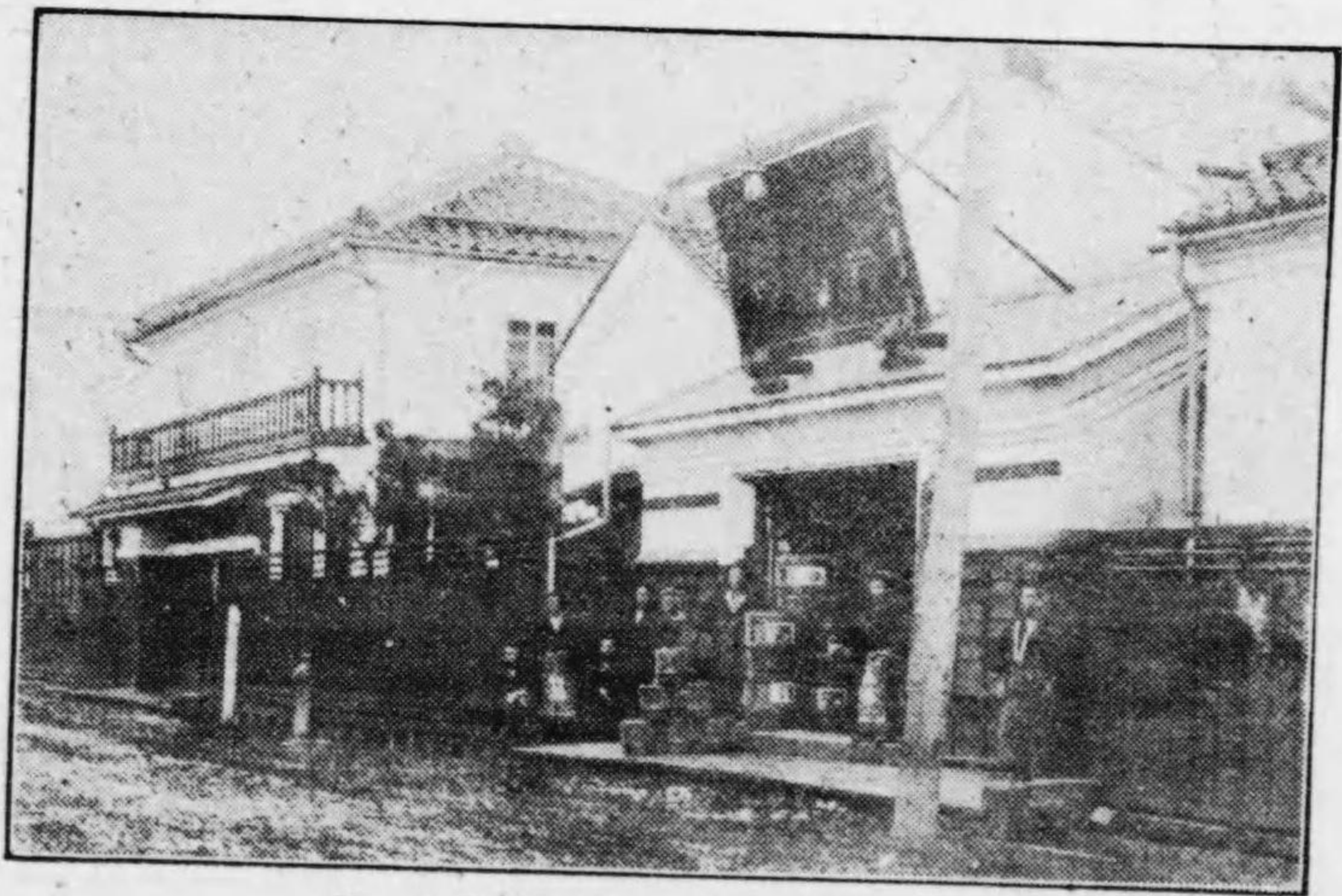
函館區外五郡酒造組合

明治十五六年頃には函館區内に三十名の酒造家ありて當時東出長四郎同業組合を組織し之
 れに長たり。其後三十二年中區郡酒造業者合併成立を告げたる際には二十名内外の組合員

を有せり。三十六年中函館區外五郡聯合組合を設立し其當時十五名の加盟者ありたるも近年區郡酒造家の減少を來たし現今にては組合員十一名となれり。現組合長は區郡酒造業者合併當初より就職せる大久保利助氏。

●丸善菅谷台名會社 音羽町六十四番地

に在り。明治二十五年の創業にして前代故菅谷善司氏の獨力經營に係り酒類、味噌、醬油の醸造發賣を主とし物品販賣を兼ね逐年事業擴張を計り明治四十年台名會社組織に變更し今日に至る。當店は規模宏壯にして製品亦醇良の評高く當港第一の讓造家たり、又室蘭及樺太に支店



菅谷台名會社

を設置し共に營業盛況を極む。本店釀出の酒名は北正宗、北遊、菅の井、巴港一等醬油は龜甲善、龜甲司、高砂其他數種及樺太支店も亦酒名丸善正宗、哥港一、勇駒等を釀出すと云ふ販路は全道及内地東北地方に及ぶ。電話四百六十五番、九百五十三番、營業主任は菅谷叶氏。

●千代盛組合 銘酒「千代盛」の醸造元たる灘西の宮日本攝酒株式會社に於て明治三

十八年發賣と同時に函館區西濱町新與三郎、同濱崎治助、同久保支店、同區辨天町橋谷巳之吉諸氏を北海道代理店主と定め本組合を設けたりしが普通清酒は何れも樹目四斗五升入なるを本酒(千代盛)に限り樹目四斗九升詰なるより大に需用家の高評を博し且つ他酒よりは比較的清酒の醇良なるを以て世に知らるゝが故に今や輸入酒として全道一位を占め現今森、室蘭、八雲、俱知安、江差、壽都、岩内、小樽、札幌、旭川、帶廣、釧路、厚岸夕張、野付牛、網走、常呂の各地に販賣店を有し現に一ヶ年間の醸造高一萬六千石餘に達し尙ほ北海道にては今後益々販路を擴め輸入高の増加を來すの盛況に在り。

函館味噌製造組合

内地味噌との競争に利あらしめんとの自然的商勢の進運に驅られて明治四十三年函館の味噌製造業者合議の上組合を組織し他方に於て無意味なる同業者の競争を避けんが爲めに目下之れが設立認可を道廳に申請中なれば從て組合の古き事歴を有せず。組合員は十五名にて組合經費の取立方は醬油組合の如く製造石高の多寡に依りて經費の徴收率を定むるの不可なるを知り之れを營業者の等級別と爲す。而して現今の組合員中一等に屬する者は僅かに二軒、二等十軒、其他は三等なり。現組合長宮崎竹四郎氏外評議員三名。

▼宮崎味噌製造場

味噌の大産地として知られたる東北地方に於ても一年一萬樽以上製出する製造場は唯一箇所なりと云ふが吾が函館に於て此に匹敵する大製造場を見るは蓋し稀なり。されば函館第一の味噌製造場として旭町二百三十八番地金久宮崎味噌製造場の名を知らざる者は恐らく之れ無からむ、而かも同製造場が全國第一流なる事知らざる人は多かるべし。然かし乍ら登録商標金久味噌の品質優等風味醇良にして價格低廉量目

豊富なる事實を見るに及ばい、其の市場に於ける好評嘖々驚くべき多數量の需要を見るなるべし。而して函館に於ける上中流家庭は勿論本道各地（釧路、根室、網走、留萌、壽都、岩内、倶知安、小樽等樺太諸地方に於いて家庭並に漁場用として非常なる歓迎をうけ殊に内地に移出する數量亦尠らずと云ふ以て如何に多大の信用あるかを卜するに足る。經營者は實に立志傳中の人にして誠實勤勉篤實の紳士なり常に正直は最良の愛嬌なりと稱す以て其の人格並に營業振を想像するに足らむ。電話八百九番場主宮崎竹四郎氏。

函館醬油製造組合

函館の醬油屋として最も古きを大黒町坂庄及び大町の山又とす。兩店は明治初年の創業に係る。次に十一年創めて開業を見たりし丁サ印佐野定七、十七年創業の西川町茅原勇吉等其後の營業者たり。三十八年同業者申合せの上始めて組合組織の議あり。此年函館の醬油醸造業者中最も古き暖簾を有する龜田の丁サ火事の爲めに焼失したるを丸善菅谷に於て其跡を引受け經營せり。四十一年七月前の同業組合設立の熟議完く成り同時に道廳の認

可を受く。組合員は其當時十二名なりしも今は十三名にて組合經費は製造場六分前年度査定石高四分の一の割合を以て一月七月二期に徴收し居れり。現組合長今井辰次郎氏外評議員三名。

▼大森商店

北海醬油合資會社の社主として知らる。同店は明治二十八年創業以來、現今の鮎洞町三十九番地に在りて營業の隆盛を來たし今や醬油會社の經營は勿論、酒類味噌、砂糖、罐詰其外の販賣を一手に開始し低廉なる種々の商品を需用者に供すべく常に細心怠りなきのみならず飽迄も北印の信用を墜さざらんことに努め居れり。從て商取引先の人望、殊の外良好にして漸次販路の廣まるを見る。且店主の商略は巧みにて爾かも薄利を旨とす。同店主大森徳三郎氏。

吳服太物商

▼久一吳服店

嘉永の頃、函館の吳服店に米平、丸忠の如き最も當時の巨舖たりしが當店は弘化年間先祖岩船やす子の開業に係り吳服店としては函館隨一の老舖たり。當店

は明治五六年頃、時次郎氏、岩船家相續したりしが四十二年同氏死亡後、當主、家名を繼ぎ今日に至る。當店は數十年來、熱心斯業に従事し來りたるより信用確實といはんより寧ろ店舖の基礎殆んど大盤石を見るの感あり。されば東京、大坂、京都、因幡、八王子、米澤、越後、弘前等の各産地と特約聯絡を保ち以て流行の粹を魁し堅實の品を廉價に販賣するは當店の特色にしてそれが爲め販路は北海道北見、十勝、日高、根室、膽振、渡島、分けて江差筋) 諸村、千嶋、樺太及内地に在りては對岸陸奥にまで擴まり其他函館區内の小賣も實に夥しく優に他店を壓倒するの好況を呈す。尙當店にては遠方の註文品は特に注意を加へ確實親切に調進するは勿論、各地よりは常に小包便にて太物送付方註文頻り也。斯かる古暖簾なるのみならず永年、同家に收めし厚き信用と函館の「久一」といへば兒童走卒に至るまで知らぬものなき巨舖として全國に商名を謳はるゝ現今の置位とは互に相待ちて家運の長久を見るの有様、眞に東京以北有數の吳服店たるの商歴的價値を有せしものと衆人に認めらる。電話一六。二八五番店主岩船峰次郎氏。

函館木材商組合

今より約二十年前の創立にして當初組合の牛耳を握りし組合員は近江勇三、河合慶之進、森川菊藏等あり。其當時は四十名の組合員ありたるも三十二年に至りて組合は一時中絶するの止むなきに立ち至りしかど其後組合の復興を見たるのみならず四十年四月初めて道廳の認可を得ると共に完全なる組合規約を制定したり。是先、當組合員には問屋側をも加盟せしかど木材商及び木材仲立業仲買業との間に利害の相反する所ありたるに就き四十二年兩者分離の結果、組合認可當時三十二名なりし組合は現今の十七名となれり。前認可當時の組長は山田啓助にて現組合員中、其最も古きを若松町濱岡源助、眞砂町浦田久吉、東川町池田重吉等とす。而かして函館木材商組合規約の處分事項に違背したる者に對し五十錢以上五圓迄の違約金を差出さしむるの規定及び役員となる權利を停止すべき違約處分條項をも加へ嚴密を極む。當組合員全體にて販出すべき一ヶ年の木材數量は約二十万石、此價格五十万圓余なりと云ふ。現組長濱岡重藏氏、副組長浦田久吉氏外役員三名。

▼函館製材所

元函館水電株式會社の創設に係る製材工場を買収せるものにして七十馬力の蒸汽機關に依りて自働大丸鋸等四臺の鋸機械を運轉し一日約五十石の製作力を有す。當所營業項目は建築家具諸材料製、下駄材及各板挽其他一切の賃挽業にして營業所は東雲町二百四十二番地函館水電會社配電所と同一構内に在り。當所構内に細工場を建設し一般賃挽依頼者の利便を計りて業を營む。電話七百十七番。

函館陶器商組合

明治三十二年頃同業者申合せ之を組織す、當時組合員四名なりしが現今は七名となれり、是れが組長は創立當時より寺井四郎兵衛氏。

▼錢屋商店

惠比須町五十九番地に明治四十三年七月の創業にして銘茶湯の花、薫香陶磁器等の販賣店たり。電話千二百十五番、店主小林吉太郎氏。

▼塩澤塗物店

大森町三十番地にありて専心美術時繪塗物、及び家具一式製造を以て業とす。主塩澤傳吉氏。

▼中嶋商店 地藏町拾番地に明治四十三年九月開店し漁具、釣具、卸小賣商を以て知らる、店主中島重藏氏。

函館洋服裁縫業組合

函館に創めて洋服裁縫師を連れ來りしは故渡邊孝平（金森店主）にして函館は夫れ以來斯業の發達を見るに至れり。されば其の時代には營業者の完全なる統一を期する能はざりしも渡邊氏の公共心に富める函館の洋服裁縫業を何とかして全般に普及せしめんと企てり已、先づ斯業を鞭撻するの任に當り職工を雇ひ徒弟をして洋服裁縫の業を修めしむ。爾後函館に漸次同業者の現はるゝを見る。明治三十九年四月初めて道廳より組合設立の認可ありたるが當時此事に奔走したる洋服裁縫業者は石川榮吉、大嶋健吉、野村忠太郎、片岡卯三郎等にして組合員は當時三十五名を有し最初片岡卯三郎同組合長たり。現今組合員は二十名に減じたるも四十年三月正式に認可を得たる同組合規約中には同業者の福利増進を圖るは勿論、組合員一人に對する經費負擔は毎月二十錢づゝ尙組合員の使役する職工一人

に對し五錢、徒弟も亦同額なるが此等の經費は一切組合員に於て負擔し職工徒弟に賦課せざる規定なり。又組合員の使役する職工徒弟にして誠實に忠勤したる者に對しては組合より忠勤証を交付し特別忠勤者には外に賞品をも贈與し以て職工徒弟等を獎勵するの途を設く。現に是迄該忠勤証を交付されし者五名を出し徒弟に對する技術の証明に代るへき修業証を交付されし者二十名に及ぶ。而かして品行方正の職工にあらざれば之を使役せざる様組合員は能く其規約を守れり。されば組合の現存する今日、營業者相互の連絡を缺くが如きことなく至つて親睦の様なり現組長平山京三郎氏。

▼金森洋服店 明治十年頃初めて函館に洋服裁縫業の基を開きし當店は當時英吉利斯一番（在横濱）より羅紗地を取寄せ洋服裁縫業を營みしが其後、今の金森總本家故渡邊孝平氏歐米諸國漫遊の際各製産地と特約の上、爾後羅紗地の直仕入をなすと共に其當時は函館を初め其他の地方に未だ洋服裁縫業者のなかりし時代なるを以て其れが爲め職工雇入れに最も苦心したりしかど渡邊氏は此の困難時代を意に介せず只管、斯業の進歩發達を圖る



金 森 洋 服 店

に努め遂に今日の如き整然たる洋服裁縫店を實現するに至りたるが又當店創業時代には背廣服のみ仕立方流行せしかば當今にては僅か一ヶ月遅れにて諸外國の新流行生地は何品にても同店に直輸入し得るの便あるを以て其都度最近の流行品を精選の上裁縫技術の精巧を期するは勿論文明式なる調進期日の正確並に丁寧迅速を旨とし貴紳、令夫人其他一般の註文先に對しては優美高尚に且つ廉價を以て裁縫に従事するが故に今は函館一の洋服店として其名を知らるゝのみならず殊に四十一年九月現今の地に店舗を新築移轉後は大に舊來の面目を一新し裁縫工場の設定

備を整へ斯業に熟練せる多數の職工を常聘し以て函館の商工界に信用確實なる地位を占む
電話千八十一番營業主任平山京三郎氏。



大 島 洋 服 店

▼大島洋服店 明治三十七年惠比須町に於て創業、爾來事業發展の結果同三十九年現今の大町に移轉、洋服、裁縫專業にして約束期日の正確と調達の丁寧迅速を旨として一切の註文に應じ顧客は主に銀行會社員及び各商店員に多

しと云ふ。電話九十二番店主は大島憲吉氏。
▼泉洋服店 創め青柳町に店を開き後ち春日町廿三番地に居を移し營業擴張の目的

にて洋服裁縫の外、洗濯業及び毛織物色上げをも兼業とす。其後、蓬萊町百卅六番地（今の所）錦輝館前通りに移轉すると同時に従前よりは一層業務の發展を期し諸營業に正實、丁寧、迅速、廉價等の特色を見するが故に從つて注文者の多きを致すのみならず各職工は技術に長せし者なるより仕上げも亦立派に丈夫なり印を山岩といひ店主の名は泉重也氏。

▼山森洋服店 末廣町五十三番地に明治四十年五月の創業にして高等裁縫洋服店たり店主山森氏。

▼西商店 大黒町八十五番地にありて洋服の新古販賣店たり。店主西玉三氏。

▼飯田大正堂 函館は地藏町三十三番地山仙米屋向へに天印なる大看板を掲げ足袋其他仕立物及び大日本メリヤス商會特約販賣のメリヤス類各種の注文販賣に應じ薄利と勉強に依りて専ら顧客の吸收に努め居れり。店主は函館に於て足袋其他仕立物老舗たる函館龜久裁縫店及び東都に於て十余年間一意斯業を練磨し本年九月大通に新舗を開らさ多年修得せる良好の技術を奮ひ誂物に對しては第一品質の撰擇と原料仕入先の如きも詳に根

底を調べたる上に一切の用に應ず、殊に仕立の目倉地は埼玉縣植生産の品を用ふるが故に獨特の技術と相竣つて仕立の精功を期するの特長あり。店主飯田勝造氏。

▼龜久足袋店 同店は嘉永元年地藏町（今の丸井呉服店のある所）に開業其後現今の末廣町百番地に移轉足袋、股引、腹掛、シャツ、仕入物一切の仕立を專業とし當區第一の足袋店たり。電話百九十六番店主は三田久兵衛氏。

▼山平商店 鶴岡町六拾五番地に明治二十一年の開業なり。雨合羽製造及び販賣店たり。振替口座東京一八〇八四番、店主佐藤平次郎氏。

函館和洋小間物商組合

明治十三年始めて同業者組合を組織す當時組合員五十名内外にして創立に盡力したるは故新田完一、加藤熊吉等の諸氏なり。當業商店には開閉屢々ありし爲めに組合員に異同を免れず。先年洋物商組合と併名の議ありしも遂に成立せずして止む。四十一年組合規約を修正すると全時に議事細則をも設け共に道廳の認可を得たり。組合經費の賦課徴收方法は毎年

通常總會に於て其負擔額を定むるに決す。現在組合員は八拾五名にして組長は加藤文五郎氏副組長長田富藏氏外に評議員拾名あり。

▼加藤小間物店 末廣町九十四番地にあり。明治元年の創業にして最初は山の上町(今の旅籠町)に於て小店舗を開き漸次發展同十三年に辨天町に移り二十五年今の所(末廣町)に移轉開業、四十年大火に類焼し四十二年新築成る。商品仕向先は區内は勿論膽振地方及千嶋各地に及ぶ電話四三六番店主加藤文五郎氏。

▼古田洋物店 末廣町九番地に在り。印を曲樹と稱す。明治四十三年四月創業以來、店主は身、船長なるにも係はらず商業に熱心なること眞に驚嘆の外なし。營業品目は海員用洋服附屬襪衣帽子其他の洋品及び小間物等にして仕入は重に東京大坂なるが同町數多の洋物商と相對して常に商品の精撰に意を用ひ顧客の信用を維ぎ止むべき方法にのみ心を傾け居るが故に遂に今日の繁昌を見るのみならず一方高等海員として船員の間にも其名を知らるゝはつれ今は所謂双方全成の地位に立つ。蓋し異色の人たり、店主古田勘吉氏。

▼藤本洋物店 創業は明治四十一年六月にして末廣町五番地に在り。店主は其初め自ら荷車を曳き區内の諸會社及び各商店に向き出て用命に應じ専ら商賣の道に勵みしかば其餘勢を以て遂に今日の素地を造り日益に繁榮を期す。當店は商號を山トと稱し流行帽子、毛織物類、メリヤス洋傘、洋服附屬品、袋物類、小間物代化粧品等の販賣品は何れも京坂地方より直仕入なるを以て買客の信用を博し今は同業者間にも其名を知られて評判宜しく新店ながらも優に老舗を凌がんばかりの有様なり店主藤本源四郎氏。

▼進藤洋物店 商號を丸川と稱す、明治三十年惠比須町に開業同四十年大火の際類焼に罹り今の末廣町三十三番地(二十間坂下)に移り帽子、メリヤス、洋傘、旅行靴、毛織物、化粧品、其他の雜貨販賣店として名あり。店主は進藤常助氏。

函館運送船業組合

函館港に於ける運送船は舊時(慶應前後)何れも五十石積み位の最も不完全なる物に過ぎざりしかど慶應年間函館砲臺築造の事あるに際し金江某が請負に係る該工事に石材を

ば寒川より運送の際在來は小解船なるのみか船に甲板もなく積取り運送に頗る困難を感せしかば茲に初めて百石積みの大解を造りて海上に浮べたるが未だ物珍らしき其の時代には右の大解を見んとて多數海岸に寄り集り一時は、なか／＼の奇觀なりしと云ふ。當時初めて船に甲板を附する事となれり。其の後亦百五十石積みの大解の運送解二艘出上りたるが外國船の初めて函館へ入港當時には大小取り交せ十艘餘の運送解を有するのみ之れを以て貨物積取りに使用したりしかど甲板上に満載する時は、さもすれば轉覆の虞れある状態なりしが會々解船の内にて腹部に損傷を來したるに依り船の兩側に板を充て浸水を防ぎてよりは甲板に貨物を満載するも轉覆の憂ひなきに至れり。されば其後運送業者は少しの不便をも感せずして終に今日の如く空氣解船を造りて用ふる事とはなれり。慶應年間函館に其の名を知られし今の角の一（東浦）岡村小三郎、黒井房吉、金七、金江等の運送解業者等申合せの上明治二十七年創めて同業組合を設くるの議あり。三十一年十一月道廳令發布と共に運送解業組合を組織するの必要起りたるを以て三十二年辨天町に同組合事務所を創設し

たるが函館には其の當時大解百三十七艘、積取傳馬九艘及び八名の組合員を有し林與惣松氏最初の組合長たり。而して組合役員は年番にて勤むる内約ありて現今の組合員は九名、解船百二十六艘此の積取り總石數七万七千七百七十石、解船は五十石より千四百石迄の積取りを有せり。組長宮崎松太郎氏副組長齋藤重藏氏。

▼一印運漕店 辨天町三十五番地にあり。明治十八年七月の開業に係り當店は常に四十余隻の解船を備付け外に臨時繁忙の際には多數の船を増援すべき準備あり。人夫は沖人夫陸揚人夫共毎日三百余人を役使しつゝあり。當店の得意先は各回漕店は勿論物産商、諸會社其他大小商店等にして店主は現に千嶋瀛船株式會社及日高瀛船株式會社の各取締役にして且つ函館造船所の重役を兼ね函館に於て有名なる運漕業者たり。電話三百五十二番店主齋藤重藏氏。

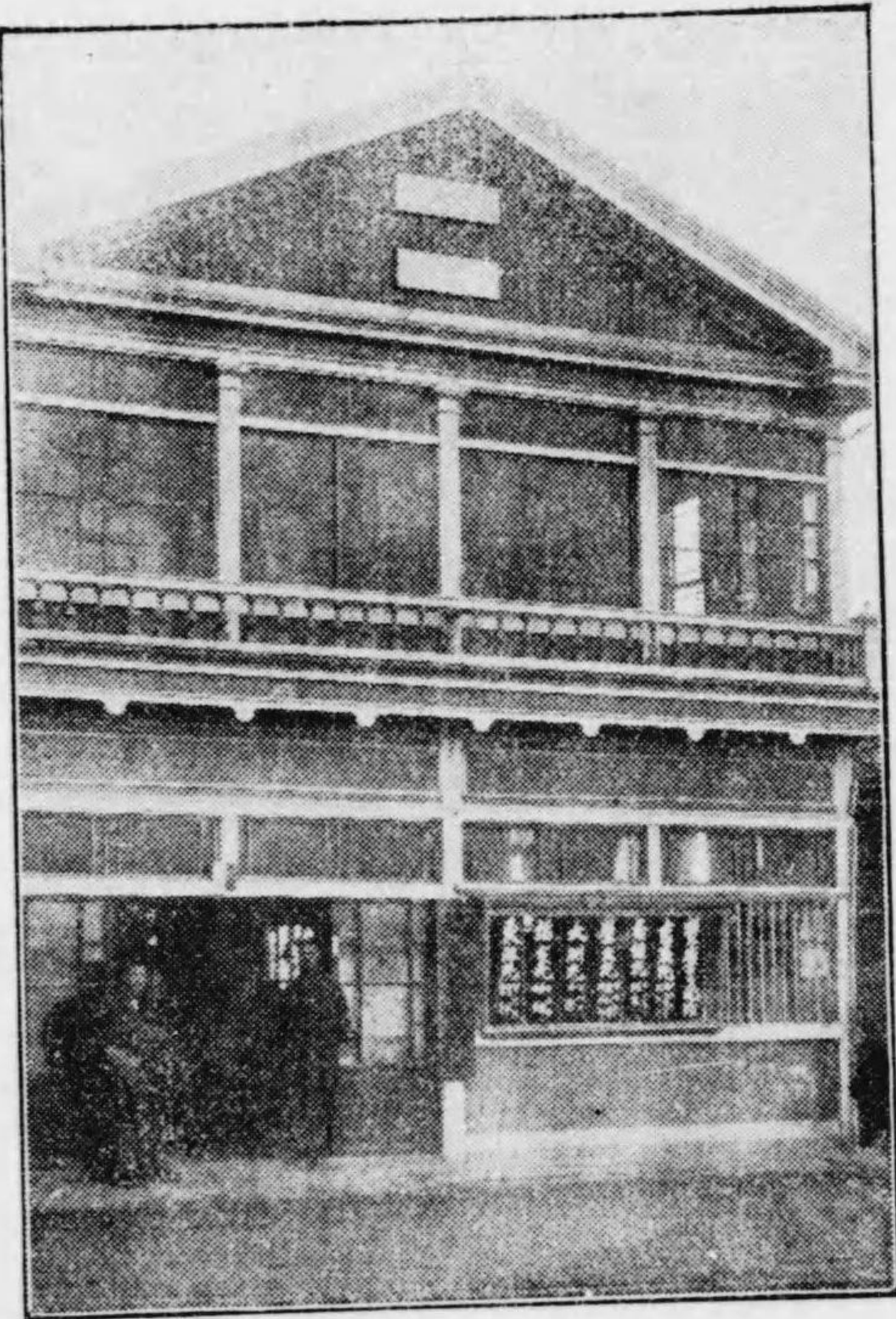
▼丸和合名會社 函館區に於ける運輸交通の最も便利なる浜町通りに在りて社業大に伸張し斯業界に於ける名聲甚だ狭しとせず。明治十年和回惟一氏居を此處に相し自身に旅

館を開き海陸運漕業を兼營し専心確實に斯業に盡碎せられしかば輿望に適ひ事蹟亦見るべき者ありしが去る四十年の大火に遇ひ居所亦灰燼に歸して以來旅館を閉ぢ森田昌司氏と共同經營の下に銳意畫策大に斯業の面目を改めしも時勢の進運に鑑み四十四年組織を變更して丸和合名會社と改稱し森田氏を代表社員とし益々堅實敏活に業務の遂行に力め現に市内東濱町に本店を置き回漕業其他各種の代理業に従事し別に若松町函館停車場前に支店を設けて丸和合名會社鐵道部と稱し函青間の鐵道院連絡船其他全國各地行接續貨物の運送扱を營めり。而して氏は其鑑識に依て拔擢せられたる健全なる多數の店員を督勵し益々斯業の發展を期し前途頗る有望なり電話三〇六番。

回漕店

▼西谷回漕店 東濱町七番地にあり。從來小樽西谷回漕店函館支店なりしを業務擴張の爲め合資に組織變更す。當區西出孫左衛門氏甥西澤喜作氏が業務執行員として入社し且つ小樽西谷庄八氏との合資會社にて専心回漕業を營む。取扱船航路は主に樺太東西海岸、

勘察加、露領沿海洲、内地各所兵坂等にして西出孫船及澤口瀛船の代理店たり。西澤氏は嘗て汽船の事務長として拾數年間の經驗を有する手練家にして性質温厚篤實又同店の營業



西谷回漕店

主任大谷源太郎氏は小樽西谷回漕店に永年勤績せし手腕家なれば共に世の信用を博し今は益々業務の發展に力め居れり。全店は取扱親切懇篤を旨とし一般顧客の便利を計り居るを以て將來營業の繁榮期して待つべし。電話卅一番。

▼巴回漕店

店主は舊と飯岡回漕店の店員なりしが明治三十五年北海產業合資會社へ轉勤、四十一年日下部合名會社組織當時入社、四十二年佐々木回漕店主と共に同店經營の

衝に當りたるも四十四年二月事故ありて分離し四十四年七月一日より單獨經營することとなり其年十一月瀛船太洋丸を買入れ以て今日に及ぶ。當店は諸航路を初め擇捉航路の特別取扱店たり。又店主は函館區内の回漕業者中、頗る手腕家として一般に認めらるゝのみか各船主及客筋の信用最も厚く營業日に盛んなり。電話四百十七番店主大澤卓郎氏。

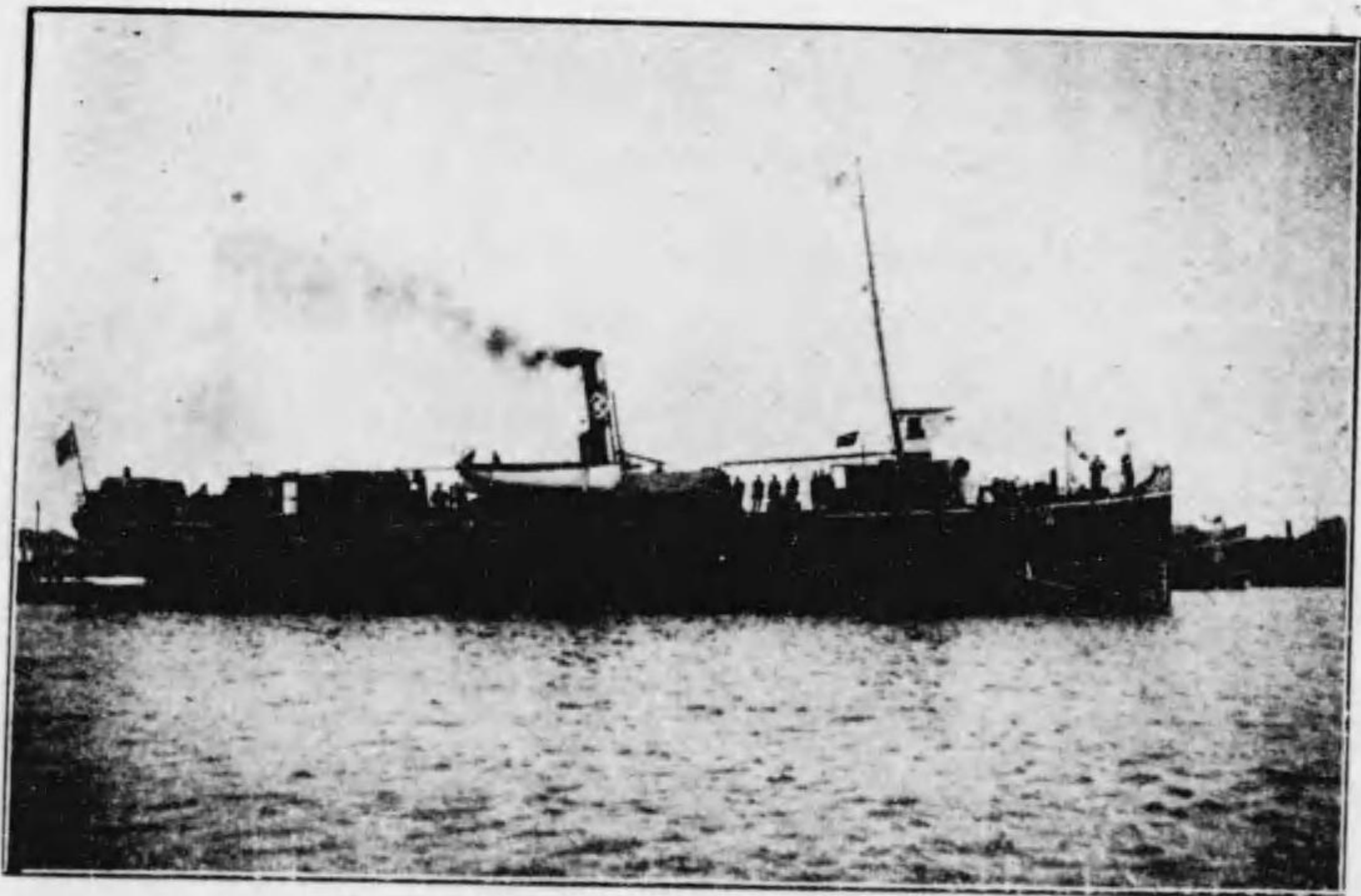
▼日下部回漕店 末廣町八番地に明治四十一年六月五日日下部合名會社として創業せり、専ら回漕業を營み、取扱航路は主に日本西廻及び北海道各地に及べり。電話四百十三番。

金 物 商

▼吉田金物店 印を山キと稱し明治四十一年十一月創業大黒町五十四番地に在り。商品の仕入先は東京、大阪、堺、越後なりとす。常に商機の敏なるを以て名あり。當店は函館西部に於ける金物の小賣店として賈客の信用厚さのみならず年、若冠にして頗る商才に富める店主の營業振りは所謂機の觸るゝに應じて商略自在、殆んど商法に通ずるの觀あり。殊に當店の最も特色とする所は良品の供給にあるを以て日を経るにつれ商業の活況を呈し前途極めて好望なりとの評あり。電話千三百十六番店主吉田金三郎氏。

▼進藤金物店 地蔵町八番地に明治拾八年の創開にて諸金物一切の販賣店たり。電話五百五十七番、店主進藤榮太郎氏。

▼丸キ金物店 末廣町十四番地に明治廿五年四月の創業にて總ての金物販賣店たり。電話八百六番、店主重松市之助氏。

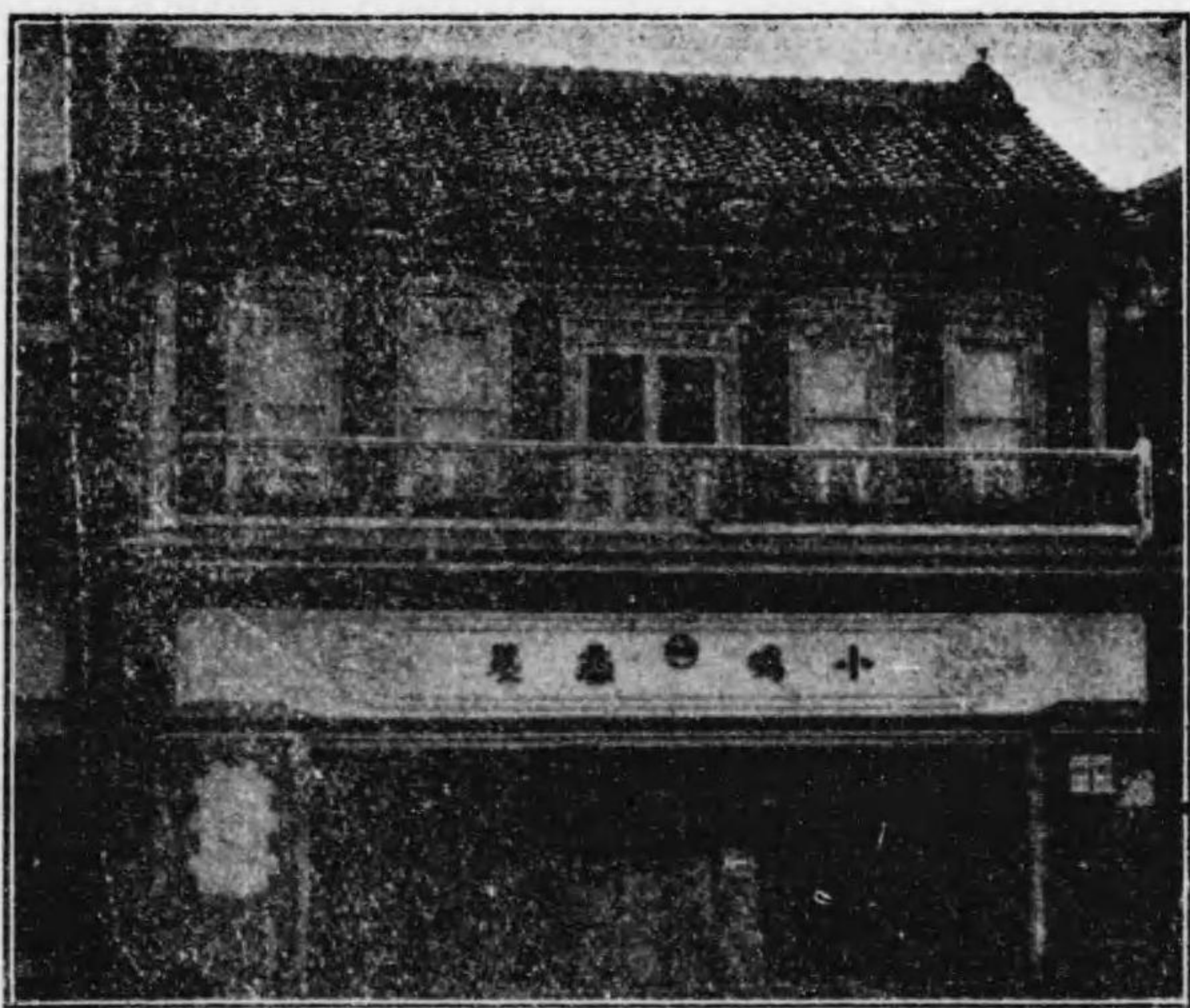


丸平太船瀛有所店漕回巴

函館菓子問屋組合

明治四十三年八月の創立にして同業特盟組合たり。組合員は當初より七名にして組合員中斯業の最も古きは末廣町丸一小嶋せんと地藏町山三伊藤々太郎兩氏にて他は末廣町目貫禮三、會所町東洋堂岡部榮吉、地藏町小西重太郎、恵比須町高橋庄次郎、東川町古谷儀藏諸氏、尙組長は月番にて之を勤む。

▼小嶋菓子問屋 印を丸一と稱し今より百年前小嶋せんの創業に係り現に末廣町九十九番地にあり。當時始めて藥種店を開き營業せしかど其後明治十二年砂糖商を営み三十九年輪違ひ酒谷商店と共同の上にて初めて米國



小嶋菓子問屋

より麥粉の直輸入を企て爾來、本道、樺太、青森、秋田等に廣く販路を求め今日に至る。當店は大日本製糖會社、明治製糖會社、東京森永商店等の各製品並に菓子其他東京中條商店發賣の醬油特約を兼ね又水飴、落花生、麥粉、砂糖、菓子、醬油等の販賣を專業とし東京、横濱神戸等より製品及原料の直仕入れをなす。當店は單に菓子問屋として函館に最古の商歴を有するのみならず商工業を通じて恐らく無二の老舖たり。電話五百十九番、店主小嶋又次郎氏。

東洋堂本店
▼東洋堂菓子店 同店は舊時千秋庵、萬年堂と共に函館區内に於ける菓子の巨舖なりしが



東洋堂本店

其後時代の推移と共に萬年堂は恵比須町にあり亦千秋庵は末廣町にありて現今は總て手控に商ひ居れり、單り先の東洋堂のみは菓子屋仲間の老舗を以て居りしか、今の店主が明治三十二年舊の東洋堂の跡を引受け菓子製造卸商を業とし本店は會所町五十三番地にありて区内及北海全道、樺太、南部地方迄販路を擴めつゝあり。又明治四十一年支店を東濱町に設け菓子、洋酒、煙草、果實其他雜貨を鬻ぐ。同所は濱町棧橋前にて船客が上下雜沓する場所故營業殊に盛なり。本店の電話二百七十三番店主岡部榮吉氏。

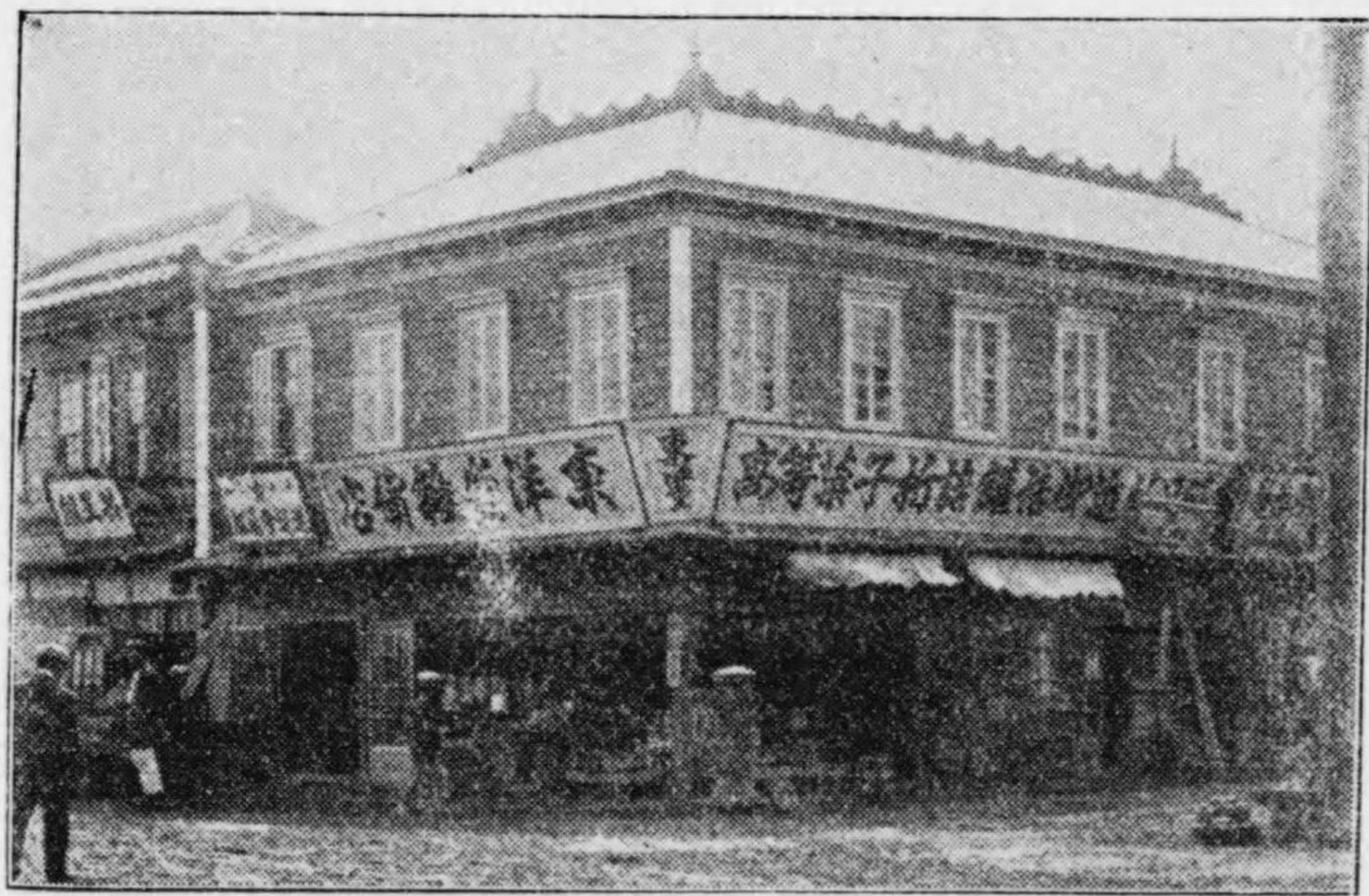
▼小西菓子問屋 印を抱き山といひ地藏町



小西菓子問屋

二十三番地にあり。明治四十三年四月の創業に係り當店の仕入先は東京及大阪にして区内青柳町別に恵比須町に製造場を設置す。當店は函館菓子問屋の中にも百餘年の商歴を有する丸一小島及び其他の同業者と拮抗するの勢を以て營業に従事しそれが爲め今は掛物類、西洋菓子等を廣く区内及び本道各地、樺太地方に販出し營業頗る盛大なり。電話九十六番店主小西重太郎氏。

▼高橋菓子問屋 印を星山正と稱し恵比須町五十八番地に店舗を有す。當店の創業は明治四十年四月にして當時の鶴岡町より其後東濱町



東洋堂支店

舊棧橋前に移り函館大火の際類焼したるを以て
今の所に家屋を新築、再び開業せり。當店販賣
の品目は掛物、打物、パン菓子類、進物用和洋
罐詰類、木箱折詰等にて輪種、寒天、水飴、落
花生、菓子道具、菓子染料其他菓子附屬品一切
の仕入先は東京大阪なりとす。又東京森永特約
店にして函館有数の和洋菓子問屋たり。電話千
〇八十八番、店主高橋庄治郎氏。

函館菓子商組合

明治維新前までは此程に振はざりし函館菓子屋
營業は其當時内洞町（今の末廣町）に干菓子屋
蛇足と生菓子屋精香庵との二軒が主なる舗なり



高橋菓子問屋

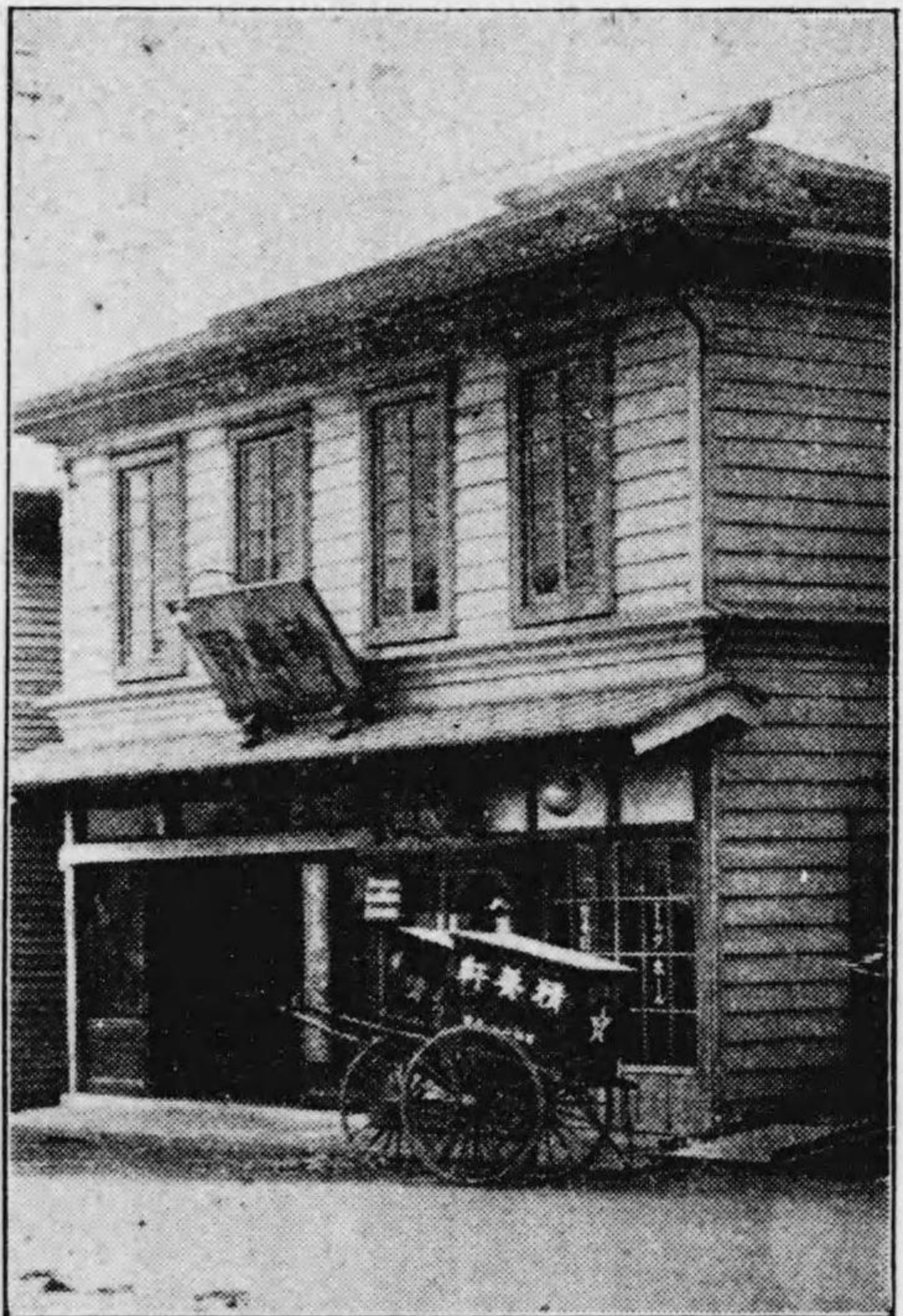
しが稍時を経て二十間坂角に山米印と呼ぶ饅頭屋のありたる外は函館の菓子屋として著明
の店なかりしも古老の言に依れば往昔三久とかいへる菓子屋のありしことは後人の知る所
なり。されば現今函館に於て老舗と稱せらるゝ惠比須町萬年堂即ち辨天町に在りし當時の
翁堂及び末廣町千秋庵並に數代傳はりし東洋堂、丸吉等は今尚は營業を繼續せり。函館
に菓子商組合の創設を見たりしは明治十八年八月にして認可の當時は今日に比し多少營業
者の風尚も異なり現在百名以内の同業者中、組合員は八十五名にて加盟者の如きも創設の
際には約五十名すらなかりしと雖も其後の變革に依り遂に現時の状態となる。由來菓子職
人の多くは單に一時の雇入れに止まり各自の營業を間に合はするの觀ありしも四十三年よ
り組合事業として新たに雇人獎勵法を設けて滿七ヶ年以上勤續者に精勤を賞する爲め組
合名入りの銀時計一個つゝを與ふると共に店主の側より弟子に對して七年毎に年期終了証
を交付し一般雇員の獎勵に意を注ぐの傍ら雇人のある店よりは毎月二十錢、主人のみの店
よりは十五錢宛の組合經費を取立て諸般の費用に當てるのみならず年一回運動會を催し

組合員及び一般雇人の共樂を次々としせしむるの舉あり。現組合長佐々木忠兵衛氏副組長伊藤源右衛門氏同松本善吉外役員多數。

▼風月堂 東京風月堂穂積支店として世間に其名を知られし當店は明治三十九年一月創めて末廣町八十番地に開業以來、店主が元東京風月堂に於て永年研究したりし諸菓子の製法は倏ちにして甘黨連の嗜好に適し開店當時の如きは毎朝九時を過ぐれば店賣は何時も品切れの好景氣なるより斷り切れぬ程の來客ありて當店の繁昌、眞に物珍らしき狀なりしと云ふ。四十年八月函館大火後、今の末廣町三十六番地に新築移轉し店舗を開きて菓子製造場を設け和洋菓子一切の製造に従へ居れり。製品の原料は重に東京其他各地より仕入れ又奥羽地方を初め本道樺太等に至るまで販路の擴がり居るは勿論、函館市内の得意先へは其都度當店備付けの自轉車を以て店員を走らし常に多少の注文にも應せしむるの勉強を特色とせり。當店は原料の精選及び製造に注意し祭事用菓子並に四季の進物用洋菓子各種共に品質精良体裁優美を旨とし薄利廉價に調進するを以て各地よりの注文續々到來するの様な

電話七百五十六番、店主田村松五郎氏。

▼精養軒 相生町百一番地にあり明治二十年の開業に係り食パン、ビスケット、其他の洋菓子製造販賣を業とす。常に外國軍艦商船、日本艦船等の需用は悉く同店一手の調達に係る。明治四十四年皇太子殿下(今上陛下)行啓の際に御料食として同店謹製の麵包を供進するの光榮を忝ふせり。麵包製造業としては



精 養 軒

本道一にて廣く販路を有す。電話二百二十九番店主杉村米藏氏。

▼松林堂 明治二年鶴岡町貳拾番地に創業二十五年今の東雲町貳百八拾壹番地電鐵會社

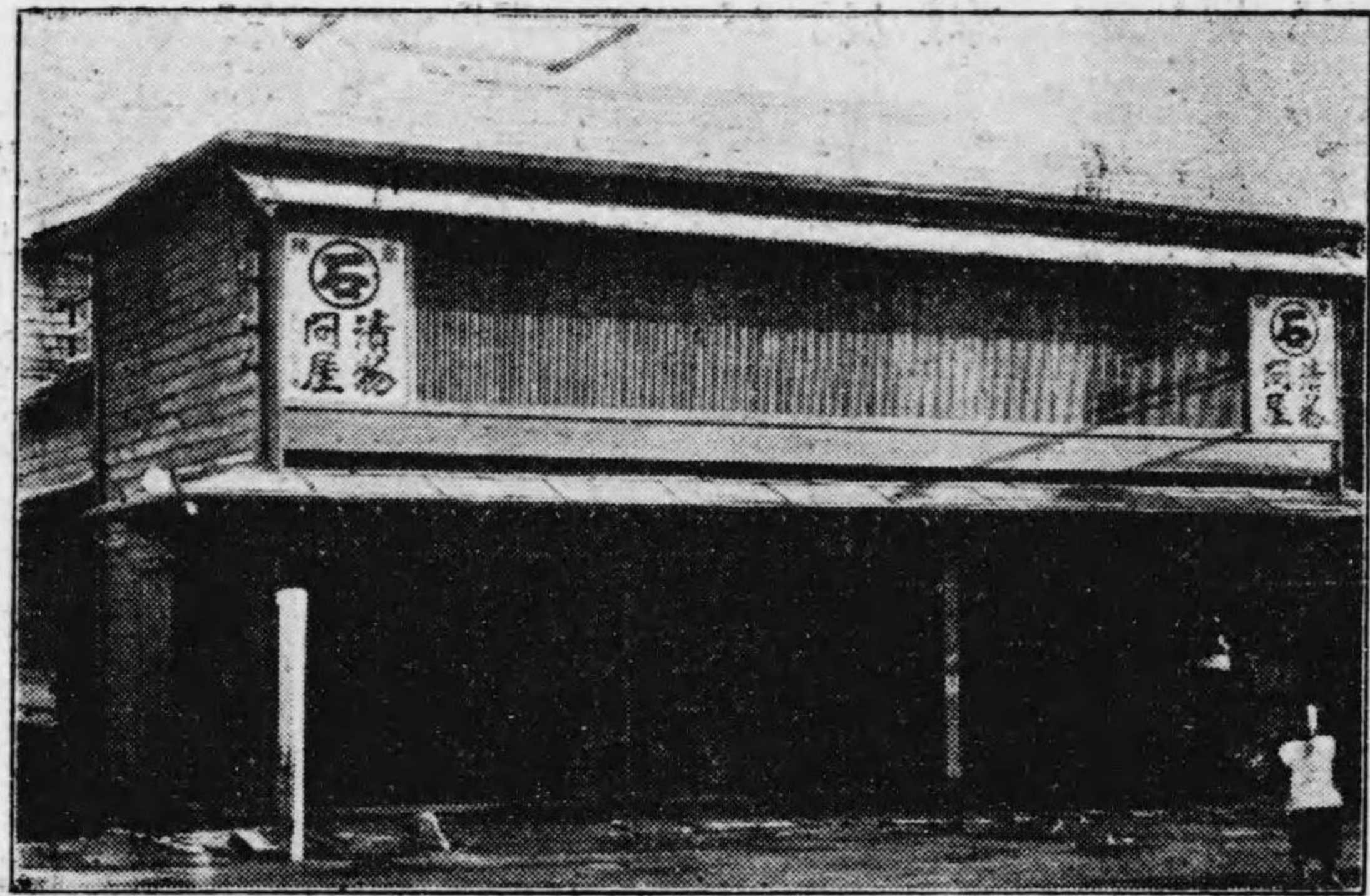
通に移轉營業を繼續せり。當店は和洋菓子類製造並卸小賣商を業とし函館區内及近村一帯に販路を有し區内東部に於ける有数の菓子商にして印の丸吉を以て夙に名あり。店主は松本善吉氏。

▼京屋商店 元龜田屋小路にありしも今は恵比須町に於て營業を開始し菓子器械、原料、附屬品、藥品、香料、進物用折詰、玩具壘詰鶴龜燒器具等總て菓子店入用品一切の一手販賣店にして内地及び本道一帯へ商品直輸出の本元たり。創業は明治二十年にして先の片桐商店時代より永續したるが故に諸店よりの注文頻出するの有様現今「京屋」の名は數多菓子商間に知られ商機を察するに敏なる店主の評判夙に高し。店主大西四郎氏。

▼藤井支店 末廣町通りにあり明治三十年の創業にして本道名産各種、昆布、製菓、漁類罐詰等製造卸小賣商を業とし開業以來年々製出額を増し製品各種共益々好評を博し各博覽會共進會等に出品毎回賞牌褒状を受るもの尠なからず、製品は當店獨得の製造方法により原料精選、容器堅緻にして貯藏久しきに耐へ風味佳良を以て名あり故に印の

山一と共に信用高く内外遠近に販路を有す。電話千八百八十七番店主藤井清五郎氏。

▼石田漬物店 恵比須町七十四番地に在り明治四十年舊丸平の漬物屋を買受けて以來、勉強信切を旨として商業を営みたる結果、遂に目今の繁昌を見たるのみならず常に港内に入港の各汽船より陸續品物注文あり爲めに營業の範圍擴張すると共に今は各町に丸石の印を分與し且つ市内數ヶ所に支店を設けて向後益々漬物商の隆勢を來たさんどす。當店は專業たる萬漬物の外に味噌類、諸罐詰、佃煮類並に内地特産の漬物委託販賣をも開始し應がて函館に於ける諸



石田漬物店

ての漬物商を席捲するの概あり。電話千百七十六番。

▼一ヨ漬物店 恵比須町博品館通りにありて諸漬物雑詰問屋にて其の販路最も多し。店主佐々木氏。

▼石川商店 函館に於て菫菊製造の元祖たり。明治十九年六月西川町三十一番地に創業以來菫菊の製造を以て名あり。四十年大火後、今の地蔵町五十一番地に新家を建築し之れに移り繁昌舊に倍す。當店は水戸菫菊粉産地特約大販賣をも開始し外に米穀石油白油にかり及び豆腐製造品一式販賣を兼ね市内は勿論、各漁場へ向け多くの商品を出す。印を山辰と稱し今は商界に名を知らる。店主は銳意熱烈なる商ひ營業者にして今日斯業の旺んを來せる眞因は當人努力の致す所にして皆、是れ汗の賜たり。店主石川安藏氏。

▼高橋豆腐店 恵比須町一番地にあり明治四十年の創業にして數名の賣子を置き電氣器械を備付け東京より細工生腐職人を雇入るなど頗る周到業務擴張に努め居れり製品風味最も美なりとの評あり。店主高橋安太郎氏。

▼丸安高田商店 地蔵町十四番地にありて果實、蔬菜問屋を専業とす。電話六百九番。店主高田豊太郎氏。

函館靴商組合

明治二十年頃創めて成れる皮職組合は本組合の前身にして當時同業者間無節制の爲め常に軋轢を生じ居たりしが前の川丁店主之を慨し主唱の下に組合を組織し後同三十七年頃皮商組合を更めて靴商組合と爲し現今に至る。同組合は本年八月規約を改正し組合中轉國又は家族入營者の送別、天災地變ある時の手傳及罹災者の救濟、死亡者の見舞等に對する寄贈金、契約年限を了へたる使用者に對する修業證書の授與、組合員にして該工業上に有益顯著なる改良方法を案出したる者、事業上に偉大なる功勞ある者及び品行方正業務に精勵勤續久しきに渉る者等に金品又は褒狀謝狀を贈與する方法及び組合經費の負擔及徵收方法等を規定し倍々組合の鞏固を計り常に斯業の發達及從業者獎勵のことに力む。現組長は伊多波嘉一郎氏。

▼伊多波靴店

明治三十三年七月西川町に於て開業し當初は製靴材料問屋たり。三十七年戰役當時頗に靴原料拂底の爲め移入頗る困難を告ぐるに際し三十七年蹶然大阪に赴

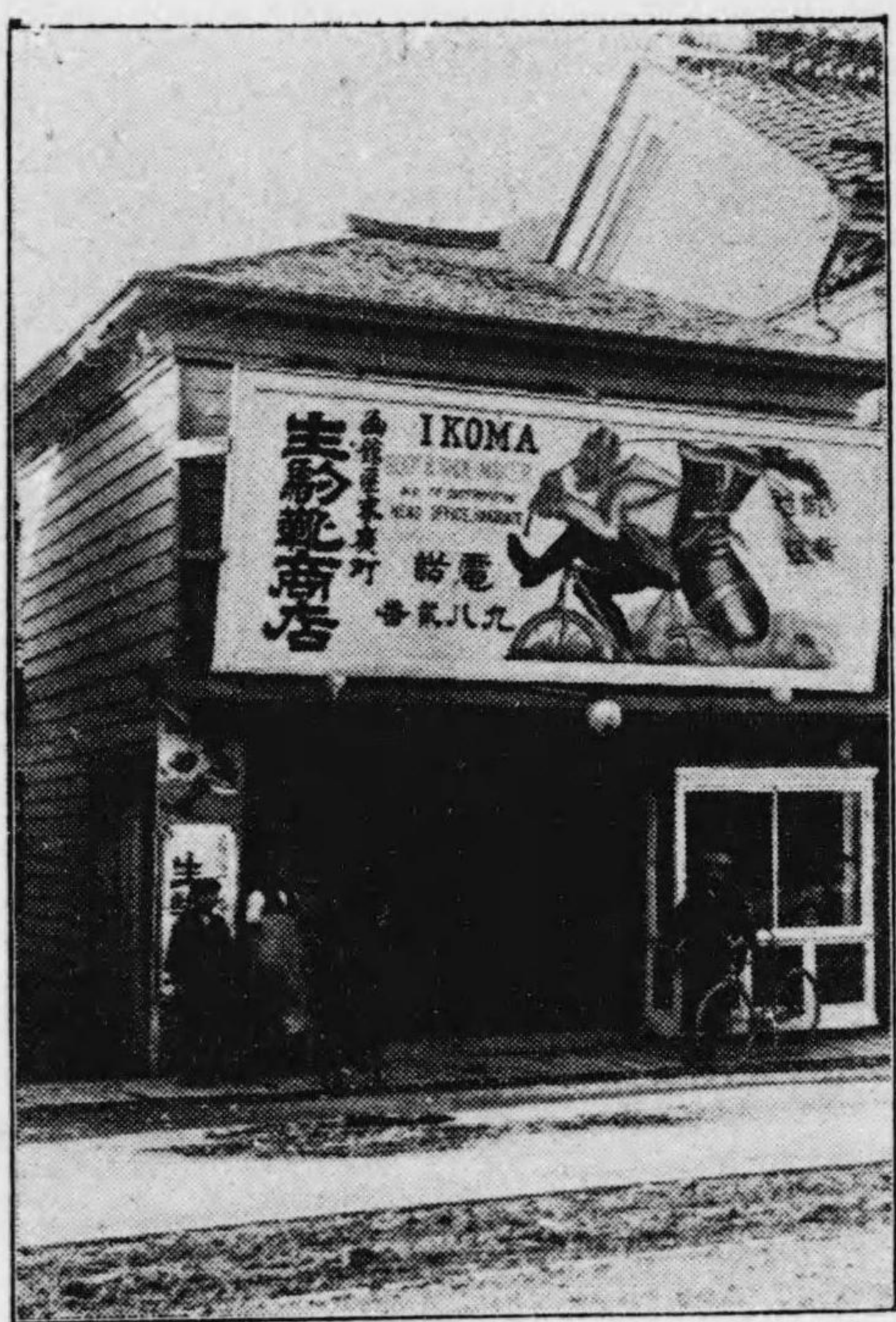


伊多波靴店

七八年戰役當時頗に靴原料拂底の爲め移入頗る困難を告ぐるに際し三十七年蹶然大阪に赴き職工を募り當區に製革工場を創設し各靴店に材料供給を十分ならしめ又同四十一年兼ねて牧牛事業を始め製革原料の豊富を圖り及び靴馬具製造の賣業を開始し同四十四年八月其販賣店を地蔵町五十一番地(現所)に開く。店主は現

▼生駒靴店

下職工賃金高く製靴價格の不廉なるを憂ひ函館監獄署に請ふて囚人の作業に代ゆるに、製靴の業を以てす。販賣品は之が爲に價格を維持せり。但し注文に應ずる物は自宅工場に於て之を製造し、販路は全道及奥羽地方其他に及ぶ。電話九百八十六番店主伊多波嘉一郎氏

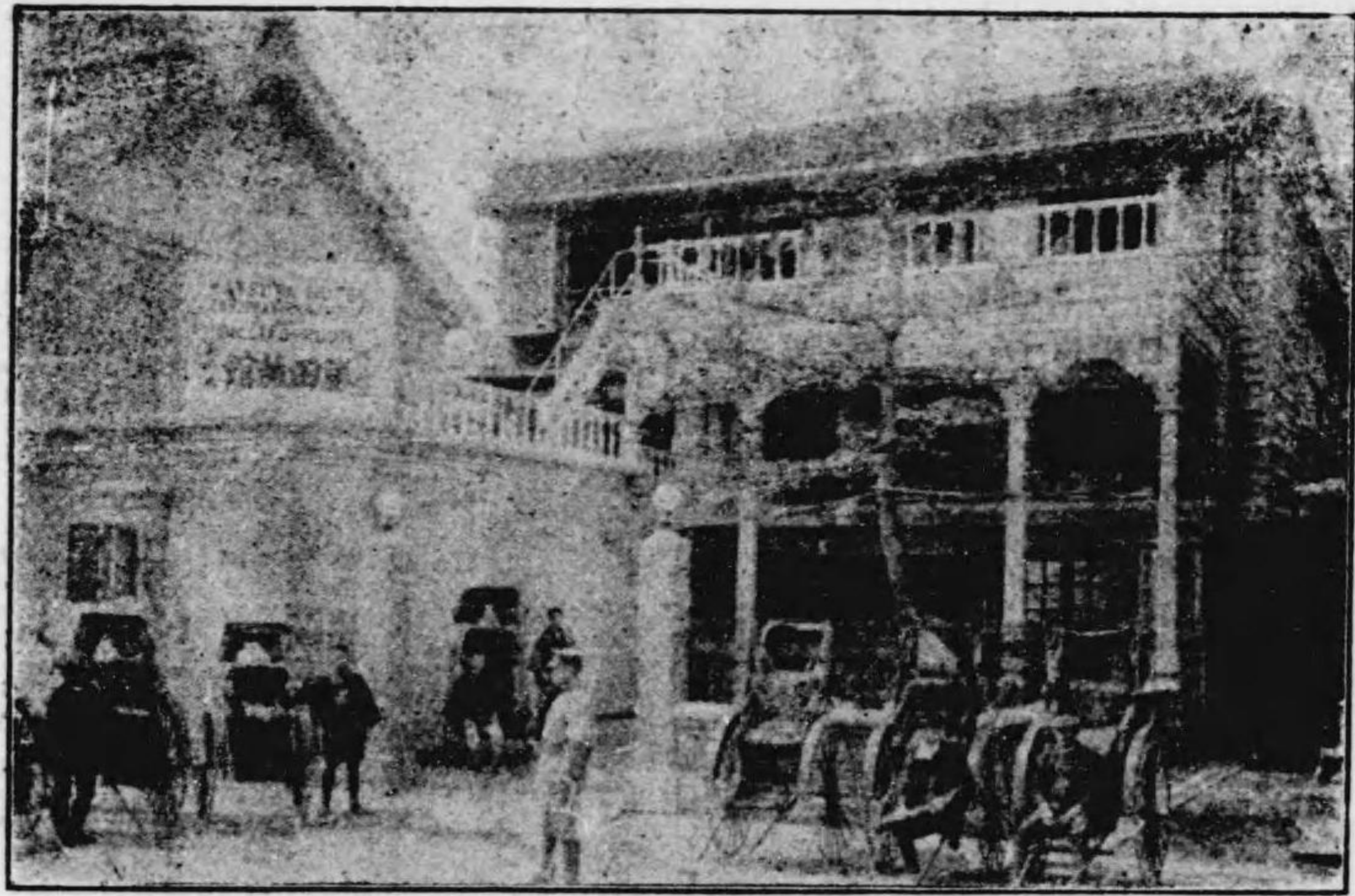


生駒靴店

末廣町七十五番地にあり。店主は明治二十六年より靴職に従事し刻苦勵精の結果同三十五年十月舊棧橋前に開店し、四十年大火罹災後今の所に移り開店せり。同店は材料を東京、横濱、神戸、本道並に其他の地方より廣く之を仕入れ常に職工拾數名を使役し盛んに製靴に従事し營業發展に勉む。販路は區内に於ては諸官衙、銀行會社並に各地方に亘り本店の特色は期日正確、製品堅牢、價格低廉を以て名あり。電話九百八十二番店主は生駒太次郎氏。

函館旅人宿組合

文政年間高田屋嘉兵衛其別莊を今の恵比須町勸工場付近に建て當時來港の役人其他の本陣
 たらしむ。舊時近郷及び近場所の者どもをして宿泊せしむる郷宿、其他當道に入るの旅人
 を引受ける所の宿受を官許され居る竹内屋與兵衛、小坂屋嘉兵衛等の旅宿ありこれのみに
 て一も今日の如き宏大なる旅館を有せざりしが維新後開拓使役置以來渡道者茲に倍し爲め
 に旅店の必要を促し來りしを以て明治初年茲に本陣を設け舊商業學校所在地何人に限らず
 共宿泊を許す。中村兵右衛門之を取扱ふ。其後五年四月旅籠屋と改稱したるも後亦旅籠
 屋を廢し兵右衛門單獨にて會所町に旅人宿を營む。當時濱町通りの谷太郎吉(今のキト旅
 店創立者)及び榮國橋脇丸等に過ぎざりしが六年佐野與三右門旅店開業後之れに尋ひで開
 業する者續出せり。然るに明治十八年北海道廳よりの下命に基き創めて函館旅人宿組合を
 組織す方今一等旅館八戸、二等同二十五戸三等同三十八戸にして六十一人の同業者を有す
 該組合は一年一軒當り二圓の會費を徴收し以て維持費に充て専ら當業者の和合を計り同業



勝田旅館

者相互の利益を保護し居れり。當地の重なる旅
 館は舊棧橋前の違三、キト、角長、停車場前の
 恵比須屋、藤屋等の外角上は現時會所町に在り
 て何れも營業の繁昌を來す。現組長勝田鑛藏氏
 外副組長共役員十一名。然して函館に於ける此
 等多くの旅館中、客室の清潔と宿賃の勉強即ち
 宿やとしての設備完全を以て聞てゆる旅館は左
 記の如し。

▼勝田旅館 東濱町舊棧橋前に在りて已に

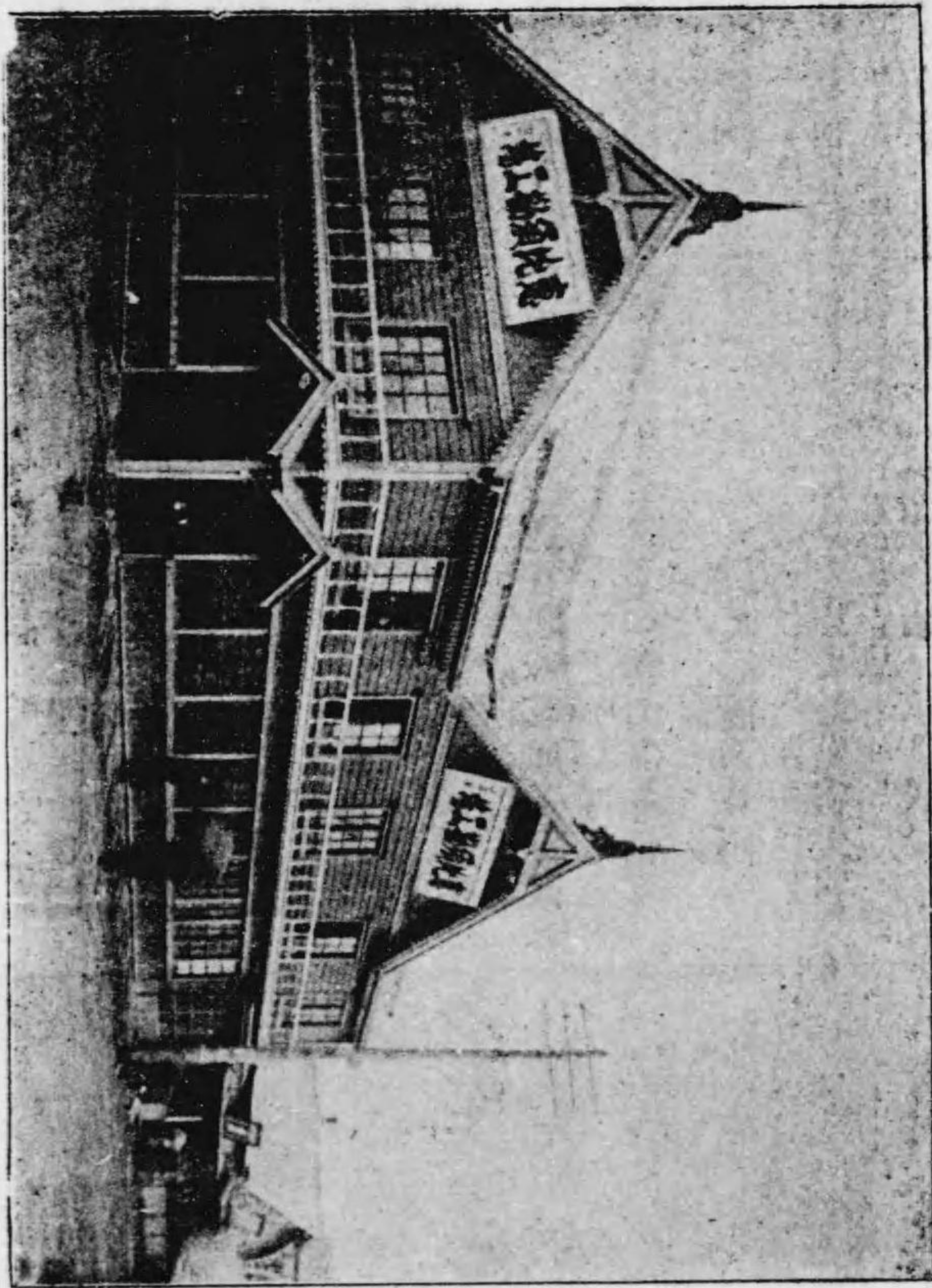
宿屋としての好位置を占む。明治十一年創業以
 來函館の違三といへば多くの旅客に其名を知ら
 れ居るが故に殆んど宿引(迎送人)の手を煩は

すことなく毎日數多の宿泊者を招致す。同館は四十年大火後、舊どの地に宏大なる建築を爲し現に數十の清雅なる客室と館内に風呂場は勿論、玉突場、洋食の堂ありて旅人を慰むるの具に供し樓上には船橋様の運場を設け明媚なる内外の風光を視界に入らしめ爲めに旅情を慰さむるに足る。大沼に支店百花園あり。館主勝田鑛藏氏。

▼武藏屋旅館 創業は明治二十二年、當時東濱町に在りしも三十七年若松町に函館停車場の新設を見たりしかば同町百七番地に新たに支店を設け四十年大火後本支店を同一ヶ所に合併の上建築す。同館は印を角大と稱し二階建にして旅館としての好位置を占め清潔なる十七の客間及浴場の設備ありて船車連絡待合所に近く現に札幌鐵道郵便局郵便係員の定宿なるのみか函館停車場前に於ける唯一の郵船取扱所たり。館主樋口重親氏

▼曲サ旅館 若松町百十五番地函館停車場附近にありて旅客の最も便利なる好位置を占む一名大黒屋と稱す。

▲丸平旅館 汐止町壹拾番地。明治四十一年四月現所に開業せり、専ら旅客の便宜を謀り居れり、電話千百九十五番、店主堀川甚太郎氏。



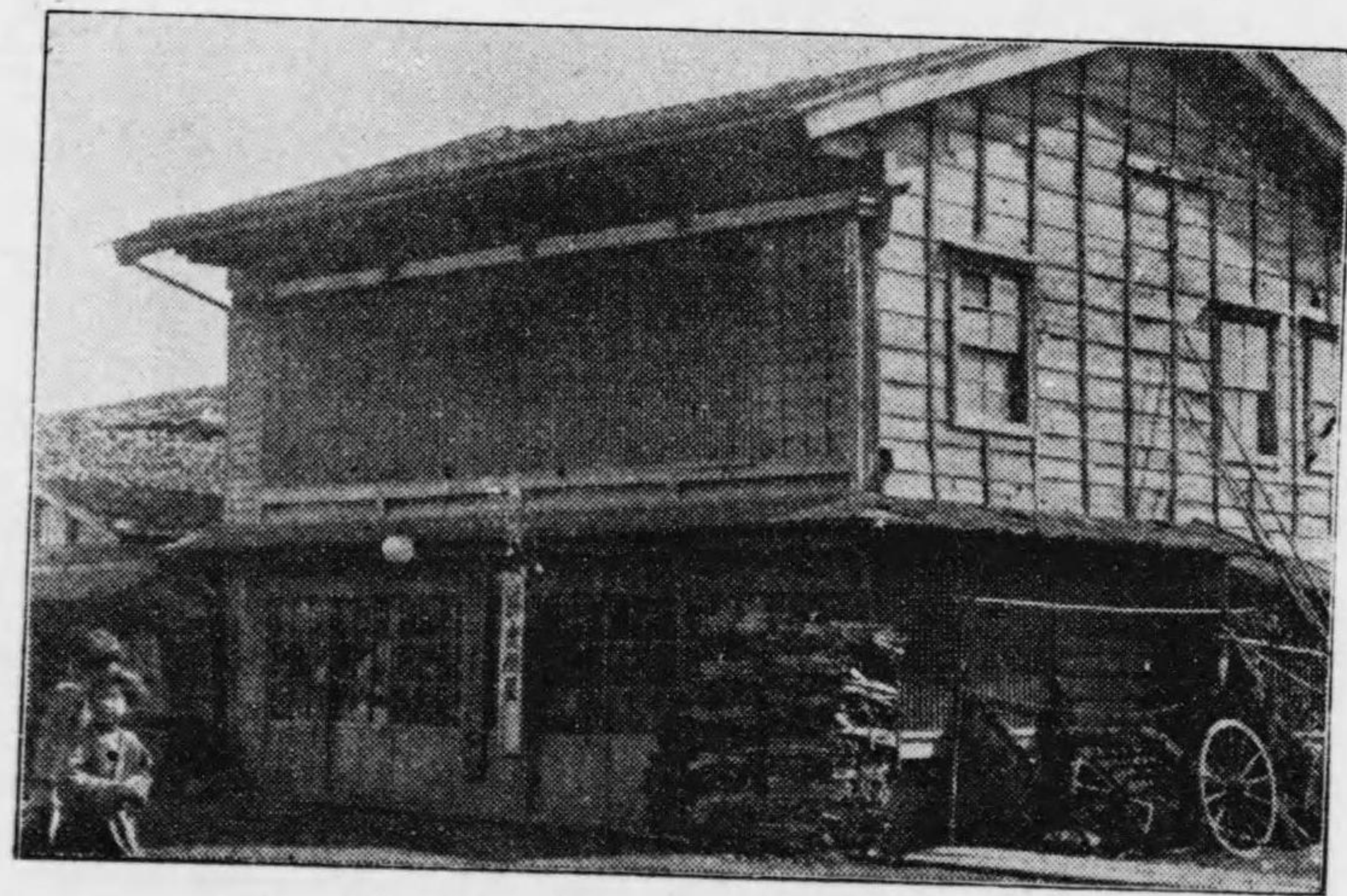
惠比須勸工場

勸工場

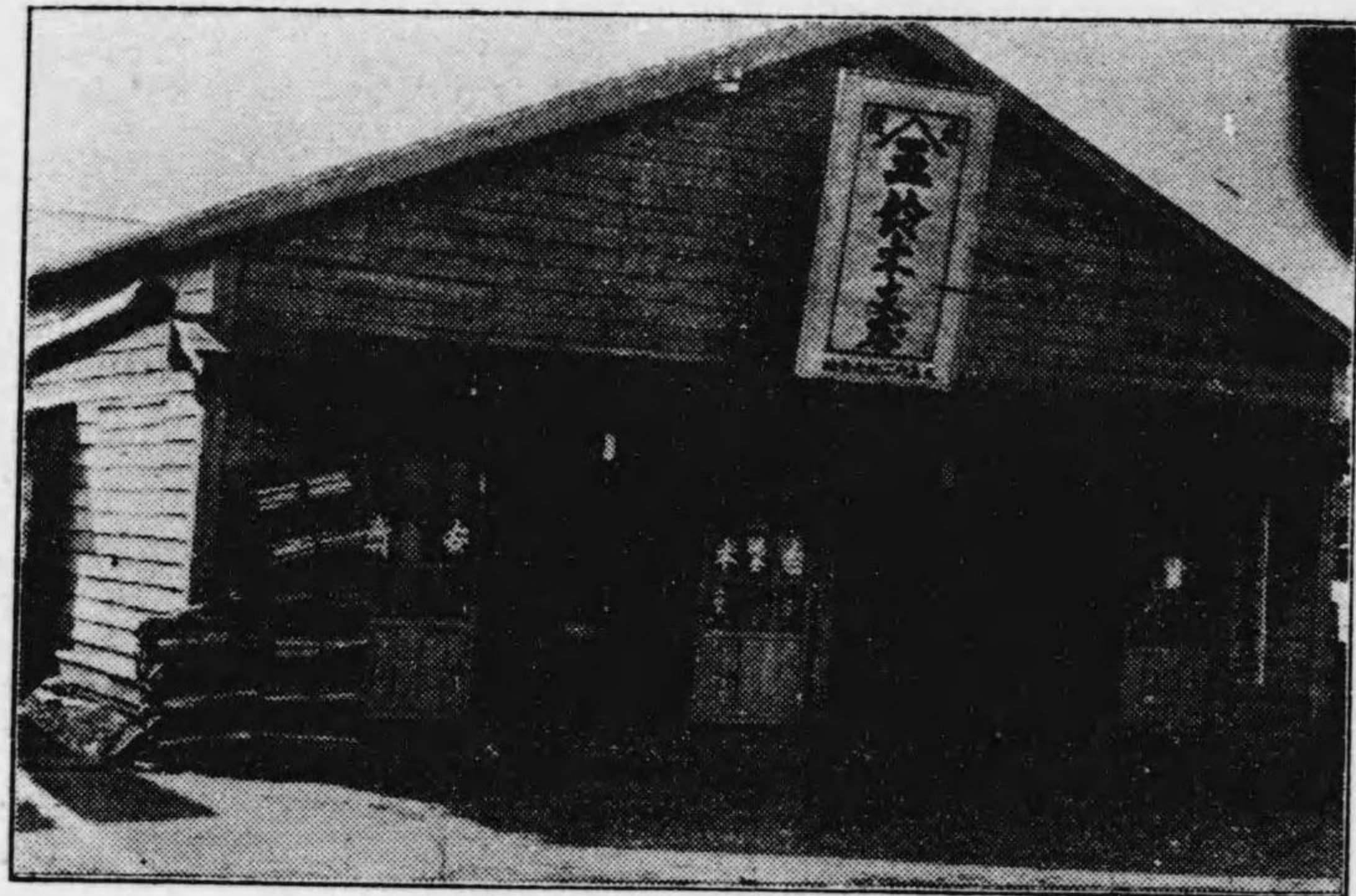
▼惠比須勸工場 當館は明治十六年六月二日より開かれし藏前(今の遊園地前)の藏前勸工場は之が祖始たり。然るに廿年中同館焼失、六月再び建築の工事成り卅二年中藏前勸工場を修築し函館勸工

場と改む。其後、久しき時日を経て舊の西川町より現今の地に新築移轉し勸工場くわんこうじょうの組織及び館名を惠比須勸工場と改稱し一切の經營は松吉館主の手に収められ場内には別に松吉商店繪葉書發行部を設けて百般の實寫を試むるが故に今は函館に於ける新流行繪葉書界の先驅として衆人に知らるゝのみならず北海道各地の名勝及世間未知の風景等を機敏に紹介するの傍ら其如何なる撮影困難の地と雖も其筋に於て公認ある限りは繪葉書發行の事に従ひ居るを以て繪葉書愛賞家の好評を恣しにす。館主松吉 氏。

▼鈴木薪炭商 本店は明治三十三年十一月



店本木鈴商炭薪



店支木鈴商炭薪

東川町二百廿一番地に創業、専ら薪炭を商ふ。三十五年三月、今の蓬萊町百五番地に移轉し北海全道に仕入先を有せり。販路は函館地方は勿論、東京、横濱、大阪、上海にまで及ぶ。店主鈴木才三郎氏、又支店は明治四十二年十月の開業にして大森町二十七番地に店館を有し薪炭及米、味噌、醬油、酒類等を販賣し遊廓内得意は勿論、其他各方面に販路を有するのみならず多年の信用を博せる本店の營業と及び商法活潑なる支店の有様とは函館の同業者間にも其事實なるを認めらるゝの好況に在り。支店の店主鈴木 氏。

函館肉商組合

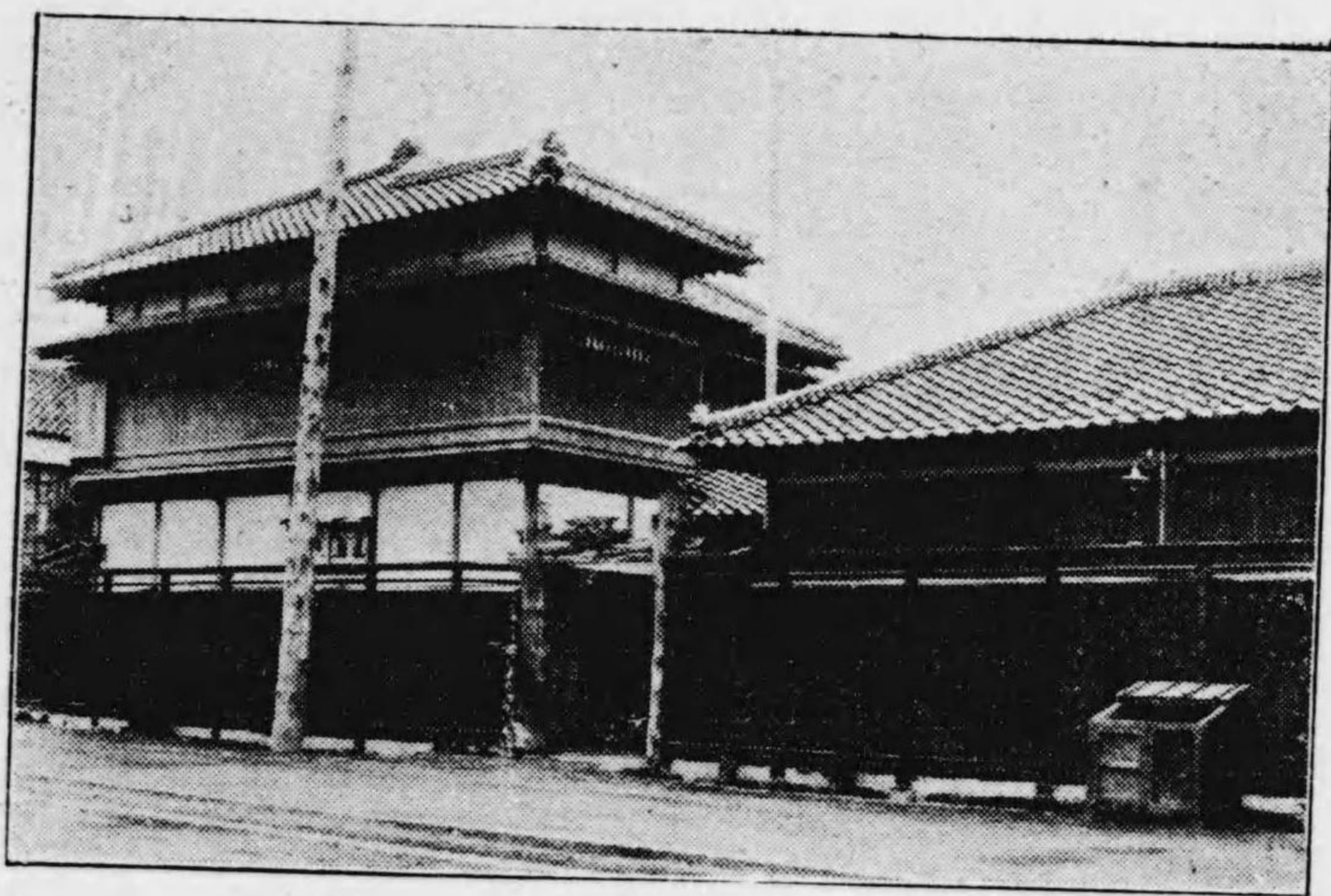
函館の肉商は明治四十三年頃迄は三十二名團體を結びたりしも其後沸々仲間入の資格を失ひし者のあるより人数を減じ四十四年三月始めて道廳より同業組合設立認可あり。組合員は現在十四名にて一戸に付毎月一圓の経費を徴收し居れり。又組合一には四十三年六月制定の上其後公證役場へ登記の手續を濟せる營業保護の規約あるを以て若し同業者間に諸の定價を亂賣し又は組合規約に違反したる者に對する處分法として違約金百圓を差出すの義務を負はしむるの箇條を加へて肉商連の不正競争を避け又組合員中死亡者ありし場合は作花一對を贈るの附則を設くるなど組合としては内容の空虚を見ず。函館に最も古き肉商はと云へば東濱町森龜同町兼村、西川町古旗、末廣町正一鎌田等を推さざるべからず現組長原鎮太郎氏副組長池谷伊三郎氏。

▼小林肉店 末廣町六十二番地にあり。明治二十年の創業にして神戸直輸入の牛肉各地直輸入の鶏卵販賣を主とし鶏豚肉等の卸小賣並に牛乳、ソーブの配達を爲し顧客の注文

に對しては何時にても遠近多少に拘らず迅速配達を爲すに勉む。電話九百三十四番店主小林孝助氏。

函館料理屋營業組合

興者は歡樂を此處から得る料理屋營業組合は明治四十三年三月創設を見たるも其の以前には各自營業に對する定則なかりし爲め函館に在る料理屋は何れも區の東西兩部に分れて營業を開始し競争自由の姿なりしが創めて該組合を設くるに至りて當初七十名の加入者は皆相互に舊時の營業法を改め四十五年六月組合設立認可の日より函館の料理屋は漸く舊陋を去り營業の改良に思ひを致しつゝあり。されば函館に於て營業の許可を受ん居る百八十の料理屋の内、現今組合に加入せるものは六十三名なるも組合の方針としては成る可く何れの料理屋をも加入せしめたる上にて營業者に對する經費の負擔を輕るからしむるは勿論、同業者の一致團結を計るに努む。而して組合が現時の状態にある所以のものは曩に湯の川の料理屋をも加盟せしめ居りしも四十五年三月以後これと分離し單に函館の同業者のみを



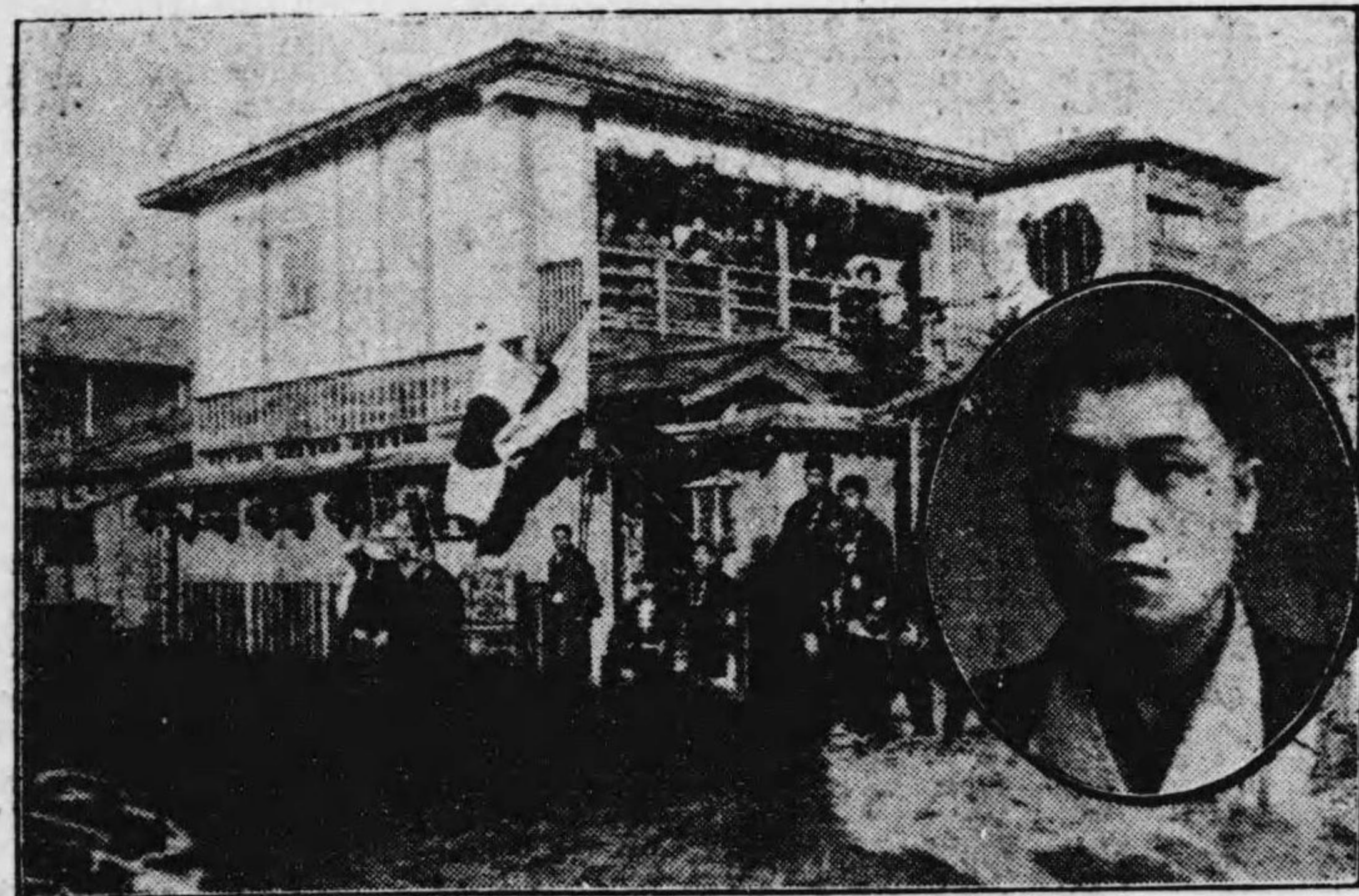
角 中 樓

含めて組合員たらしむることとなりたるに基づく、又組合経費として毎月徴収する分は料理屋の等級別に依り一等より五等まで各負擔額を割り定め以て其維持を圖る。現組長は組合創設當時より變ることなく小林與兵衛氏にして副組長上田仁太郎氏とも役員十三名。

▼角中樓 函館名物の一に數へられ明治二十二年蓬萊町百二十二番地に創業四十年十二月現今の所(同町一番地)に二階造りの壯樓を建て萬口粹を見するが故に繁昌す。大廣間は五十疊敷にて外に十五の客室と數奇を凝らせる多くの盆栽と景色 整へ三つの中庭とを有す。興を遣

る者の爲めには三四の宴會席、夏の涼み場杯の設らへや板前としての自慢は本道鼻祖の鳥のたゝき最も名あり。同樓は今年六月四十八歳を一期として亡き數に入りし女將のたきが開業以來、腕一本で叩き上げし身代は少しも揺かす今は蓬街で二と下らぬ旗亭たり。電話二百二十八番主人本庄末吉氏。

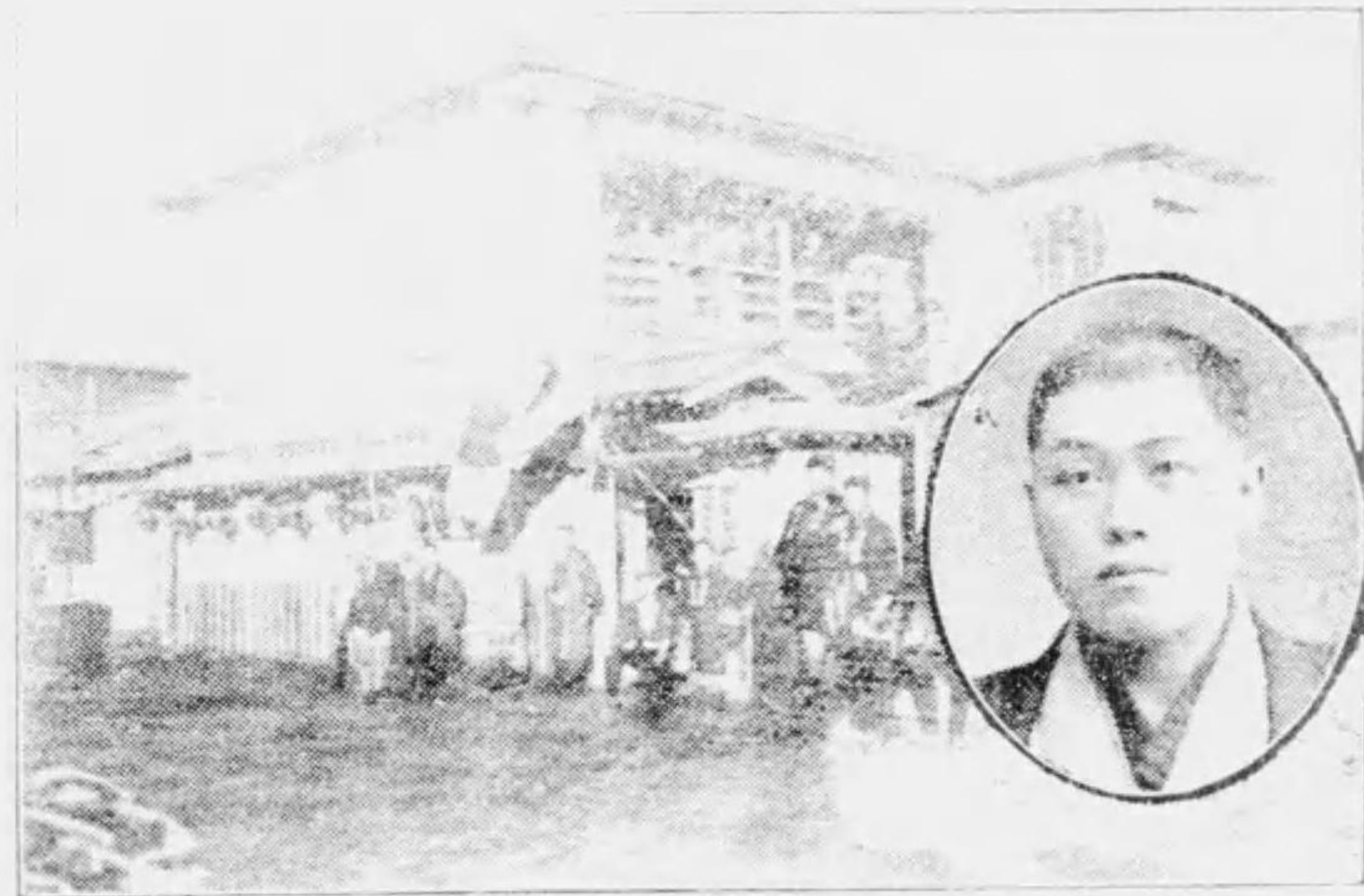
▼求友亭 東京にて充分に板前の道を修業し三十三年四月函館に來りて地藏町魚市場前通りに初めて『龜の壽し』なる家傳の製法を以て客の評判を博す。後二年を経て末廣町に移り夫より蓬萊町百十五番地に料理屋を開業したるが山キ印求友亭の名は是れより漸く遠近の人に知らる。後同町百五十二番地に新築移轉すると間もなく不幸大火に罹りて惜や永年仕上げし旗亭を一朝にして灰神樂と爲せしかど火災後逸早くも同町百五十三番地に一時假家を建て營業を繼續したりしかば當時思はぬ繁昌を來せり。前には折角新築して後幾千ならざるに類焼の厄に逢ひ今亦それに倍する本家をば新に建築せし亭主が營業の手腕いと大にして即席料理は何に呉れどなく手早く調進するのみか同亭自慢の『龜の壽し』は何



求 友 亭

時も料理以外に勝れし手際を見せ居れり。さて山キ求友亭が料理屋として今の地位に立までは所謂旗亭を出せる動機の在るは曰ふ迄もなし。初め亭主の氣質を見込んで一肌脱ぎしは木村鹿造氏とて函館に名を知られし請負師なるが同人は是まで同家の目となり頭となりて萬事に後ろ立ての根強さは今日同亭が函館の料理屋仲間にも顔利きの方なるに徴しても知らるべし。電話千三十一番、亭主鈴木柳作氏。

▼丸八料理店 舊と蓬萊町にて開業したりし當店は明治四十二年三月、今の町十三番地一名二山小路に移りて依然名取りの『都壽し』



山小三郎

時料理以外に勝れし手際を見せ居り、此
 山求友亭料理屋として今の地位を立すは
 所謂細心を出せる動機のあるは目を見
 初め店主の氣質を見込め、一理説き、は木村此
 諸氏にて味館は名を知られ、請負師たるが同人
 は是れ、同家の目と成り、萬事以後、
 立ての根強きは今日同亭の味館、料理屋仲間
 して、顔利きの方なるに徴して、
 話十三番、店主鈴木御作氏
 ▼丸八料理店 舊、蓬萊町にて開業したり
 此店は明治四十二年三月、今日大町十三番地
 名、山小路に移りて依然名取り、都壽し一

茨城縣稻敷郡鳩崎村
 醸造元 上菱資合會社
 品質 優秀
 天下 一品
 シビウヨヂ
 油醬上最
 函館區相生町
 發賣元 千葉屋
 醬油店

英國 トーマツアリスエンドサンス製網會社
 日本支店北海道總代理店
 只木商店 只木小三郎
 日本生命保險株式會社函館代理店
 只木小三郎
 函館區大森町
 和清嘉樓
 函館區蓬萊町電話(一〇八六番)
 振替貯金口座東京二二三三六番

- 洋菓子 ●掛菓子
- ばん菓子製造

函館區會所町五十三番地

卸東洋堂

岡部榮吉

電話(二七三番)

賣藥・化粧品
卸小賣商

函館區辨天町四十一番地

國領平七商店

電話(六一八番)

振替貯金口座 東京第四三三六番

船車連絡
待合所

淺田屋

函館停車場

淺田清

電話(八八八番)

小龜

幸樓

電話九番

竹內百藏

函館區大森町三十一番地

にて來客の需めに應じ殊に多年練熟せる主人が板前の手並いと鮮やかに多くの出前あるより現に繁昌を見る。尙當店は即席料理をも美味且つ迅速に調進するを以て名あり。電話千四百二十二番、店主大草伊太郎氏。



丸八料理店

▼五十嵐商店 創業は明治二十九年にして始め蓬萊町に在り。四十年大火後は今の

大森町三十二番地に於て營業を繼續したるに好雲に乗じて意外の隆運を來せしかば現今

にては函館遊廓内唯一の福連者として羨まるゝの地位に立つ。當店は質屋營業と一方輕便料理屋とを開き孰れも客足の繁さを見る。殊に本年九月工事落成の質藏は新式の扉を附し

堅牢美麗なり店主五十嵐平次氏。

▼吉野軒 惠比須町博品館通にあり。明治四

十年大火類焼後百三十坪を占めたる二階造を新築し従来料理店を営業とす。本店の特色は西洋料理及び焼き焼芋にして廉價と懇切を以て区内に名あり。階上には瀟洒たる客室九間あり庭には築山噴水等の設け風趣を添へ又洋風の客室も備へ只管顧客の便利を計れり。夏季は氷水をも販賣し其他鮮肉の卸小賣等も兼ね常に店頭多忙を極め同業者間に羨望されつゝあり。

▼入船家 名代の田舎蕎麥を以て世に知られたる同家は明治四十二年二月東雲町二百八十



吉野軒

番地(舊馬鐵會社脇)に創めて開業以來、華客の多くは各地行瀛船乗組員なるより夙に海員倶楽部の稱あり。同家は輕便料理一式を業とし外に名物田舎蕎麥の打ち方に得意の腕前を見せるが故に日を逐ふて繁昌す。殊に本年十一月營業擴張と共に居を東濱町九番地舊棧橋前に移し従來の即席料理を初め新たに工夫の『巴壽し』及び一切の仕出しを努めて手早く調理するは勿論、熟練せる料理職人を招ぎて遠近共多少に拘はらず大勉強にて出前に應ずるとの事、女將桑高ちよ子。

▼都庵 末廣町三番地にありて料理屋業を営めり。電話七百卅四番、店主堀文次郎氏。

▼吾妻屋 大森町卅三番地に料理仕出屋を以て營業し居れり。一名金森吾妻屋と云ふ。

▼山谷商店 蓬萊町百三十六番地錦輝館前にて明治二十七年の開業にて餅製造及販賣

店たり。店主山谷永三郎氏。

▼五色亭 大森町十七番地にありて菓子、五色餅等の製造販賣店たり、店主一ノ瀬源藏氏

函館西洋洗濯營業組合

其以前西洋洗濯業のあらざりし頃は函館にても從來の日本洗濯法に依りてのみ手業を致せしかど今より三十年前、現今の元町に始めて開業せし澁谷及び（今は豊川町の小出）明治二十四年大町に創業の森地等相踵いで營業を開始するに及んで漸次洗濯法は西洋風となり従つて同業者の數を増し來れり。函館に西洋洗濯營業組合の創立を見たりしは二十年頃にして當時は前記の諸人共に僅かに六名の營業者に過ぎざりしも其後組合加入者の増員を來たせり。四十年六月より實行を見たりし營業組合規約中洗濯品を受くるの目的を以て市街各戸に至り不正當の行爲を爲すことを得ずとある條項は勿論、其他組合員にして組合規定に違背したる者は組合規約に基き五圓以上百圓迄の範圍内にて過怠金を徴收すべき違約者處分の條規をも設定して營業者從來の競争を防ぎ賃金を一定し以て營業道德の制裁及び同業の一致和合を圖り且つ洗濯職工徒弟にして三年間同一の家に精勵勤続したる者に對し組合獎勵法に依り銀盃並に賞狀を洗濯營業組合附屬職工組合より其の都度贈ることに定め

たるが是迄、右の獎勵法に該當したる爲め組合より賞品及び賞狀を贈呈せしは總て九名に達せり。尙其他にも同業者の福趾を増進すべき規約の條項あり。現在の組合員は營業者、職工を併せて四十數名。現組長は函館に於て西洋洗濯業の草分け人たる澁谷力藏氏副組長森地由三郎氏外役員三名にて職工組合長は木村兼助氏。

▼澁谷洗濯工場 函館西洋洗濯業の草分けたる當工場は明治初年先代仁吉の創業に係り最初元町十九番地に在り。十六年より當主家業を繼續し十七年今の同町二十番地へ引移

り爾來今日に及びたるが當主の代となりてより一層業務の擴張を來たし常に職工數名を雇いて函館港出入艦船乗組員及區内全般に涉りて洗濯品の注文に應じ殊に郵船乗組員は常得意にて誂ひ物の多きを見る。又四十三年九月日本第一艦隊上村司令官を始め英、佛、獨伊、埃諸國の艦船長よりも屢々物品洗濯成績優良証明書を贈られし事あり。當工場は夙にダブリウエスの洗濯屋商號を以て世に知らる。電話千百八十六番、工場主澁谷力藏氏。

▼森地洗濯工場 明治二十四年辨天町三十二番地に開業、其後四十一年迄同所に於て

營業を繼續したりしが其年大町四十五番地（現住所）に工場を新築し之に移る。當工場は常に數名の職工を置き西洋洗濯一式を業とし函館港出入の鑑船乗組員及區内諸官衙各銀行會社員其他一般の洗濯物注文に應じ現に繁昌す。主人森地由三郎氏。

函館浴場同業組合

函館の湯屋に關する古記録は組合にて保存したるも四十年大火の際之を焼き盡せしかば古き沿革は詳悉を缺くと雖も函館に浴場同業組合の創設を見たりしは明治二十年にして當時營業者四十軒内外、湯錢の如きも一定し入浴券は十錢に付四枚にて各浴場共通に使用されしのみならず其の後浴場同業者間の距離を一町半に制限したるも三十四年之を廢す。三十七年共通入浴券は五枚の處と四枚の處とに區別したるも兩者の間に介在せる營業者の境界分ち難く爲めに之れも廢し又三十七八年日露戰役中は軍人優遇の一端として數萬枚の共通入浴券を區役所に納付せり。三十九年復た浴場營業距離の制限運動起りしかど遂に實行を見るに至らずして止む。此年道廳より營業規約の認可に接し四十一年六月以降舊態を

改め爾後毎月十八日には何れの湯屋も休業の上、此の日脱衣場及浴槽の修理或は煙突の掃除等總て同業者をして火防取締衛生施設に選漏なからしめんことを期す。されば之れがため各營業者に於ても休業の當日は浴場の修理に努めしかば到る處大工を雇ひ一時金槌の音絶間なき程の奇觀を呈せり。四十三年九月始めて浴場同業火災豫防組合を設けると共に五十七名の同業者に各消火器一挺を場内に備付けさせ以て萬一の變に備ふ。現今營業者間の距離を二町と制限す。組合員は七十名の内、顔の最も古きを鶴岡町の丸川湯、真砂町の鶴の湯、東濱町熊の湯、大黒町の人參湯、駒止町の小西湯とす。組合は統轄の便宜上基坂以西を第一部、招魂社坂より地藏町方面を第二部、東川町方面を第三部、榮町より以東を第四部、西川町以北を第五部の五區に分つ。現組長辻本善次郎氏。

▼龜の湯 開業は明治三十五年二月。初め鶴岡町四十一番地に在りし高畑某の跡を引取け同年五月同町三十二番地に湯場を新築之に移る。脱衣場は五間に三間の廣さを有し時々浴場の修繕工事に怠りなく且つは函館停車場に近き爲めにや四時浴客絶ゆることなし。此

湯屋内には常に廣告の美人畫を懸け置くは主人が廣告者の意志を満足せしめんとの厚意を窺ひ知るに足る。營業主辻本善次郎氏。

▼松の湯 函館に稀なる七尺に四尺の大浴槽を有する此浴場は明治三十三年の創業にして榮町(舊東川町)に在り。湯屋としての特色は完全なる場内の裝飾、主人が好みの花奔珍木は勿論、四十三年改築以後に於ける浴場は何處となく目立つ様なる構造にして函館東部に於ける唯一の湯屋なり。されば此の界限及び東方一帯より來る浴客極めて多し。營業主野村六松氏。

▼鶴の湯 眞砂町三番地にあり二十年前の創業に係り明治三十六年五月從來の湯釜を改め蒸氣々罐とし「スチーム」を以て溫度を測り浴客の便に供し草津温泉の湯花を和して湯治の効あらしむ其他設備能く届き清潔を旨とし此方面に於ける最も顧客多き浴場なりとす、營業主は宇田富三氏。

▼熊の湯 明治十九年寶町に開業。後二十三年一月に至り今の持主引受け經營する。とくなり四十年迄全所に於て専ら藥湯のみを營み來りしが同年八月大火罹災後四十一年三月今の東濱町四十八番地に新築移轉し從來の藥湯の外に白湯をも併せ設け浴槽數箇を有し頗る繁昌しつゝあり。店主は小川善一氏。

▼温生湯 創業は明治三十一年、駒止町一番地にあり。二十九年及四十年八月二十五日類焼したるを以て同年十二月舊の場所に新築落成後は從來の浴場を改めて一切人造石敷詰めとなし浴槽の如きも他所よりは善美を凝らし營業繁昌を極む。主人小西常吉氏。

函館理髮業保健組合

浮世の半面を知るに最も手近かな床屋の變遷を尋ねて函館の丁髷時代の有様を寫し縮むるど、今より約百年前函館の床屋として名を知られしは方今の辨天町方面の丸善、丸松、大黒町の江戸屋位のものなりしが明治初年頃には二十軒となり何れの床やも俗に帳場廻りと稱して皆髮結箱を携へ一々得意先の用を達したるものなり。四年黒田開拓使長官江戸より理髮師宮本壽吉を連れ來り始めて散髮の事に従はしむ。同人は實に本道理髮業の元祖たり。

今厚岸に現住す。其後五六年頃より……丁髪が散切と變るに連れ以前は板の間四尺を定法とせし床やの店付も何時しか江戸風となりたるが七年奥山猪三太所謂新式の床やを創めて開く。十二年大火後、函館も亦悉く店の態裁は江戸の床や式と變れり。枕椅子を新に設けしなど其一例なり。十五年函館置縣の際には床やの年税は一等一圓、二等五十錢にて年二期に取り立つるの規定ありしも後に至りて此れを改む。當時（本陣函館奉行所役宅）へ時々床やを呼び集め營業に關する總ての用儀を傳ふるの慣例あり。十八年九月始めて函館理髮業組合の成立を見たりしが時の營業者奥山猪三太、宮本萬吉、越村清勝、等組合創設に専ら盡力したりと云ふ。時に組合員四十八人。同組合は三十五年まで繼續せしかど其後屢々變動ありて營業者の分裂を來たし四十四年十一月道廳令に依り函館理髮業保健組合を創設し以て今日に及ぶ。組合統轄區域は區内を基坂以西（第一部）永國橋より南西（第二部）鶴岡町巡查派出所以北（第三部）全上より北東（第四部）の四部に分つ助めて理髮業者の衛生設備を完たからしめん事を記す。現組合員百九十名、組長小林房吉、副組長石



店 髮 理 林 小

山仁兵衛、小林淺次郎氏。

▼小林理髮店 創業は明治二十五年、當時西濱町に在りしも大黒町の出火に際し類焼を見たりしかば其後末廣町丸和跡（元奥山猪三太の店）を引受け且つ鍛冶町丸五湯の脇、仲町風呂屋脇に各支店を置き外に辨天町武富の跡をも引受けて經營したるを以て舊時の床屋としては函館無比の隆運を來たせり。當店は夫れより大町角に移り四十年函館大火後、今の所大黒町六十二番地へ新家を建築し以て現今に及ぶ。館内に輝々たる七枚の大姿見を始め數個の安樂椅子其外理髮用の器具は何れも常に完全なる消毒を

行ひ居るは勿論、總ての衛生に注意し本年道廳訓諭の所謂「理髮館の面目」を保つ上に於て遺漏なき設備を有す。店主小林房吉氏。

▼自由軒 末廣町に大看板を掲ぐ。明治三十三年始めて横濱にて開業し後、東京に出で四十年迄腕を研ぎ再び元の地に歸りしも同年一月函館を見込み來り直ちに辨天町六十番地に開店の上自由軒と稱す。四十四年十一月現今の所へ店を新設するに就ては頗る苦心を費やしたりとかいふ。又も近頃店の構造を改築すると共に一切の理髮用具其他諸々に新式改良を加へ店主が練熟せる技倆と斯術に熟達せる多くの職入とは



自由軒

常に散髮者の好評を博し居り今後は電話を設備なし業務を大に擴張すと云ふ。店主野口甚太郎氏。



城理髮館主 豊治氏

▼城理髮館 当店主は秋田縣の人幼にして理髮業を習ひ十八歳の折秋田市下着町に始めて床屋を開業したるも當時未だ其技精巧に達せざるを以て大いに腕を磨かんには繁華の地に出でんに如かずと北海の一大都會たる函館を擇

び一人の弟子携ひ明治四十年五月此の地に渡り最初會所町十三番地に積廢せる床屋のあるを引受け店名を秋田床と改め開業し致々勵精の結果華客日に増加し盛況に向ひつゝある折

柄其年八月大火類焼の厄に遇ひしかば鍛冶町に移り丸玉湯屋の傍らに開店し玉の床と稱したりしが四十三年五月大明二十三番地（現在店）に移轉開業今日に至る、店主は頗る勤勉家にして且つ進取的の氣衆に富み常に斯業の改良進歩を企圖し夙く美顔術及び衛生法を研究に腐心す。又店内裝飾設備善美を盡し常に來客の満足を沽ふ。當館は函館に於ける新式理髮術元祖たる。尙ほ店內には電氣パイプターと稱ふるマツサージ機械の備附ありて貴需に應ずと云ふ。店主城豊治氏。



館髮理藤佐

▼佐藤理髮館 初め（明治三十六年）恵比須町に開業したるも四十年八月函館大火後

現在の會所町二十一番地に移り營業を繼續せり。館主は高等最新式調髮師として腕の冴ゆるを見る。且つ最近に至りて人動型の回轉椅子三脚を特に備付け理髮衛生に充分の注意を加へ職人數名を置きて向後益々新發展を圖らんと最め居るのみか當館は常に時好に先たんことを期し其れが爲めに當館の聲價漸く上がらんとす。



館髮理金子

館主佐藤長次郎氏。

▼金子理髮館 同店は以前東京及横濱に於て十餘年間同業を営みしが渡道後明治四十三年四月現今の末廣町九番地に最新式流行の理髮店を開き數名の職人を置き店内の設備充分消毒法も完全に行ひ營業繁昌しつゝあり。店主は金子



第八代子 東見番の花の家



中見番村家



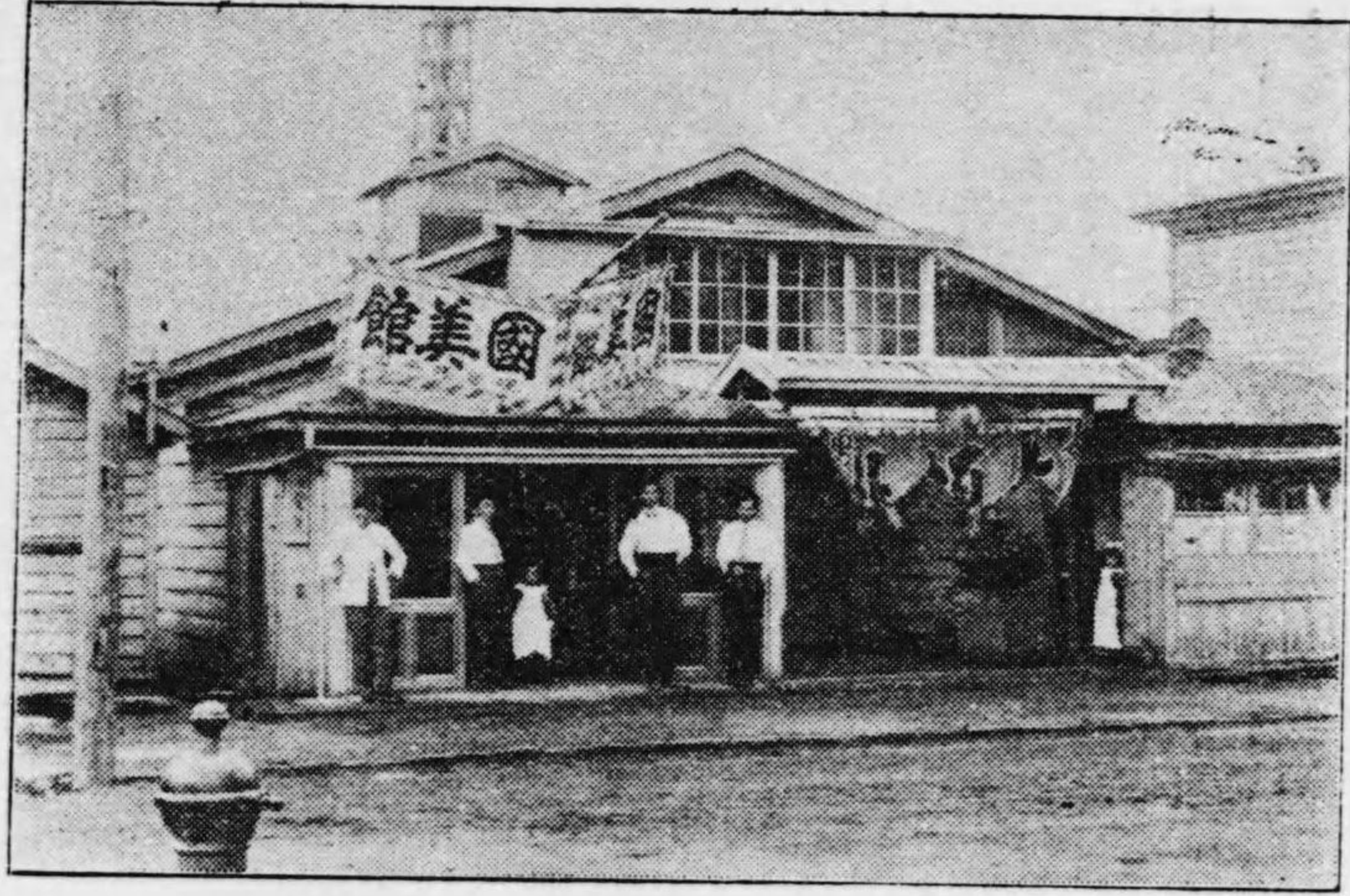
桃太郎 東見番大和家



た 東見番大和家



君 東見番大和家



館 美 國

芳太郎氏。

▼**國美館** 仲町十五番地に現存し明治三十年四月創めて大黒町に開業せり。三十三年根室に行き三十五年五月再び來函の上、三十六年六月元の所へ開店したるが三十七年一月軍鑑武藏の御用理髮師として迎へられ其後約一年半同艦に乘込み調髮の技倆勝れりとの評判を博す。三十八年六月鑑を辞し現今に至れり。當館は八枚の大鏡と改良椅子の備付けは勿論、常に使用せる數名の職人をして衛生に細密の注意をなさしむるのみならず館主自ら美容の上に深くも注視し居るを以て其名愈々現はる。館主平山國輝氏



小室理髮館

▼小室理髮館

當店は明治三十七年五月谷

地頭町五十九番地に開業其後今の同町七十一番
地に移り大に擴張を爲し職人五六名を置き器
具日に改良大鏡十余面を有し設備の完全を圖
る。又青柳町三十四番地に支店を有せり現に改
良椅子五六脚も備ふるに準備中にして區内此方
面第一の理髮店たり。店主は小室友輔氏。

▼千歳軒理髮店

眞砂町三番地にあり鶴の

湯に隣り同一家族の經營にして店内設備完全清
潔と町噂を旨とし此界隈に於て最も好評あり店
主は宇田のぶ氏。

▼凱旋理髮館

主人は幼少の折、後志國余

市に於て理髮業を修め明治三十九年五月函館に來り初めて海岸町六十二番地に開業したりしが其後諸所に轉宅の上四十四年五月今の同町六十九番地へ移轉し館主が特色とする最新式美髮及び耳掃除器應用の施術を以て此の界隈は勿論、遠方の來客にまで多大の信用を博し居れり。當館創業當時は恰かも日露大戰後にて出征軍人の凱旋する際なりしかば機を見るに繁なる主人は早くも凱旋床と稱したり、館主館岩藏氏。

館名	創業者	住所	氏名
理髮館	明治二十三年五月	天神町百壹番地	熊澤友治氏
天神館	明治四十一年一月	全町百四番地	富田勝氏
松原理髮館	明治四十四年四月	大黒町四十五番地	松原末吉氏
大黒軒	明治四十一年一月	全町八十三番地	輪島榮太郎氏
柴田理髮館(水電隣)	明治四十二年二月	會所町三十六番地	柴田一雄氏
勉強軒	明治三十九年三月	相生町三十六番地	伊勢政吉氏
一心館	明治三十年二月	豊川町十七番地	中村清太郎氏
北越館(小供専門)	明治二十年	地藏町五十五番地	本間根之吉氏

館名	創業者	住所	氏名
衛生館	(理並に食自轉車營業) 明治二十九年三月	寶町二十五番地	川村利吉氏
理髮館	明治二十九年三月	東川町二百九番地	土田みよ氏
末谷館	明治十五年	鶴岡町十四番地	五十嵐末吉氏
四ッ谷館	明治二十七年	全町三十八番地	平山新氏
菅原理髮館	明治四十四年六月	旭町二百卅五番地	菅原鶴吉氏
美髮館	明治三十五年二月	全町二百八十六番地	寺田徳太郎氏
吉田理髮館	明治三十六年四月	東雲町二百四十二番地	吉田登米治氏
理髮師	明治四十三年九月	若松町六十番地	板花權次郎氏
福田理髮館	明治四十年三月	全町八十六番地	福田儀一郎氏
郷光軒	未定	全町百五番地	池田伴藏氏
瓢箪館	明治三十七年五月	大森町十七番地	柴田卯之松氏
萬歳軒	明治四十五年五月	大森町三十番地	松本森藏氏
富理髮館	明治四十年	海岸町四十五番地	岩城平次郎氏
大勢軒	明治三十九年	全町三十九番地	岡村末吉氏
大正軒	明治四十五年	全町二十一番地	小林市五郎氏

見番

東見番

逢萊町二十五番地に在り。開拓使時代の創立にして函館に於ける見番の鼻祖たり。現在藝妓数は半玉を加へて七十四名あり電話三百一十一番見番主は明治三十年頃より經營の小林與兵衛氏。

藝名	本名	年齢	藝名	本名	年齢
小三	吉田たま	四十三才	小直	五十嵐ちか	三十七才
喜代治	八田きよ	三十七才	久子	竹内ふさ	三十五才
京	今泉なな	三十五才	ふく	中村こさ	三十四才
喜久壽	菊池ふき	三十四才	おこん	後藤すみ	三十才
たみ	竹内たみ	三十才	おん	岡崎さき	廿九才
れん	小梅なつ	廿八才	八重子	田澤まさ	廿八才
金八	小川れん	廿七才	こ重	中村八重	廿六才
高子	山本たか	廿六才	さくら	竹内こう	廿五才
八松	中島さく	廿四才	染子	栗山ふく	廿四才
友松	鈴木ふさ	廿四才	半七	瀧本まさ	廿三才
	志田ふく	廿三才	千代丸	吉田きた	廿三才

ひな子	金子たま	廿二才	あや子	高橋かれ	廿二才
桃太郎	宮川はな	廿二才	小つね	今野さん	廿一才
勢子	川村すゑ	廿二才	つばめ	山崎きく	廿二才
久松	後藤きよし	廿一才	花吉	結城よし	廿二才
きよ龍	竹谷きよ	廿一才	慶子	平田まさ	廿二才
奇龍	吾市はる	十六才	ゆき子	秋場ちよ	廿四才
おこま	赤塚きみ	十九才	福榮	中村ゆき	十八才
小金	濱谷ちさ	十八才	百合子	波多野ふよ	十八才
正綱	押野初榮	十六才	君平	島津とし	十七才
小丸	小野みつ	十八才	ナヨツ平	藤田りさ	十九才
菊丸	前田すゑ	十六才	菊龍	竹内みよ	十六才
五郎	五十嵐すゑ	十七才	愛子	和泉きく	十七才
千歳	佐久間みつ	十六才	和歌丸	秋葉はな	十七才
きん太	高橋たつ	十五才	玉蝶	小梅させ	十五才
玉子	成田なみ	十五才	小千代	中村るい	十五才
清香	赤塚さく	十七才	君だんご	志田千代	十五才
榮子	山内いせ	十四才	てる子	宮川きみ	十五才
壽子	後藤しん	十四才	いさ子	志田ふさ	十三才
桃々子	小林まつの	廿一才	光子	小梅みさ	十五才
				鈴木きよ	廿一才

巴見番

明治二十年頃の創立にして舊名西見番と稱し鍛冶町廿二番地に在り。上田仁太郎外四名の合同經營に係る現在の藝妓數は半玉共にて六十八名を有せり電話四五番。

藝名	本名	年齢
おつま	三上ちよ	十六才
照葉	深山き	十九才
おん	中村みつ	廿七才
萬奴	勢能つぎ	十三才
よし松	樋口みほ	十四才
小濱	杉村はま	三十九才
里津	丸山りつ	三十六才
源平	高橋さわ	三十五才
市松	小田みや	三十五才
勝壽	三上さく	三十才
光利	濱坂たか	二十八才
ふく	吉田みつ	二十二才
柳子	渡邊さみ	二十才
千代丸	小坂りう	二十四才
菊龍	荒川きよ	二十三才
春榮	菊松龍	二十才
藤奴	松榮龍	二十才
中野はる	吉丸次	二十才
安元ふじ	米次子	二十才
太田よしの	竹子	二十才
馬場みよ	静子	二十才
中村浪江	登志子	二十才
十五才	つれ	二十才
十五才	熊登つれ	二十才
十四才	小島くめ	二十才
十四才	池田せい	二十才
十四才	長谷つる	二十才
十四才	諏訪村よれ	二十才
十四才	松田せん	二十才
十四才	長尾たき	二十才
十四才	佐藤さく	二十才

藝名	本名	年齢
おん	中村けい	二十二才
福人	中村こん	十八才
久人	上坂小千代	二十才
はる	阿部しわ	二十才
茶洲	井筒みや	十九才
満洲	柴野さよ	二十二才
王子	小田島きよ	十八才
みは	松田よれ	十七才
つる	柿崎みよ	十七才
利丸	安原みつ	十五才
桃丸	鈴木みつ	十七才
福龍	上田いづ	十六才
源太	長内りつ	十六才
太郎	小栗まん	十五才
菊丸	石井やす	十四才
巴丸	山崎はな	十五才
静港	五日市うめ	十四才
今榮	上野はつ	十五才
高橋	高橋こゑ	十六才
小僧	櫻井もこ	十四才
新開つる	力丸	二十一才
宮内さめ	かよ	二十二才
津田たか	たか	二十才
吉田か	あや	二十才
工藤つる	一丸	二十才
那須野き	丸龍	十九才
八木き	奴丸	十九才
高山てい	富久丸	十七才
古澤つま	さだ丸	十七才
瀧野澤よし	玉龍	十六才
工藤はる	清龍	十六才
櫻井きよ	蝶子	十六才
長谷きよ	清子	十五才
所たみ	たみ	十五才
奥谷きよ	喜代	十五才
吉田かめ	喜代	十四才
櫻田さめ	時丸	十四才
高橋か	き丸	十三才
瀧本やす	鹿の	十九才
熊谷はる	春子	十七才

喜良久	梅井ふみ	二十一才	せつ子	宗原つき	十四才
のんき	志山はぎよ	十五才	八重子	澤田石恵	十八才
愛子	安原よね	十五才	繁龍	川尻しげ	十五才
花蝶	佐々木よし	十六才	小新	中村みよ	二十四才

町見番

創立は明治三十八年十一月にして初め相生町八十二番地に在りて名を町懸板と稱せり。源の起りは日露戦役中、函館は要塞地帯なるを以て戒嚴令を布くと同時に出征軍人をして病毒の感染なからしむべき陸軍當局者の注意は端なくも其筋に於て戦時中、藝妓の健康診断を行ふに決したるより利かぬ氣の藝妓等は一團となり月謂非開帳派なる名目の下に別派即ち遊藝派といへる函館藝妓の強硬團を組織し此等の據るべき所を町懸板とし當時末廣町料理屋丸茂及今の見番持主合議の上創立したりしものにて其後三十九年十一月見番を同町六十三番地に移し四十年の大火に延焼を見たりしかば一時谷地頭町百花園庭内へ假見番を置き其年十一月(今の相生町六十二番地)新築移轉し今日に至る。其間に於ける持主(神邊)が經營上の苦心は容易ならずして一時は十名に満たざりし藝妓を辛らくも



町見番の萩家 したほ



巴見番の宇内丸 丸こぶ



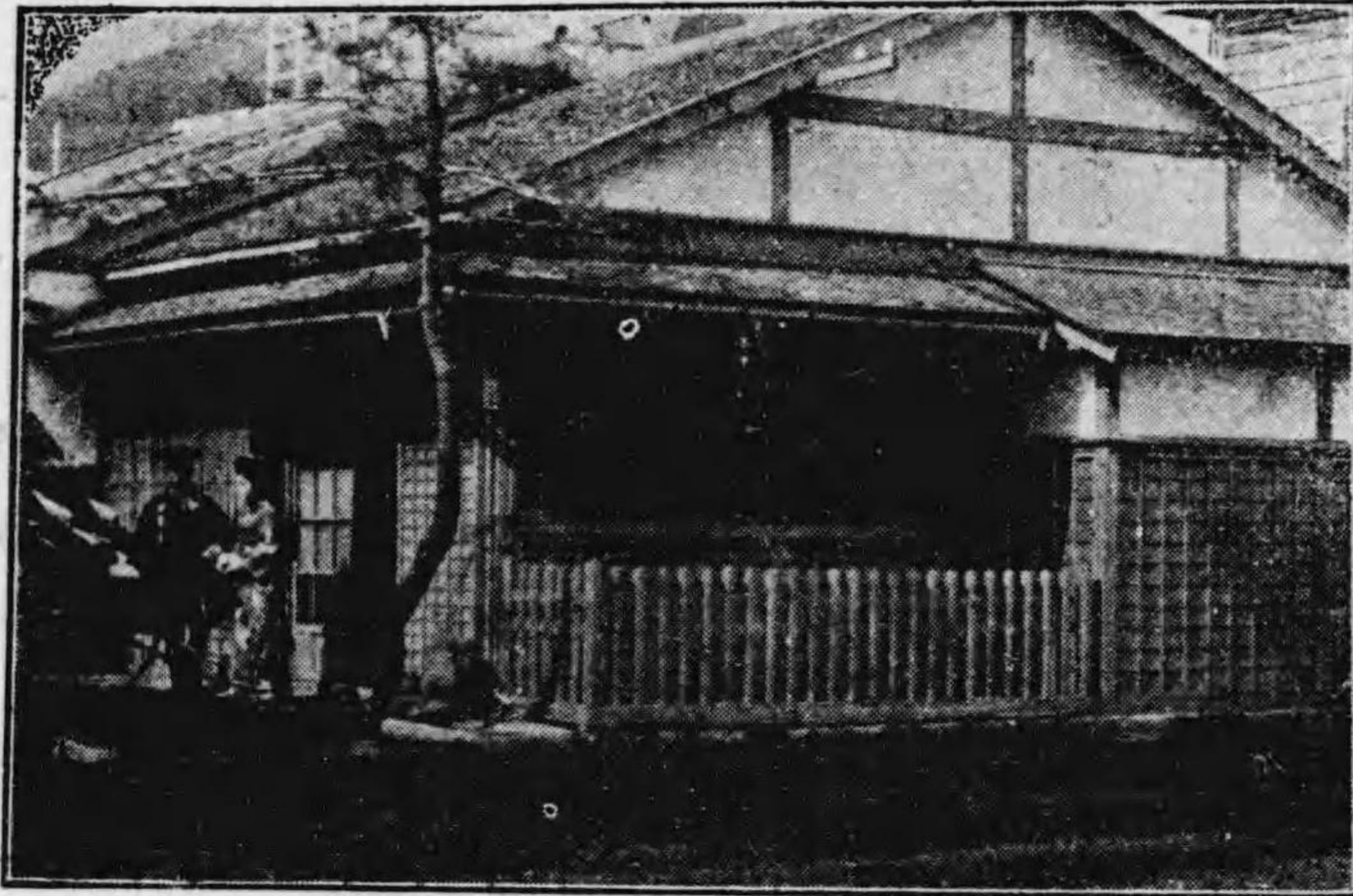
蓬見番の稲家 小龍



町見番の春家 鹿島



東見番の藤家 梨



町見番

支へ柱となし以て見番の再興を計ると共に稱を
町見番と改め持主は初志の貫徹に努む。電話二
百十六番。經營者神邊五兵衛氏。

藝名	本名	年齢
宮次	沼田たか	四十三才
美や子	高島かれ	四十二才
バ子	梅本はな	三十七才
きた	松島さだ	三十九才
六助	佐々木さめ	三十一才
鶴子	小村つる	二十七才
信子	小笠原かれ	二十七才
かめ	武藏野かめ	三十一才
小高	成澤たか	二十九才
牡丹	河東かつ	二十一才
千代子	藤井千代	二十四才
榮龍	小山内さき	三十才
富治	濱谷さみ	三十八才
しん	上林みや	三十才

力八	木下	奴	中村	二十才
お舟	中村	君太	鈴木	十八才
お蝶	中村	龍	中山	二十才
千枝	中村	子	佐藤	二十六才
萬龍	柴野	榮子	上林	十九才
勝丸	黒野	一龍	堺	十五才
松子	黒丸	子	平岡	十五才
富貴	柴野	艶子	堺	十五才
お八	中村	おそめ	中村	十五才
権八	古谷	千成	佐々木	二十三才
蝶子	柴野	登八	竹村	二十七才

二七四

▼蓬萊見番

蓬萊町百三十四番地にあり。明治三十七年の創立に係る。当初は三十四名の株式組織にして五拾圓株貳百株を募り當時の大株主は岡田銀太郎氏などにてありしが四十二年十二月解散することとなり暫らく精算人の手にあり。四十四年四月組織を變更して個人営業となす。本建物は四十年の大火類焼に罹り同年十二月新築落成したり。現今持主

は阿部九平治外二氏の共有にて貳拾貳名の藝妓を有す。

藝名	本名	年齢	藝名	本名	年齢
小新	中村しん	二十八才	友松	阿部しま	二十六才
小三代	中村はつ	十九才	つた子	藍澤きの	十八才
若吉	伊勢ちせ	二十三才	福助	山崎よし	十七才
小万	小田まき	十七才	小照	小野やす	十六才
梅吉	小野みよ	十六才	小魚	伊丸いそ	十五才
ぼん太	新川あき	十四才	きん魚	大郷やん	二十五才
妻助	坂野よし	十六才	はな吉	宇田まき	十五才
市松	菱田ちやう	十六才	ちやら子	山内あい	十五才
幸龍	五日市はる	十六才	小稲	齋藤はる	二十二才
小秀	小山ひさ	十五才	大吉	片岡はつ	十七才
万太	村上ぬい	十九才	三勝	引地たみよ	二十二才

娯楽場

▼池田座 明治十三年官命に依り先代谷地頭に一劇場を設立し池田座と稱せしが其年八月二十六日前十時西南の大暴風の爲めに小舎は吹き倒されしを以て更に地を賣町(舊一)